

建築と社会

Architecture and Society

07

vol.97 No.1132

2016

特集：

おもてなしと建築

The Hospitality and Architecture

01 大津関門
第一トンネル東口

02 高瀬川源流苑

高瀬川

03 廣誠院

04 水路閣と
ねじりまんぼ

05 無鄰菴

06 佳水園

07
行者橋

08

09

10

11

12

琵琶湖疏水

白川

出版委員会企画 第38回〈プロのノウハウ〉 講座

『直感で理解する！ 構造設計の基本』

この講座は、建築CPD情報提供制度認定プログラムです。
(公社)大阪府建築士会 (2単位)
(公社)日本建築家協会 (2単位)



企 画 (一社)日本建築協会
著 者 山浦晋弘
発行所 株式会社学芸出版社
発行日 2016年4月1日
体 裁 A5版・216頁
定 価 2,400円+税

日 時 2016年8月5日(金)
18:00~20:00
会 場 TOTOテクニカルセンター
大阪
大阪市中央区久太郎町3-6-8
御堂筋ダイワビル2階
地下鉄本町駅12番出口、南
へ徒歩4分。
※ビル北側のエントランス
よりエレベーターでお越
しください。

講 師 山浦晋弘
定 員 50名
受 講 料 会員1,000円、一般1,500円
学生1,000円

テキスト 『直感で理解する！構造設計
の基本』を使用します。
当日、定価2,592円(税込)
を、特価2,300円(税込)で
ご提供します。

申 込 み 下記を記載の上、メールか
FAXにてお申込みください。
①催し名「第38回プロのノ
ウハウ講座」
②ご氏名(ふりがな)
③ご所属
④会員・一般・学生の別
⑤受講票送付先住所(〒から)
⑥電話番号
⑦E-mailアドレス
⑧CPDを申請される方は申
請先団体名と番号

申 込 先 (一社)日本建築協会
担当：廣瀬
TEL：06-6946-6981
FAX：06-6946-6984
E-mail：hensyu2@aaj.or.jp

このほど、日本建築協会の企画により、
『直感で理解する！構造設計の基本』が
出版され、記念講演会を行うこととな
りました。

構造設計の入門書や解説書はたくさん
ありますが、構造力学や建築基準法で
定められた計算方法の解説が多く、実
際に造る建築物の視点から構造設計
を解説した本はありません。筆者は、
1984年より30年以上、大手設計事務
所の構造設計実務に携わり、またその
傍らで、大学の非常勤講師として「建
築構造学」や「構造設計演習」の講義
を行ってこられました。講義は、必ず
しも理系の学生だけではなく、文系の
学生も加わるので、その様な学生にも
難しい数式ではなく、感性に響く講義
を心掛けてこられた経験を生かしてま
とめた内容となっています。

若手構造設計者の方には、構造設計の
心得や実務を行う目の付け処をイラスト
や写真、図表を用いて平易な文章で
解説したものとなっています。デザイ
ナー・意匠設計者、現場施工技術者
の方にも構造設計との係わりを理解する
上で解り易く、お勤めしたい内容です。
実務に役立てて頂けることと確信いた
しております。

本講演会に参加頂き、構造的な感性を
磨く力を付けて頂ければと存じます。
是非ご参加下さい。

(出版委員会委員長・清水建設株式会社
関西支店建築技術部長 西 博康)



●山浦 晋弘 (やまうら のぶひろ)

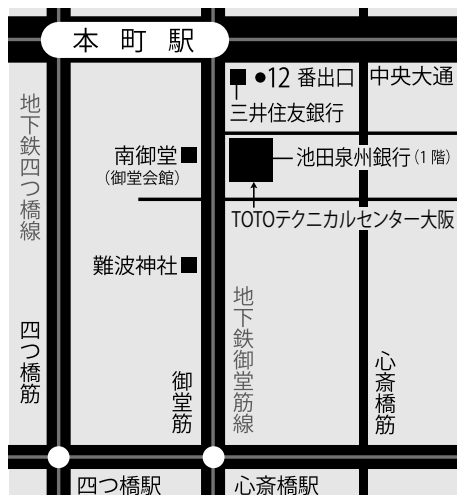
1958年大阪府生まれ。
1984年大阪市立大学大学院工学研究科
(建築学専攻)を卒業後、株式会社安井
建築設計事務所に入社、構造設計業務
に従事。

兵庫県立淡路医療センター、
BLOSSOM CAFÉ (近畿大学)、KIT
HOUSE (京都芸繊維大学)、和歌山
大学観光学部校舎、那覇空港国内線旅
客ターミナルビルなどを担当。

2010年より大阪市立大学非常勤講師、
2011年より大阪事務所構造部長。

■資格

一級建築士、構造設計一級建築士、
JSCA建築構造士、APECエンジニア、
被災建築物応急危険度判定士。



建築と社会

Architecture and Society

7

vol.97 No.1132

2016

特集予告

08 09
月 月
… …
UR 人口減少社会のまちづくり
60 周年記念特集 (仮)
(仮)

今月の表紙

行者橋 (1907)



琵琶湖疏水から分岐する白川。

その白川に架かる橋のひとつ。小さな石橋で、その幅は一人が通れる程度。欄干もなく、「渡る」という機能をシンプルに実現した橋である。

2列の御影石が渡されているが、その石がほんの少しだけ内側に傾けられていることが、その上を歩くと微かに体感できる。この微小な傾きによって、欄干がないのにも関わらず自然と渡ることができる。

ここから少し上流にいくと、2カ所、堰の跡がある。これは「白川児童プール」の跡である。以前は川の水を塞ぎ止め、子どもたちのための仮設プールにしていたとのこと。

プール跡からも橋からも、地域の生活と川の関係を読み取ることができる。

(多田正治)

表紙デザイン・撮影 多田正治
(多田正治アトリエ)

特集：おもてなしと建築

目次

【総論】

おもてなしと建築 | 藤森照信 20

【各論】

1 新しい旅の姿 寝台列車「瑞風」をデザインする | 浦 一也 24
2 公共トイレをまちのレストルームとしてデザインする | 小林純子 26
3 京都花街、舞妓さんのおもてなし | 西尾久美子 28
4 お茶、雑感 | 杉本貴志 30
5 食べる…食空間にまつわる話 | 橋本夕紀夫 32
6 名建築で もてなす ～宿に受け継がれる建築家の心～ | 稲葉なおと 34

【編集後記】 36

連載

会告 出版委員会企画 第38回〈プロのノウハウ〉講座『直感で理解する！構造設計の基本』
定時総会議決のお知らせ、通常理会議決のお知らせ、臨時理
事会議決のお知らせ、定時評議員会議決のお知らせ、平成
27年度事業報告、平成27年度決算報告、平成28年度事業計
画、平成28年度収支予算書、平成28年度正味財産増減予算
書、平成28年度日本建築協会役員会務分掌、平成28年度日本
建築協会評議員、平成28年度日本建築協会支部長、平成28年
度日本建築協会委員 6
第62回工高生デザインコンクール作品募集 54
日本建築協会東海支部主催 日月潭 ラルーに泊まる建築の
旅 (台湾)

作品作風 高知城歴史博物館 2
別府市公会堂 (別府市中央公民館・別府市市民会館) 4

gallery リノベーションでつくる街のシンボル 井池繊維会館
| 末村 巧 18

法令コーナー 屋上広告物全面禁止
芦屋市屋外広告物条例 7月1日施行 | 辻 宏治 37

再読 公園特集号 椎原兵市「天王寺公園の沿革と全貌」他
関西近代建築 (昭和9年4月号) | 山形政昭 38
— 論考・記事編 —

建築と社会を 藤井厚二「聴竹居」の保存と活用—建築の価値を社会的に
考える 共有していくプロセス— | 松隈 章 40

構造の頁 デザインと構造架構の融合 1 スパン高層建築物の構造設計
| 川口 恵 柴田宜伸 藤永直樹 44

入賞発表 第15回読者と選ぶ「建築と社会」賞 入賞発表 45

Member's U-35委員会企画 talk baton 07 活動報告 55
Forum U-35委員会企画 talk baton 08 活動報告 56

information グリ展/デトロイト美術館展～大西洋を渡ったヨーロッパの
名画たち～/ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳 わたしの国
貞/特別展「始皇帝と大兵馬俑」 58

月間の動き 平成28年5月 64



高知城歴史博物館

建築主 高知県
設計・監理 日本設計・若竹まちづくり研究所共同企業体
施工 清水・轟・入交特定建設工事共同企業体(建築主体工事)

歴史の国、高知の貴重な資料を守り、後世に確実に継承してゆく歴史博物館。城下町にある館として、高知城周辺の歴史的景観との調和を図りながら、歴史・文化・伝統、品格、質実、堅牢さを併せ持つ歴史博物館が望まれた。

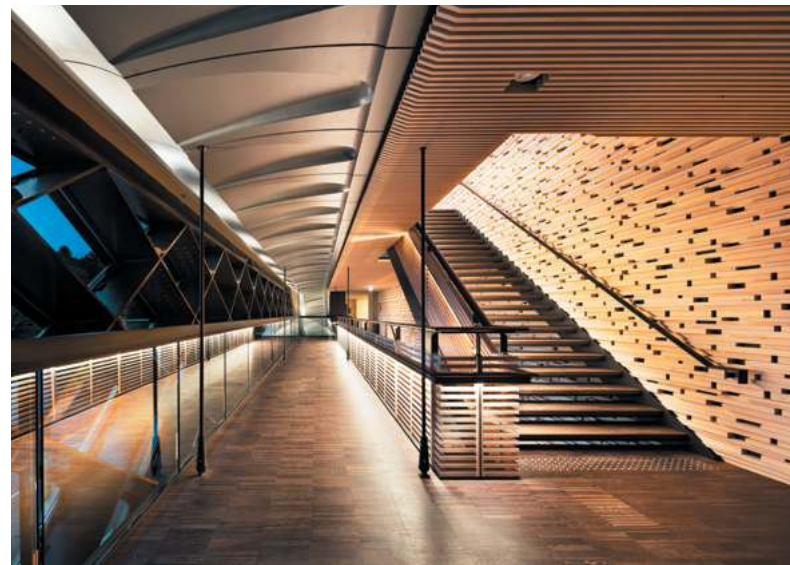
資料の保存・活用の両立、高度な博物館機能の確保、歴史・地域の架け橋、観光案内等、新たな景観形成の創出を促す建築性能を十分に持ち合わせ、高知県民のみならず、全ての来館者から愛され続ける博物館建築を目指してきた。人と資料を安全に守り続ける城下町博物館として、中間層免震構造の採用をし、大地震後の津波、洪水等での冠水対策を満足させる構造計画とした。

高知といえば、南国土佐の風、黒潮の海、くじらなどが想起される。独特の風土は、歴史的偉人を生み出す力を秘めている。この偉人たちから連想される広い視野、大らかさ、質実さが、感じられる博物館を目指してきた。

城を連想させてくれる石積には質実さを、大唐破風や大屋根は大らかさを、積層する菱鎧タイプのガラスCW面は、石積や太平洋に打ち寄せる波を感じさせてくれる。国家的にも重要な歴史的偉人たちにより残された歴史資料は、土佐の海と高知城から連想した宝船に大切に保存・収蔵され、守り続けられてゆく。

(松尾和生/日本設計)

※ 2017年(平成29年) 3月3日オープン





正面外観（大階段の復原）



北東外観



建設当初



今回改修前



全景

別府市公会堂

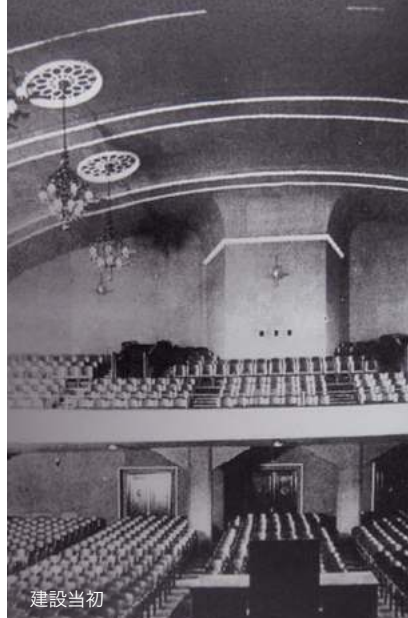
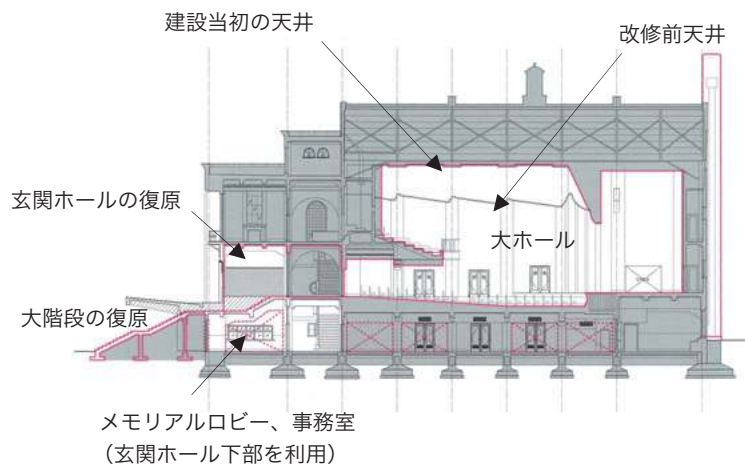
(別府市中央公民館・別府市市民会館)

建 築 主 別府市
 設計・監理 安井建築設計事務所
 施 工 三光・平野・幸建設工事共同企業体（建築）
 大分電設・唱和電工共同企業体（電気）
 小保・和光建設工事共同企業体（機械）

別府市公会堂は昭和3年、旧通信省技師であった吉田鉄郎氏の設計により、別府市制施行記念として建設された歴史的建物である。今日まで市民に愛され利用されてきた建物であるため、今回耐震補強工事を行うにあたり、その文化財的価値を損なうことなく、市民の方々に今後も利用され続けていくことを念頭に改修方針を定めた。耐震補強、バリアフリー化、外観においては撤去されていた正面外部大階段を復元し、内部空間でも大ホールを建設当初の空間にもどし、音響照明設備等の更新を図った。玄関ホールからホワイエにあたる広間空間等も当初の空間に復元し、空調電気設備等も全面的に改修を行った。市民の心に響く建物として今後も持続的に運営されていくことを期待する。

(勝原宏幸・永島敏郎／安井建築設計事務所)

所 在 地 別府市上田の湯町6番37番
 敷地面積 5,678.87㎡
 建築面積 1,219.18㎡
 延床面積 3,130.35㎡
 構造規模 RC造（一部S造）、地上3階・塔屋1階
 工 期 2014年10月～2016年2月
 最 寄 駅 JR日豊本線 別府駅
 撮 影 佐藤二郎



建設当初



改修前



大ホール



玄関ホール



メモリアルロビー



1階広間（右 事務室）

会 告 日本建築協会

定時総会議決の
お知らせ

平成28年6月15日開催の平成28年度定時総会において、下記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
平成27年度事業報告の件
(詳細P7)
- ・第2号議案
平成27年度決算報告の件
(詳細P9)
- ・第3号議案
平成27年度公益目的支出計画実施報告の件
- ・第4号議案
平成28年度事業計画の件
(詳細P13)

- ・第5号議案
平成28年度収支予算の件
(詳細P14)
- ・第6号議案
役員選任の件(詳細P16)
- ・第7号議案
名誉正会員の件

●今回退任された理事

領木 康雄氏 大阪ガス(株)
石井 祐司氏 東リ(株)
伴 治人氏 西松建設(株)

退任された理事の方には、長年にわたり会務遂行にご尽力いただきありがとうございました。

再任、新任の理事、監事はP16の会務分掌の表のとおりです。

●今回名誉正会員に指名された正会員

小宮 三辰氏

通常理事会議決の
お知らせ

平成28年6月15日開催の平成28年度第1回通常理事会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
平成27年度事業報告の件
(詳細P7)
- ・第2号議案
平成27年度決算報告の件
(詳細P9)
- ・第3号議案
平成27年度公益目的支出計画実施報告の件

- ・第4号議案
平成28年度事業計画の件
(詳細P13)
- ・第5号議案
平成28年度収支予算の件
(詳細P14)
- ・第6号議案
役員選任の件(詳細P16)
- ・第7号議案
名誉正会員の件

臨時理事会議決の
お知らせ

平成28年6月15日開催の平成28年度第1回臨時理事会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
会長選任の件
- ・第2号議案
役付役員選任の件
- ・第3号議案
常任理事、常設委員長委嘱の件

- ・第4号議案
理事の会務分掌の件
いずれもP16の会務分掌の表のとおりです。

定時評議員会議決の
お知らせ

平成28年6月6日開催の平成28年度定時評議員会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
評議員会議長互選の件

- ・第2号議案
役員(理事、監事)、候補者推薦の件

平成27年度事業報告

平成27年4月1日～平成28年3月31日

目 次

◎役員会等の開催状況

1. 総会、理事会、評議員会、常任理事会

- 定時総会 平成27年6月17日（水）
 ①平成26年度事業報告・収支決算報告
 ②平成26年度公益目的支出計画実施報告
 ③平成27年度事業計画・収支予算計画
 ④役員改選

第1回 通常理事会 平成27年6月17日（水）

- ①平成26年度事業報告・収支決算報告
 ②平成26年度公益目的支出計画実施報告
 ③平成27年度事業計画・収支予算計画
 ④役員改選

第2回 通常理事会 平成27年11月25日（水）

- ①平成27年度上半期事業執行状況報告

第1回 臨時理事会 平成27年6月17日（水）

- ①役付役員選任
 ②常任理事ならびに常設委員長の委嘱
 ③理事の会務分掌

定時評議員会 平成27年6月8日（月）

- ①議長、副議長改選
 ②役員等推薦

常任理事会 8回

- ①理事会提出議案の作成、理事会議決事項の処理
 ②協会の会務執行 など

2. 常設委員会

協会の事業を円滑に遂行するため、4つの常設委員会を設置している。

- (1) 編集委員会
 協会の会誌「建築と社会」の企画・編集のため、編集委員会を設置している。編集委員会は特集小委員会、作品作風小委員会、広告企画小委員会の3つの小委員会で構成されている。更に特集小委員会は計画分科会（計画系、建築計画系、インテリア・住宅系）と構造分科会、設備分科会、施工材料分科会、法令分科会の5つの分科会に分かれている。編集委員会は12回、特集小委員会を52回、作品作風小委員会10回、広告企画小委員会を12回開催した。

- (2) 事業委員会
 見学会や講演会、研修会などを企画する情報見学小委員会を7回開催し見学会を5回実施した。概ね35歳以下の若手みずから企画による催しものを行い、若手会員の増強と協会活動の活性化を目指すU-35小委員会を16回実施するとともに、委員相互の勉強会として、トークパトンを6回開催した。また、学生アイデアコンペティションを1回開催した。

- (3) 出版委員会
 建築に関する図書の企画・編集・刊行を行うため、11回開催した。

- (4) 教育委員会
 建築工事実務講習会の打ち合わせのため講習会小委員会や工高生のデザインコンクールを開くための工高生教育小委員会を運営しており6回開催した。また、講習会小委員会を3回開催した。大阪府や建築団体で構成する協議会が実施する諸行事に協力するため、大阪府住まいまちづくり普及協議会を11回開催した。

3. 特別委員会

協会の顕彰事業を円滑に遂行するため、3つの特別委員会を設置している。

- (1) 青年技術者選考委員会
 設計・計画、構造、設備、施工など建築に関連する分野から満35歳以下の青年技術者を顕彰するため、選考委員会を4月17日（金）に開催した。

- (2) 工高生デザインコンクール審査委員会
 工高生デザインコンクールは、工高生の設計技能向上のため、昭和30年創立以来毎年実施してきた。10月17日（土）に審査委員会を開催した。

- (3) 読者と選ぶ「建築と社会」賞選考委員会
 「建築と社会」に掲載された前年の作品、記事の中から社会性、環境などに配慮した建築作品や建築にかかわる論文や記事などを顕彰するため、選考委員会を4月20日（月）に開催した。

4. 100周年関連事業委員会

平成29年（2017年）の創立100周年関連事業を実施するため、委員会等を設置している。

- (1) 史料研究会
 史料研究会では「再読 関西近代建築—モダンエッジの建築遺産」と題して「建築と社会」誌の平成31年（2009年）4月号の第1回から、平成27年3月に終えるまでの72回にわたり、近現代の建築を取り上げ関西の建築遺産の豊かさを伝えてきた。平成28年1月から過去に「建築と社会」誌に取り上げてきた論考記事などを紹介、解説する新シリーズ「再読 関西近代建築—論考・記事編」の連載を始めた。その連載及び記念誌の内容を協議するため史料研究会を6回開催した。

- (2) 10年委員会
 次世代の建築界を担う人材の育成のため、ものづくりの実際を体感する建築現場見学会やまちづくりやまちおこしに役立てることを目的とした「大阪ええとこそうせい（創生）プロジェクト」を実施している。平成27年度は委員会を8回開催し、老舗ビルの誕生日を祝うイベントを企画し実施した。また、学生のための見学会を1回開催した。

- (3) 群像委員会
 群像委員会は関西の建築界のさまざまな分野の人を「建築と社会」誌に紹介する「関西の建築界/群像」を編集、企画のため、ミーティングや座談会を3回、インタビューを1回実施した。

平成21年（2009年）9月号から連載を開始しこの6月に終了するまで70回に及んだ。なお、群像委

員会は100年記念出版事業に向け衣替えした。

5. 創立100周年記念事業委員会

準備委員会を発展的に解消し、100周年記念事業の推進母体となる「創立100周年記念事業委員会」を4月に発足させた。委員会の下に幹事会を置きその下部組織として推進エンジンとなる「記念誌出版WG」、「式典WG」、「次世代WG」の3つのWGを立ち上げた。幹事会を10回、「記念誌出版WG」、「式典WG」、「次世代WG」を随時開催した。

◎事業の執行状況

1. 「建築と社会」誌の発行

「建築と社会」誌は、大正6年の創立以来協会活動の中核として、会員相互あるいは会員と社会を結ぶ役割を果たしている。毎月発行し会員の手に届けている。平成28年3月号で通巻1128号を数えるに至った。

発行月	特集内容	特集以外の主な内容
4月号	第21回会員作品「私の空間作法」	○作品作風 ○galley
5月号	あかり・文化・創造	○法令コーナー
6月号	これからの学びのかたち	○構造・設備の頁
7月号	第62回青年技術者	○再読関西近代建築—論考・記事編（1月号から）
8月号	建築の価値	○建築と社会を考える（10月号から）
9月号	空き家と向き合う	○メンバーズフォーラム
10月号	職人がいなくなる!!オゾンビックと10年後に備えて	○新製品レビュー
11月号	形態にあらわれた構造	○インフォメーションなど
12月号	図面を変える～BIMの深化が誘う建設プロセスの変革～	
1月号	都市の記憶をたどって	
2月号	非日常の棲み処～寝泊まりの進化	
3月号	東海支部特集	

2. 講演会の開催

今話題の建築物や構造物、都市問題など様々なジャンルを対象にエピソードや苦労話、ノウハウなどを聞く講演会を毎年開催している。平成27年度は2回開催した。

安心な住まいとまちをささえる「建築家と建築士」の役割と語る 平成27年6月13日（土）80名
 (NPO)西山卯三記念すまい・まちづくり文庫、(公社)大阪府建築士会、(一社)大阪府建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会近畿支部共同主催
 日本大学教授 速水 清孝

定時総会記念講演 平成27年6月17日（水）50名
 「持続可能社会に向けた大阪大都市圏のグリーン・インフラと風景づくり」
 公立大学法人大阪府立大学大学院教授 緑地環境科学専攻 増田 昇

3. 見学会の実施

著名建築物や近代建築などの見学会を6回開催した。
 ・武庫川女子大学看護学校館学校科学館見学会
 平成27年4月25日（土）26名

- ・新ダイヤビル見学会
 平成27年7月31日（金）35名
- ・学生のための現場見学会「（仮称）城東区複合施設建設工事」
 平成27年9月25日（金）19名
- ・市立吹田サッカースタジアム見学会
 平成27年10月24日（土）36名
- ・立命館大学大阪いばらきキャンパス見学会
 平成27年11月14日（土）20名
- ・「大徳寺三玄院の墓庵と玉林院の養庵・霞床席」茶室見学会
 平成28年3月23日（水）35名

4. 建築工事実務講習会の開催

昭和32年以降、毎年主として中堅クラスの建築技術者を対象に標記講習会を実施している。平成27年度は平成28年1月13日（水）に1回実施した。参加者は86名。

5. 顕彰事業の実施

- (1) 青年技術者の顕彰
 昭和29年度から毎年実施している。今回は23名を顕彰した。顕彰者を称え激励するため、総会後に表彰式を行った。
- ・設計・計画部門 12名
 赤川貴世友、大西広明、尾杉友浩、久保久志、小林 靖、篠木大輔、鈴木星雄、砂川 善、太治大輔、平野章博、三谷帯介、森下大石
 - ・構造部門 4名
 石山達士、佐々木隆允、芹澤好徳、田中宏樹
 - ・設備部門 5名
 瓜生陵太、津村昌伸、前川直也、松下 文、松島孝幸
 - ・施工部門 2名
 藤本俊宏、浦田知昭
- (2) 読者と選ぶ「建築と社会」賞の顕彰
 作品部門4点、論考部門2点、今回新たに作品の企画や活動報告、寄稿等にスポットあてた審査員特別賞1点を選び総会後に表彰式を行った。

- ・作品部門
 ①浜松信用金庫きりりタウン支店
 建築主 浜松信用金庫
 設計 (株)日建設計
 施工 木内建設(株)
- ②あべのハルカス
 建築主 近鉄不動産(株)
 設計 (株)竹中工務店
 施工 竹中工務店・奥村組・大林組・大日本土木・銭高組共同企業体

- ③アステラス製薬 加島事業場厚生棟
 建築主 アステラス製薬(株)

- 設計 清水建設(株)関西事業本部一級建築士事務所
- 施工 清水建設(株)
- ④神戸海星女子学院中学校・高等学校
 建築主 (学友)海星女子学院
 設計 (株)竹中工務店
 施工 (株)竹中工務店

・論考部門

①建築と時間

東京大学名誉教授 内藤 廣

- ②かたちとサイズ 力感謝ふたたび

(一財)日本建築総合試験所上席調査役 長瀬 正

・審査員特別賞

特集「でっかいものはすごいぞ」編集委員会 構造分科会

(3) 優秀卒業生の表彰

優秀な建築系学科卒業生を表彰することにより、研鑽意欲の向上を促し、激励するため昭和27年から実施している。平成27年度は、工業高校や専門学校など30校48名を表彰した。

6. コンクールの実施

(1) 工高生デザインコンクールの実施

平成27年度で61回を数える。平成27年度は19校84点の応募があり、10作品12名を表彰した。

・最優秀賞

田中聖也、岡田直樹

・優秀賞

池 美優、藤井真樹、伊藤勇哉

・入選

泉 佳佳、植田 豊、笠原楓恋、北岡彩那、鈴木千広、辻 七加、矢口くるみ

(2) 「新ええとこ」提案コンクールの実施

普段見過ごされそうなまちの資源を発掘し、「こうしたらもっとよくなる」「もっといきいきする」等のアイデアを創立100周年まで様々なテーマで募集することにより、まちづくりや町おこし賑わいづくりに役立てていくことを目的に実施している。

平成28年3月には、平成26年度に実施した『続ええとこ』そぞろ歩く御堂筋コンクールで選ばれた同名提案を社会実験として、御堂筋の老舗ビルの誕生日を祝う「Happy Birthday dear A building!」をガストビル南館及び御堂ビルで開催した。

7. 出版物の刊行

時代のニーズに即した新しい著書の発掘を第一とし、建築に関する図書の企画・編集・刊行を行っており、昭和27年以來多くの図書を出版してきた。「建築技術選書」と「プロのノウハウ」シリーズはその代表である。

平成27年度は、「プロのノウハウ」シリーズ「写真マンガでわかる工務店のクレーン対応術」を発行した。また、シリーズ以外で「直感で理解する！構造設計の基本」を刊行した。

8. 共催、後援、協賛事業

協会の事業主旨に合致する事業に共催、後援・協賛した。

(1) 共催

- ・大阪府都市景観建築賞
 大阪府、大阪市、(公社)大阪府建築士会、(一社)大阪府建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会近畿支部、(一社)日本建築協会
- ・大阪府知事指定講習 改正建築基準法及び改正建築士法の解説講習会
 (公社)大阪府建築士会、(一社)大阪府建築士事務所協会 (公社)日本建築家協会近畿支部、(一社)日本建築協会

(2) 後援

- ・LIVING&DESIGN2015 (一社)L&D
- ・建築技術講習会「中山寺五重塔再建工事」他1件 (公社)大阪府建築士会
- ・建築学生ワークショップ高野山2015 (NPO)アートアンドアーキテクトフェスタ
- ・2015年児童画展 (一社)大阪府建築士事務所協会
- ・第1回防災まちづくり講演会
 (一社)大阪府建築士事務所協会
- ・講習会「伝統木造を中心とした耐震技術」他1件 (公社)大阪府建築士会
- ・オトナ工芸魂展2015
 大阪工芸会 オトナ工芸魂展2015
- ・まちあるきプロジェクト「ぶらり大阪「景観」ウォーク天王寺区編」
 (一社)大阪府建築士事務所協会
- ・開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会
 (一社)大阪府建築士事務所協会・(一社)日本建築士事務所協会連合会
- ・第5回人間—生活環境系国際会議、ICHES2016 Nagoya
 第5回人間—生活環境系国際会議、ICHES2016 Nagoya
- ・第三回福祉住環境サミット
 (一社)福祉住環境アソシエーション
- ・講習会「特定天井の耐震化対策」他1件 (公社)大阪府建築士会
- ・「マイナンバーへの対応」研修会
 (一社)大阪府建築士事務所協会
- ・「2015年版建築物の構造関係技術基準解説書」講習会
 (一社)大阪府建築士事務所協会・(一社)日本建築士事務所協会連合会
- ・建築材料・住宅設備総合展 KENTEN2016
 (一社)日本建築材料協会
- ・講習会「建築における板ガラス」他1件 (公社)大阪府建築士会
- ・BELCAセミナー「BELCA賞受賞建築物におけるロングライフビルへの取り組み」
 (公社)ロングライフビル推進協会

- ・関西建設人ゴルフ大会 関西建設人ゴルフ大会委員会
- ・「楨文彦展」及び「楨文彦講演会」
(公社)大阪府建築士会
- ・第2回防災まちづくり講演会
(一社)大阪府建築士事務所協会
- ・「2015 構造設計Q & A集」講習会一知っておきたい構造設計の実務上のポイント
(一社)大阪府建築士事務所協会
- ・建築学生ワークショップ明日香村2016
(NPO)アートアンドアーキテクトフェスタ
- ・講習会「これだけでわかる 建築基準法！」
(公社)大阪府建築士会
- ・講演会「蒸暑地域「沖縄」に学ぶ住まいづくり」～南の島から学ぶ高断熱高気密住宅の行方～
(NPO)西山卯三記念 すまい・まちづくり文庫
- ・特集展示「郷土建築へのまなざしと日本建築協会」
大阪歴史博物館
- (3) 協賛
 - ・平成27年度「住生活間」 住生活間実行委員会
 - ・平成27年度 (第25回) 大阪府公共建築設計コンクール「あすなろ夢建築」 大阪府他
 - ・Japan Home & Building Show2015
(一社)日本能率協会
 - ・建築・建材展2016 日本経済新聞社
 - ・第39回人間－生活環境系シンポジウム
人間－生活環境系学会
 - ・講演会「建築紛争の現状と課題 (その4)」一大阪地方裁判所における建築裁判からー
(一社)日本建築学会近畿支部
 - ・シンポジウム「デジタル・コンストラクションーBIM施工革新の展望一」(一社)日本建築学会近畿支部
 - ・平成28年度1級・2級建築施工管理技術検定試験受験講習会 (一財)地域開発研究所
- 9. 建築関係団体との交流、連携
建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を積極的に推進するため、平成21年度から関西建築4団体 (大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会) で構成する会長・支部長懇談会に3回出席した。
- 10. 工事請負契約約款事業
民間 (旧四会) 連合協定工事請負契約約款委員会に委員を派遣するとともに、引き続き「民間 (旧四会) 連合協定工事請負契約約款」及び「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」、「民間 (旧四会) 連合協定リフォーム工事請負契約書類 (書式・約款)」を販売した。
- 11. 役員派遣
大阪商工会議所に2号議員として役員1名を派遣した。

Ⅱ 支 部	
(中国支部)	
◎役員会等の開催状況	
1 総会、常議員会、幹事会の開催	
定時総会 平成27年5月11日 (月)	
①平成26年度事業報告	
②平成26年度収支決算報告及び監査報告	
③平成27年度事業計画 (案)	
④平成27年度収支予算計画 (案)	
⑤役員改選 (案)	
⑥建築施工技術研究委員会活動報告	
第1回 常議員会 平成27年4月22日 (水)	
①平成26年度事業報告	
②平成26年度収支決算報告及び監査報告	
③平成27年度事業計画 (案)	
④平成27年度収支予算計画 (案)	
⑤役員改選 (案)	
⑥建築施工技術研究委員会活動報告	
⑦平成27年度支部総会開催 (案)	
第1回 幹事会 平成27年7月15日 (水)	
①中国支部総会報告	
②講演会 (姫路城保存修理工事) 報告	
③平成27年度通常理事会・総会・臨時理事会報告	
④平成27年度若手・新入社員技術講習会報告	
⑤中堅社員技術講習会	
⑥東海支部交流会報告	
第2回 幹事会 平成27年11月21日 (土)	
①27年度収支中間報告	
②中堅社員技術講習会報告	
③実務講習会について	
④東海支部交流会 (合同セミナー・懇親会)	
⑤その他	
第3回 幹事会 平成27年12月16日 (水)	
①27年度収支中間報告	
②中堅社員技術講習会報告	
③実務講習会	
④東海支部交流会 (合同セミナー懇親会) 報告	
⑤会長・副会長・常任理事・支部長会議及び通常会議報告	
⑥28年度技術講習会の日程	
⑦その他	
第4回 幹事会 平成28年3月16日 (水)	
①27年度決算報告	
②28年度事業計画 (案) 報告	
③支部総会常議委員会	
④実務講習会報告	
⑤100周年記念	
⑥その他	

- ◎事業の執行状況
- 1. 講演会の開催
美しく生まれ変わった世界遺産国宝姫路城について、保存修理工事の舞台裏や建設にまつわるエピソードを聞く講演会を開催した。
 - ・タイトル: 国宝姫路城大天守保存修理工事「白鷺を現代に」伝統と革新の融合
- ・講師: 鹿島建設㈱姫路城大天守保存修理JV工事事務所所長 河原 茂生
- ・講演 日: 平成27年5月11日 (月)
- ・参加 者: 71名
- 2. 若手・新入社員技術講習会の開催
平成27年5月28日 (木) 実施。参加者は26名。
 - ①若手・新入社員の心構え 講師: 尾野本 悟 (広島工業大学教授)
 - ②初歩の積算 講師: 八道 憲一 (鹿島建設㈱中国支店次長)
 - ③準備・仮設工事の工事管理 講師: 松山 和生 (㈱大林組広島支店副部長)
 - ④鉄筋・コンクリート工事のポイント 講師: 井上昇 (清水建設㈱広島支店工事長)
 - ⑤交流会
- 3. 中堅社員技術講習会の開催
平成27年10月23日 (金) 実施。参加者は47名。
 - ①建設業の安全管理
 - ②電気設備工事の品質管理
 - ③給排水衛生・空調設備工事の施工品質
 - ④設計・監理・施工者のための建築消防検査トラブル予防
 - ⑤交流会
- 4. 建築工実務講習会の開催
平成28年2月18日 (木) 実施。受講者は33名。
 - ①施工計画 講師: 井上 昇 (清水建設㈱広島支店工事長)
 - ②仮設見積 講師: 尾野本 悟 (広島工業大学教授)
 - ③積算業務 講師: 横段 隆弘 (横段建築事務所)
 - ④交流会
- 5. 工事請負契約約款事業
「民間 (旧四会) 連合協定工事請負契約約款」及び「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」、「民間 (旧四会) 連合協定リフォーム工事請負契約書類 (書式・約款)」を販売した。

- (東海支部)
- ◎役員会等の開催状況
- 1 総会、常議員会、幹事会の開催
- 定時総会 平成27年5月29日 (月)
- ①平成26年度事業報告・収支決算報告
- ②平成27年度事業計画・収支予算計画
- ③役員改選
- ④支部規程
- 第1回 常議員会 幹事会 平成27年4月27日 (月)
- ①平成27年度予算
- ②平成27年度総会案内
- ③(本部起家) 平成26年度実績記載依頼の件
- ④総会講演会と案内はがき
- ⑤各常置委員会活動報告
- 第2回 常議員会 幹事会 平成27年5月29日 (月)
- ①平成27年度支部総会
- ②平成26年度事業報告・収入支出決算
- ③平成27年度事業計画
- ④当日の段取り
- 第3回 常議員会 幹事会 平成27年6月23日 (火)
- ①平成27年度常置委員会構成
- ②平成27年度定時総会収支
- ③各常置委員会活動報告
- ④平成28年度新年互礼会準備
- 第4回 常議員会 幹事会 平成27年7月29日 (水)
- ①平成27年度常置委員会構成
- ②支部復活55周年記念事業計画
- ③各常置委員会活動報告
- ④平成28年度新年互礼会準備
- 第5回 常議員会 幹事会 平成27年8月21日 (金)
- ①支部復活55周年記念事業計画
- ②常置委員会活動報告
- ③平成28年度新年互礼会準備
- 第6回 常議員会 幹事会 平成27年9月17日 (木)
- ①支部復活55周年記念事業計画
- ②2015年度の会員名簿前段記事
- ③常置委員会活動報告
- 第7回 常議員会 幹事会 平成28年10月22日 (木)
- ①支部復活55周年記念事業計画
- ②本部報告「平成27年度上半期 (4～9月) 事業報告内容
- ③常置委員会活動報告
- 第8回 常議員会 幹事会 平成27年11月19日 (木)
- ①支部復活55周年記念事業計画
- ②建築と社会2016年3月東海特集号、「東海の建築」82・83号
- ③2015年度の会員名簿前段記事
- ④常置委員会活動報告
- 第9回 常議員会 幹事会 平成27年12月3日 (木)
- ①支部復活55周年記念事業報告
- ②建築と社会2016年3月東海特集号、「東海の建築」82・83号
- ③常置委員会活動報告
- ④建築8団体新年互礼会進行事前打合
- 第10回 常議員会 幹事会 平成28年1月13日 (水)
- ①建築と社会2016年3月東海特集号
- ②平成28年度計画
- ③平成27年度決算見込み、平成28年度予算審議
- ④常置委員会活動報告
- 第11回 常議員会 幹事会 平成28年2月19日 (金)
- ①実務講習会収支報告
- ②平成27年度決算見込み、平成28年度予算審議
- ③平成28年度支部役員人事
- ④常置委員会活動報告
- 第12回 常議員会 幹事会 平成28年3月17日 (木)
- ①平成28年度事業計画審議
- ②平成28年度支部総会案内
- ③平成28年度支部役員人事

- ④常置委員会活動報告
- 2. 常置委員会の開催
支部の事業を円滑に遂行するため、これまで6つの委員会で運営してきたが、会員委員会、編集委員会を総務委員会の下に組み込み今年度より活動している。
 - (1) 総務委員会 (総務担当)
平成27年度総会準備および平成26年度決算、平成27年度予算作成のため5回開催した。
(編集担当)
「東海の建築」第82・83号構成・手配のため2回開催した。
(会員担当)
会員名簿、協賛会社名簿手配、確認のため5回開催した。
(東海特集特別編集担当)
東海特集構成や本部との調整、執筆者との打ち合わせなど5回開催した。
 - (2) 事業委員会
支部復活55周年記念見学会候補検討のため4回開催した。
 - (3) 研修委員会
建築工実務講習会日時、講師検討・手配準備、講師打合会の準備、および運営準備や、平成28年建築8団体新年互礼会準備のため5回開催した。

- ◎事業の執行状況
- 1. 支部機関紙「東海の建築82、83号」の発行 (12月)
- 2. 見学会の実施
 - ・名古屋大学滅災館見学会平成27年5月16日 (土) 実施、参加者20名
 - ・東海支部復活55周年記念見学会「晩秋の備後路と安芸路の散策ー中国支部との合同セミナー交流懇親会も兼ねて」平成27年11月21日～22日実施、参加者23名
 - ・あいichi小児保健医療総合センター救急棟」平成28年1月23日実施、参加者42名
- 3. 建築工実務講習会の開催
平成28年1月28日 (木) 実施。参加者は59名。
 - ①施工計画 講師: 日吉 智紀 (清水建設名古屋支店)
 - ②仮設見積 講師: 福井 浩二 (大林組名古屋支店)
 - ③積算業務 講師: 時武 治 (竹中工務店名古屋支店)
- 4. 支部会員名簿の発行
平成27年11月30日に東海支部会員名簿2015年度を発行。
- 5. 「建築と社会」3月号東海特集の編集事業
平成28年3月号の企画、編集を担当。タイトルは「『社会と建築』・東海での活動を考える」とした。この企画では、建築を供給する5つの立場、
 - 【設計】【施工】【メーカー】【研究・教育】【行政】が参加する座談会を開催した。
 - 座談会1: 設計技術と施工～3次元CAD利用による建物づくり～
 - 座談会2: 教育と建築～参加型設計施工プロセスの活用を通して～
 - 座談会3: 建築の再利用と地域活性ー建築文化財の保存とリノベーション・市民活用「作品作風」では東海3県下などの建築作品15点、スケッチブックでは支部会員作品8点を紹介した。
- 6. 建築関係団体との交流、連携
建築8団体 (愛知建築士会、愛知県建築士事務所協会、日本建築家協会東海支部愛知地域会、日本建築学会東海支部、日本建築構造技術者協会中部支部、日本積算協会東海北陸支部、愛知県設備設計監理協会、日本建築協会東海支部) 連絡協議会に6回出席した。1月8日に8団体共催の新年互礼会を「名古屋国際ホテル」で開催し幹事団体を担当。参加者は271名であった。

- (京都支部)
- ◎役員会等の開催状況
- 1 総会、常議員会、幹事会の開催
- 定時総会 平成27年7月15日 (水)
- ①平成26年度事業報告・収支決算報告
- ②平成27・28年度京都支部役員の選任の件
- ③平成27年度事業計画・収支予算計画
- 役員会 平成27年6月26日 (金)
- ①通常総会の運営
- ②その他
 - ・京都支部会員数
 - ・アンケート結果
- 常議員会幹事会 開催していない

- ◎事業の執行状況
- 1. 見学会の実施
仁和寺現地見学・講習会を平成27年11月9日 (月) に実施。参加者18名。
京町家: 生谷家住宅主屋見学・研修会を平成28年1月30日 (土) に実施。参加者17名。
- 2. 2級建築士受験講習会の開催
京都府建築士会共催「製図 (基本・応用)」平成27年7月12日 (日)～9月6日 (日) 受講者: 12名
 - ①2級受験講習会 製図 (基本) 2日間
講 師: 福井基文/福井一級建築士事務所
京都府建築士会事業委員会委員
 - ②製図 (応用) 延べ6日間
講 師: 福井基文/福井一級建築士事務所
京都府建築士会事業委員会委員
- 3. 工事請負契約約款事業
「民間 (旧四会) 連合協定工事請負契約約款」及び「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」、「民間 (旧四会) 連合協定リフォーム工事請負契約書類 (書式・約款)」を販売した。

平成27年度決算報告

貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	23,975,662	27,654,972	-3,679,310
貯蔵品	39,009	42,089	-3,080
未収入金	2,111,950	1,075,250	1,036,700
前払費用	2,157,286	824,862	1,332,424
仮払金	58,330	66,152	-7,822
流動資産合計	28,342,237	29,663,325	-1,321,088
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	27,000,000	27,000,000	0
事業基金積立預金	29,000,000	29,000,000	0
退職給付引当資産	9,088,348	9,088,348	0
特定資産合計	65,088,348	65,088,348	0
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260	111,260	0
投資有価証券	447,963	447,879	84
保証金	3,527,250	3,527,250	0
その他固定資産合計	4,086,473	4,086,389	84
固定資産合計	69,174,821	69,174,737	84
資産合計	97,517,058	98,838,062	-1,321,004
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	455,662	1,427,164	-971,502
前受金	7,107,114	7,874,348	-767,234
預り金	110,450	115,761	-5,311
流動負債合計	7,673,226	9,417,273	-1,744,047
2. 固定負債			
退職給付引当金	8,118,590	9,028,881	-910,291
固定負債合計	8,118,590	9,028,881	-910,291
負債合計	15,791,816	18,446,154	-2,654,338
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	81,725,242	80,391,908	1,333,334
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
	(56,969,758)	(56,059,467)	(910,291)
正味財産合計	81,725,242	80,391,908	1,333,334
負債及び正味財産合計	97,517,058	98,838,062	-1,321,004

正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	33,435,684	33,663,775	-228,091
個人正会員受取会費	9,092,100	9,207,075	-114,975
個人正会員（地方）受取会費	730,950	827,400	-96,450
団体正会員受取会費	23,595,834	23,612,500	-16,666
準会員受取会費	16,800	16,800	0
事業収益	24,859,163	29,686,351	-4,827,188
事業収益	23,774,433	29,001,551	-5,227,118
事業雑収益	1,084,730	684,800	399,930
雑収益	427,307	185,997	241,310
経常収益計	58,722,154	63,536,123	-4,813,969
(2) 経常費用			
事業費	38,748,712	42,745,675	-3,996,963
給料・手当	13,882,367	14,640,338	-757,971
法定福利費	2,802,510	2,952,352	-149,842
事業費	21,547,252	24,964,450	-3,417,198
事業雑費	516,583	188,535	328,048
管理費	19,095,618	19,263,166	-167,548
給料・手当	4,627,456	4,883,632	-256,176
退職給付費用	503,709	456,679	47,030
法定福利費	934,170	984,117	-49,947
福利厚生費	15,000	21,000	-6,000
助成費	0	0	0

科 目	当年度	前年度	増 減
会議費	1,661,231	1,697,991	-36,760
旅費交通費	222,220	191,515	30,705
通信運搬費	430,707	449,380	-18,673
集金費	489,942	491,002	-1,060
消耗品費	1,787,132	1,424,513	362,619
備品購入費	33,480	0	33,480
修繕費	1,760	2,504	-744
印刷製本費	0	63,720	-63,720
光熱費	211,057	213,814	-2,757
火災保険料	21,710	21,710	0
租税公課	950,200	1,108,300	-158,100
建物管理費	4,257,144	4,269,849	-12,705
事務委託費	1,370,736	1,370,736	0
雑費	1,577,964	1,612,704	-34,740
経常費用計	57,844,330	62,008,841	-4,164,511
当期経常増減額	877,824	1,527,282	-649,458
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
退職給付引当金戻入	455,510	516,146	-60,636
経常外収益計	455,510	516,146	-60,636
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	455,510	516,146	-60,636
当期一般正味財産増減額	1,333,334	2,043,428	-710,094
一般正味財産期首残高	80,391,908	78,348,480	2,043,428
一般正味財産期末残高	81,725,242	80,391,908	1,333,334
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	81,725,242	80,391,908	1,333,334

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
その他の有価証券 時価のあるもの……期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）によっている。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
什器備品……定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
退職給付引当金……期末退職給与の要支給額を引当てている。
- (4) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	0	0	0	0
特定資産				
記念事業積立預金	27,000,000	0	0	27,000,000
事業基金積立預金	29,000,000	0	0	29,000,000
退職給付引当資産	9,088,348	0	0	9,088,348
小 計	65,088,348	0	0	65,088,348
合 計	65,088,348	0	0	65,088,348

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
小 計	0	—	—	—
特定資産				
記念事業積立預金	27,000,000	—	(27,000,000)	—
事業基金積立預金	29,000,000	—	(29,000,000)	—
退職給付引当資産	9,088,348	—	(969,758)	(8,118,590)
小 計	65,088,348	—	(56,969,758)	(8,118,590)
合 計	65,088,348	—	(56,969,758)	(8,118,590)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,112,560	1,001,300	111,260
合 計	1,112,560	1,001,300	111,260

付属明細書

1. 基本財産及び特定資産の詳細

財務諸表に対する注記2に記載しているため、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	9,028,881	503,709	958,490	455,510	8,118,590

財産目録

平成28年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	23,975,662		
現金手許有価証券	84,474		
普通預金 三井住友銀行大阪中央支店	3,328,691		
普通預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	7,355,303		
普通預金 りそな銀行北浜支店	3,734,204		
郵便振替口座 マーチンダイズビル内支店	4,803,251		
普通預金 郵貯銀行マーチャングイズビル内支店	38,041		
普通預金 広島銀行本川支店	1,252,366		
普通預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	711,120		
普通預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	1,008,661		
定期預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	1,505,331		
普通預金 みずほ銀行京都中央支店	63,144		
普通預金 郵貯銀行御池柳馬場支店	85,198		
郵便振替口座 御池柳馬場支店	5,878		
貯蔵品	39,009		
切手・はがき	39,009		
未収入金	2,111,950		
会誌収入	1,350,300		
個人正会員会費収入	604,800		
地方会員会費収入	56,850		
団体正会員会費収入	100,000		
前払費用	2,157,286		
集金費	2,400		
記念事業費	2,154,886		
仮払金	58,330		
見学会・会議保険料	58,330		
流動資産合計		28,342,237	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計		0	
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	27,000,000		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	11,000,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	13,000,000		
定期預金 三井住友銀行大阪中央支店	1,000,000		
普通預金 りそな銀行北浜支店	2,000,000		
事業基金積立預金	29,000,000		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,000,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	20,000,000		
退職給付引当資産	9,088,348		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,088,348		
特定資産合計	65,088,348		
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260		

科 目	金 額		
書棚1式	111,260		
投資有価証券	447,963		
中期国債ファンド 三菱UFJモルガン・スタンレー証券	447,963		
保証金・敷金	3,527,250		
本部事務所賃貸契約による保証金	3,436,650		
京都支部事務所賃貸敷金	90,600		
その他固定資産合計	4,086,473		
固定資産合計		69,174,821	
資産合計			97,517,058
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	455,662		
会誌発行費	86,678		
会議保険料	2,784		
集金費	4,800		
租税公課	361,400		
前受金	7,107,114		
個人正会員会費収入	2,433,600		
団体正会員会費収入	4,397,914		
地方会員会費収入	190,800		
準会員会費収入	16,800		
会誌収入	68,000		
預り金	110,450		
給与源泉税預り	13,965		
報酬源泉税預り	96,312		
印税預かり	173		
流動負債合計		7,673,226	
2. 固定負債			
退職給付引当金	8,118,590		
固定負債合計		8,118,590	
負債合計			15,791,816
正味財産			81,725,242

収支計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
会費収入	32,218,161	33,435,684	0	33,435,684	-1,217,523
個人正会員	8,716,816	9,092,100	0	9,092,100	-375,284
個人正会員（地方）	822,545	730,950	0	730,950	91,595
団体正会員	22,662,000	23,595,834	0	23,595,834	-933,834
準会員	16,800	16,800	0	16,800	0
支部活動収入	1,435,200	1,435,200	-1,435,200	0	1,435,200
事業収入	25,695,000	26,491,863	-1,632,700	24,859,163	835,837
事業収入	24,853,000	25,407,133	-1,632,700	23,774,433	1,078,567
事業雑収入	842,000	1,084,730	0	1,084,730	-242,730
雑収入	185,800	427,307	0	427,307	-241,507
雑収入（支部正味財産繰入収入）	0	0	0	0	0
前受金収入	0	7,100,865	0	7,100,865	-7,100,865
前払費用収入	0	824,862	0	824,862	-824,862
仮払金収入	0	680,814	0	680,814	-680,814
預り金収入	0	3,964,479	0	3,964,479	-3,964,479
貯蔵品収入	0	3,080	0	3,080	-3,080
事業活動収入計	59,534,161	74,364,154	-3,067,900	71,296,254	-11,762,093
2. 事業活動支出					
事業費支出	38,939,457	40,381,012	-1,632,300	38,748,712	190,745
事業関係人件費支出	17,147,457	16,684,877	0	16,684,877	462,580
事業費支出	21,562,000	23,179,552	-1,632,300	21,547,252	14,748
事業雑支出	230,000	516,583	0	516,583	-286,583
管理費支出	21,957,807	20,985,999	-1,435,600	19,550,399	2,407,408
管理関係人件費支出	5,715,819	5,561,626	0	5,561,626	154,193
退職給付支出	958,490	958,490	0	958,490	0
福利厚生費支出	25,000	15,000	0	15,000	10,000
助成費支出	1,435,200	1,435,200	-1,435,200	0	1,435,200

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
会議費支出	1,850,000	1,661,231	0	1,661,231	188,769
旅費交通費支出	308,000	222,220	0	222,220	85,780
通信運搬費支出	510,000	431,107	-400	430,707	79,293
集金費支出	500,340	489,942	0	489,942	10,398
消耗品支出	1,822,945	1,787,132	0	1,787,132	35,813
備品購入費支出	120,000	33,480	0	33,480	86,520
修繕費支出	20,000	1,760	0	1,760	18,240
印刷製本費支出	30,000	0	0	0	30,000
光熱費支出	220,000	211,057	0	211,057	8,943
火災保険料支出	25,000	21,710	0	21,710	3,290
租税公課支出	998,800	950,200	0	950,200	48,600
建物管理費支出	4,300,000	4,257,144	0	4,257,144	42,856
事務委託費支出	1,370,736	1,370,736	0	1,370,736	0
雑支出	1,747,477	1,577,964	0	1,577,964	169,513
記念事業費支出	150,000	0	0	0	150,000
前受金支出	0	7,868,099	0	7,868,099	-7,868,099
預り金支出	0	3,969,790	0	3,969,790	-3,969,790
前払費用支出	0	2,157,286	0	2,157,286	-2,157,286
仮払金支出	0	672,992	0	672,992	-672,992
貯蔵品支出	0	0	0	0	0
事業活動支出計	61,047,264	76,035,178	-3,067,900	72,967,278	-11,920,014
事業活動収支差額	-1,513,103	-1,671,024	0	-1,671,024	157,921
Ⅱ 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
特定資産取崩収入					
退職給付引当資産取崩収入	958,490	0	0	0	958,490
記念事業積立預金取崩収入	150,000	0	0	0	150,000
投資活動収入計	1,108,490	0	0	0	1,108,490
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	0	0	0	0	0
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	0	0
記念事業積立預金支出	0	0	0	0	0
事業基金積立預金支出	0	0	0	0	0
中期国債ファンド積立支出	0	84	0	84	-84
保証金支出	0	0	0	0	0
投資活動支出計	0	84	0	84	-84
投資活動収支差額	1,108,490	-84	0	-84	1,108,574
Ⅲ 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0
Ⅳ 予備費支出					
当期収支差額	-404,613	-1,671,108	0	-1,671,108	1,266,495
前期繰越収支差額	27,303,058	27,303,058	0	27,303,058	0
次期繰越収支差額	26,898,445	25,631,950	0	25,631,950	1,266,495

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金・預金・未収入金及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金 預 金	27,654,972	23,975,662
未 収 入 金	1,075,250	2,111,950
合 計	28,730,222	26,087,612
未 払 金	1,427,164	455,662
合 計	1,427,164	455,662
次期繰越収支差額	27,303,058	25,631,950

貸借対照表内訳表

平成28年 3 月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	合 計
Ⅰ 資産の部				
1. 流動資産				
現金・預金	5,812,961	15,142,964	3,019,737	23,975,662
貯蔵品		328	38,681	39,009
未収入金	1,350,300		761,650	2,111,950
前払費用			2,157,286	2,157,286
仮払金			58,330	58,330
流動資産合計	7,163,261	15,143,292	6,035,684	28,342,237
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
基本財産合計				0
(2) 特定資産				
記念事業積立預金	10,000,000		17,000,000	27,000,000
事業基金積立預金			29,000,000	29,000,000
退職給付引当資産			9,088,348	9,088,348
特定資産合計	10,000,000	0	55,088,348	65,088,348
(3) その他固定資産				
什器備品	111,260			111,260
投資有価証券			447,963	447,963
保証金		90,600	3,436,650	3,527,250
その他固定資産合計	111,260	90,600	3,884,613	4,086,473
固定資産合計	10,111,260	90,600	58,972,961	69,174,821
資産合計	17,274,521	15,233,892	65,008,645	97,517,058
Ⅱ 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	86,678		368,984	455,662
前受金	68,000		7,039,114	7,107,114
預り金			110,450	110,450
流動負債合計	154,678	0	7,518,548	7,673,226
2. 固定負債				
退職給付引当金			8,118,590	8,118,590
固定負債合計	0	0	8,118,590	8,118,590
負債合計	154,678	0	15,637,138	15,791,816
Ⅲ 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0		
2. 一般正味財産				
(うち基本財産への充当額)	17,119,843	15,233,892	49,371,507	81,725,242
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(10,000,000)	(0)	(46,969,758)	(56,969,758)
正味財産合計	17,119,843	15,233,892	49,371,507	81,725,242
負債及び正味財産合計	17,274,521	15,233,892	65,008,645	97,517,058

平成27年度正味財産増減計算書内訳表

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

科 目	実施事業等会計			その他事業会計				法人会計					総合計 (H27年度 決算)
	継続事業	共通	継続事業	契約約款 事業	支部活動 事業	共通	その他 事業	継続事業 管理費	その他事 業管理費	管理費	法人会計	内部取引 消去	
I 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33,435,684	0	33,435,684
個人正会費受取会費			0				0	0	0	0	9,092,100		9,092,100
個人正会費（地方）受取会費			0				0	0	0	0	730,950		730,950
団体正会費受取会費			0				0	0	0	0	23,595,834		23,595,834
準会費受取会費			0				0	0	0	0	16,800		16,800
支部活動収入			0		1,435,200		1,435,200	0	0	0		1,435,200	0
事業収益	15,285,720	0	15,285,720	5,710,059	5,496,084	0	11,206,143	0	0	0	0	1,632,700	24,859,163
継続事業収益	15,285,720		15,285,720				0	0	0	0		506,432	14,779,288
その他事業収益			0	5,710,059	5,496,084		11,206,143	0	0	0		1,126,268	10,079,875
雑収益	318,488		318,488		108,819		108,819	0	0	0			427,307
引当金繰入収入			0				0			0	0		0
経常収益計	15,604,208	0	15,604,208	5,710,059	7,040,103	0	12,750,162	0	0	0	33,435,684	3,067,900	58,722,154
(2) 経常費用										0			
事業費	32,749,951	3,542,849	36,292,800	3,383,986	4,247,075	0	7,631,061	0	0	0	0	1,632,300	42,291,561
給料手当	15,789,023		15,789,023	0	0		0	0	0	0			15,789,023
法定福利費	2,802,510		2,802,510	0	0		0	0	0	0			2,802,510
事業費	13,382,884	3,542,849	16,925,733	3,374,914	3,145,511		6,520,425	0	0	0		1,632,300	21,813,858
雑費	775,534		775,534	9,072	1,101,564		1,110,636	0	0	0		0	1,886,170
管理費	0	0	0	0	0	0	0	13,964,644	3,023,726	16,988,370	0	1,435,600	15,552,770
給料手当			0				0	4,627,456	0	4,627,456			4,627,456
法定福利費			0				0	934,170	0	934,170			934,170
退職給付費用			0				0	503,709	0	503,709			503,709
福利厚生費			0				0	15,000	0	15,000			15,000
会議費			0				0	974,012	687,219	1,661,231			1,661,231
旅費交通費			0				0	47,660	174,560	222,220			222,220
通信運搬費			0				0	134,194	162,720	296,914		400	296,514
集金費			0				0	489,942	0	489,942			489,942
消耗品費			0				0	699,455	388,223	1,087,678			1,087,678
備品購入費			0				0	33,480	0	33,480			33,480
修繕費			0				0	1,760	0	1,760			1,760
印刷製本費			0				0	0	0	0			0
光熱水料費			0				0	105,529	0	105,529			105,529
賃借料			0				0	2,128,572	0	2,128,572			2,128,572
保険料			0				0	21,710	0	21,710			21,710
諸謝金			0				0	0	0	0			0
委託費			0				0	0	0	0			0
事務委託費			0				0	0	1,370,736	1,370,736			1,370,736
租税公課			0				0	475,100	0	475,100			475,100
助成費			0				0	1,435,200	0	1,435,200		1,435,200	0
雑費			0				0	1,337,696	240,268	516,146			516,146
経常費用計	32,749,951	3,542,849	36,292,800	3,383,986	4,247,075	0	7,631,061	13,964,644	3,023,726	16,988,370	0	3,067,900	57,844,330
当期経常増減額	-17,145,743	-3,542,849	-20,688,592	2,326,073	2,793,028	0	5,119,101	-13,964,644	-3,023,726	-16,988,370	33,435,684	0	877,824
2. 経常外増減の部													
(1) 経常外収益													
経常外収益計											455,510		455,510
(2) 経常外費用													
経常外費用計													0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	455,510	0	455,510
当期一般正味財産増減額	-17,145,743	-3,542,849	-20,688,592	2,326,073	2,793,028	0	5,119,101	-13,964,644	-3,023,726	-16,988,370	33,891,194	0	1,333,334
一般正味財産期首残高	44,801,761		37,808,434	4,072,488	6,042,303	0	10,114,791	-30,744,153	-5,662,810	-36,406,963	68,875,646	0	80,391,908
一般正味財産期末残高	27,656,018	-3,542,849	17,119,843	6,398,561	8,835,331	0	15,233,892	-44,708,797	-8,686,536	-53,395,333	102,766,840	0	81,725,242
II 指定正味財産増減の部													
当期指定正味財産増減額			0				0			0			0
指定正味財産期首残高			0				0			0			0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	27,656,018	-3,542,849	17,119,843	6,398,561	8,835,331	0	15,233,892	-44,708,797	-8,686,536	-53,395,333	102,766,840	0	81,725,242

平成28年度事業計画

平成28年 4月1日～平成29年 3月31日

日本建築協会は平成29年 3月30日に創立100周年を迎える。大正 6 (1917) 年、片岡安をはじめとした武田五一ら関西在住の建築家によって「関西建築協会」として創立され、2年後の大正 8 (1919) 年に「日本建築協会」と改称し、現在に至っている。

今年度は、創立から100年という記念すべき年にあたることから意義深いものとするため、「記念事業」を実施する。「記念式典」をはじめ様々な催しを企画し取り組むほか、「記念誌」などを発刊する。

また、未来に向けての新たな取り組みの検討を始めるとともに、引き続き協会の中心事業である「建築と社会」誌の発行をはじめとしたさまざまな活動に取り組んでいく。

1. 平成27年度の概況

平成27年度の我が国経済は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を柱とする経済財政政策の推進により、雇用・所得環境が改善し、原油価格の低下等により交易条件が改善する中で、緩やかな回復基調が続いている。

このような景気回復を背景に建設業界の平成27年度建設工事受注高は、84兆5,228億円で前年比8.8%の増となった。工事種類別を見ると、公共機関からの受注では、道路や教育、病院等が上位を占めたが、民間からでは、住宅、事務所などの受注が多くなっている。

このように受注環境は改善されているものの、人出不足や資材価格の高騰などの課題は依然として解消されておらず解決に向けての取り組みが求められる。

平成27年度の日本建築協会の運営については、広告収入の減少により「建築と社会」誌の発行費用が会誌収入を上回ったが、他の事業収入の増と管理費の抑制等により、収支は黒字を確保した。収入の大きな比重を占める会費については、昨年度に比べ減少幅が小さくなるなど改善の兆しが見られた。

事業関係については、「建築と社会」誌の発行をはじめ見学会や講演会・講習会の開催、「建築と社会」賞などの各種顕彰事業やコンクール、建築関係団体との交流・連携、100周年を視野に入れた各種事業を引き続き実施するとともに、100周年記念事業を企画し具体化する「100周年記念事業委員会」を立ち上げた。また、人材の発掘・育成の視点から35歳以下の若手設計者による「U35小委員会」の運営や青年技術者の顕彰、工高生デザインコンクール、初・中堅クラスを対象とした実務講習会などを実施した。

2. 平成28年度の活動方針

平成28年度の我が国経済は、雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環が更に進展するとともに、交易条件が緩やかに改善する中で、堅調な民需に支えられた景気回復が見込まれる。

民間住宅投資についても雇用・所得環境の改善により、緩やかに増加すると見込まれる。

平成28年度の日本建築協会は、今年度、100周年記念事業として様々な催しを企画し具体化する。広く社会にアピールする企画や他の団体が催すイベントとコラボするなど、協会内だけでなくとどまらず幅広く取り組み機運を盛り上げる。その中心となる「記念式典」は創立記念日当日に大阪市中央公会堂で開催する。祝賀会だけでなく様々な催しも展開していく。創立記念日までにプレイベントを連続して実施し100周年を大々的に発信する。100年を集大成した「100年史」をはじめ、昨年まで「建築と社会」誌に掲載してきた「関西の建築界/群像」と「再読関西近代建築」を記念誌として刊行する。この創立100周年を単なる通過点とするのではなく、新しい歴史の幕開けととらえ、未来に向け新たな取り組みを検討

討する。また、従来から実施してきた「建築と社会」誌をはじめとした様々な事業にも引き続き取り組む。

平成28年度予算については、100周年記念事業実施のための経費の計上により収支とも大幅に増加した。「建築と社会」誌をはじめ従来から取り組んできた事業については、昨年度並みとした。

収入面では、会費収入については、会員の減少に多少歯止めがかかったことから小幅な減とした。しかし、安定した協会運営のためには会員の確保による会費収入の維持が絶対条件となる。協会としては、個人や企業に対しわれわれの役割を積極的にアピールするとともに、魅力あるプログラムを提供し会員の増強を図らなければならない。個々の事業についても増収、増益を図るための仕掛けが必要である。特に協会事業のメインである「建築と社会」誌については、周年事業の有無に左右されない安定した広告収入に力を入れるとともに、新しい試みにも挑戦するなど、より一層の努力が求められる。

支出については、「建築と社会」誌の発行経費が前年度予算より若干増加したが、人件費をはじめとした管理費を抑制することにより、全体では前年度を下回ることができた。今後、予算規模の大きな「建築と社会」誌は発行経費のきめ細やかな抑制を図るとともに、会誌以外の事業についても経費抑制に努め、事業費のコスト削減を図る。管理費についても昨年度に続きより一層の削減に努める。

平成28年度も増収を図り支出を抑えることにより、財務体質の強化に努め、協会の活性化を図る。

3. 平成28年度活動計画

(1) 編集委員会

協会の会誌「建築と社会」誌の企画・編集及び青年技術者の顕彰のほか、読者と選ぶ「建築と社会賞」の顕彰を実施している。

①会誌「建築と社会」の発行

・会誌「建築と社会」は、大正 6 年の創立以来、協会活動の中核として会員相互あるいは会員と社会を結ぶ役割を果たしてきた。平成28年度も引き続き“建築と社会”をテーマにタイムリーな内容の特集として毎号掲載する。昨年スタートした「建築と社会を考える」や「再読関西近代建築—論考・記事編」も引き続き連載していく。また、会員の建築作品や論考、活動報告などについても掲載する。

・平成29年 3月号は、100周年記念号と位置付け特集を組む。

②青年技術者の顕彰

・満35歳以下の青年技術者を対象とする青年技術者顕彰制度は、平成27年度で62回に達し、建築界の優秀な人材を顕彰してきた。平成17年度からその意義をより一層深めるため、表彰式及び受賞者も出席しての懇親会をあわせて実施している。

・平成28年度も引続き実施するとともに、表彰式を総会後の懇親会時に実施する。

③「建築と社会賞」の顕彰

・従来からの「作品部門」、「論考部門」に加え平成27年度から特集の企画や活動報告、寄稿等にスポットをあてた「審査員特別賞」を新設した。

・平成28年度も引続き実施するとともに、表彰式を総会後の懇親会時に実施する。

(2) 事業委員会

著名建築物や茶室、近代建築などの見学会、話題建築を紹介する講演会、研修会などを実施している。また、若手建築技術者が新しい視点による活動を行っている。

①見学会等の実施

・新建築や古建築などの見学会や時代に応じたテーマによる講演会などの催しを毎年度実施している。話題建築については、設計者・施工者等から話を聞く場を設けている。

・平成28年度も前年度同様 4 回程度の見学会を実施するとともに、講演会を 1 回程度実施する。

②若手建築技術者の新しい視点による活動

・平成24年度に概ね35歳以下の若手建築技術者の活動の場として、立ち上げた「U-35小委員会」は、若手自らの企画による見学会や講演会等を開催し、若手会員の増強と協会活動の活性化を目指す。

・平成28年度も前年度同様見学会やシンポジウムなどを実施する。

(3) 出版委員会

時代のニーズに即した新しい著書の発掘や建築に関する図書の企画・編集・発行を行っている。

平成28年度も引き続き建築に関する図書の企画・編集・刊行を計画しており、意匠系・構造系・設備系の作品を提供する。また、これまで開催してきた新刊の出版記念講演会だけでなく、既刊図書について生の声を聞く講習会も検討していく。

(4) 教育委員会

建築工事実務講習会や工高生を対象とした建築に関するデザインコンクール、優秀な建築系学科卒業生の表彰などを行っている。また、大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会が実施する諸行事に協力している。

①建築工事実務講習会の実施

・昭和32年以降、毎年主として初・中堅クラスの建築技術者を対象に標記講習会を実施している。平成27年度までに延91回を数えている。

・平成28年度も本部、中国・東海支部でそれぞれ実施する。

②工高生デザインコンクールの実施

・昭和30年に創設し平成27年度で61回を数えた。

・平成27年度は、参加校数、作品数とも減少したが、平成28年度は、参加校数、作品数の増加を目指す。

③建築系学科優秀卒業生の表彰

・平成28年度も引き続き会員校及び会誌購読校を対象に実施する。

④大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会への参画

・平成28年度も引き続き協議会が実施する諸行事に協力する。

(5) 100周年記念事業

創立記念日に挙行する「記念式典」をはじめ、関連イベントなどを企画・検討し具体化する。また、3点の記念誌を出版する。

10年委員会では、引き続き見学会を実施するとともに「大阪ええとこそうせい（創生）プロジェクト」ではプレイベントを実施する。

①創立100周年記念事業委員会

・100周年のメインとなる「記念式典」では、記念講演やシンポジウム、祝賀会など様々な催しを検討、具体化していく。「建築と社会」誌の再読に取り上げられた近代建築の見学会などのプレイベントを実施する。

・「100年史」をはじめ「再読 関西近代建築」、「関西の建築界/群像」を出版する。

②10年委員会

・建築現場見学会の実施

次世代の建築界を担う人材の育成に繋がることを目的として、学生向けに設計の意図を活かした建築現場やそれを支える施工者の工夫、現代技術を駆使した工場での製作過程など、さまざまな「ものづくり」の実際を総合的に体感できる場を提供する。平成28年度は27年度同様 2 回程度実施する。

・大阪ええとこそうせい（創生）プロジェクトの実施

平成28年度は100周年に向けて今年の 3 月から御堂筋のビル誕生日セレモニーを実施する。

(6) 工事請負契約款事業

・引き続き民間（旧四会）連合協定工事請負契約

約款委員会に委員を派遣する。

- 引き続き「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」、「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売する。
- 平成28年度は新たにマンションの修繕・改修の設計や工事の内容を示した「マンション修繕工事請負契約約款」の販売を行う。

(7) 他団体との交流、連携

- 建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を行う。特に、平成21年度から進めてきた関西建築4団体（大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会）会長・支部長懇談会における連携活動を引き続き推進する。
- 平成28年度も4団体が緊密な連携で、共同でできることを検討・実行していく。

(8) 支部活動

中国支部

①指導、宣伝、技術向上事業

- 「若手・新入社員技術講習会」「中堅社員技術講習会」「建築工事実務講習会」、「『建築と社会』中国支部の企画・編集」を行う。
- 支部活性化事業としてホームページを充実し会員名簿を編さんする。

②協力事業

- 行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。

③他団体との連絡、連携

- 官公庁との連絡会や新年互礼会など建築6団体と連携する。

④工事請負契約約款の販売

- 「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」及び「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売する。

⑤100周年記念行事

- 創立100周年記念日に向けイベントを検討する。

東海支部

①指導、宣伝、技術向上事業

- 「講演会・見学会」や「建築工事実務講習会」、「『建築と社会』東海特集号の企画・編集」を行う。今年度は、海外見学会を企画・実施する。
- 支部活性化事業として、機関誌「東海の建築」の刊行やホームページの更新、会員名簿を発行する。

②会議、会合への参加

- 愛知県建築開発等行政推進団体協議会、中部建築賞協議会など各種団体の会議や会合などに参加する。

③協力事業

- 行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。

④他団体との連絡、連携

- 官公庁との連絡会や新年互礼会など建築8団体と連携する。

⑤100周年記念行事

- 創立100周年記念日に向けイベントを検討する。

京都支部

①指導、宣伝、技術向上事業

- 数寄屋建築研究の第一人者による「講演会」や「見学会」、「研修会」を行う。

②協力事業

- 行政や団体が実施する「講演会」や「2級建築士受験講習会」などの事業に共催、協力を行う。

③工事請負契約約款の販売

- 「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」及び「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売する。

④100周年記念行事

- 創立100周年記念日に向けイベントを検討する。

平成28年 4月1日から平成29年 3月31日まで

(単位：千円)

科 目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入				
個人正会費	8,710	8,717	-7	14,400円／1名
個人正会費(地方)	637	823	-186	12,600円／1名
団体正会費	22,809	22,662	147	25,000円／1口
準会費	17	17	0	8400円／1名
会費収入計	32,173	32,219	-46	
②支部活動収入	1,387	1,435	-48	本部から支部への活動収入
支部活動収入計	1,387	1,435	-48	
③事業収入				
事業収入	28,850	24,853	3,997	本部及び支部の事業収入
事業雑収入	819	842	-23	会員交流会、事業協力金外
事業収入計	29,669	25,695	3,974	
④雑収入	176	186	-10	利息、雑損処理後の過年度会費外
⑤記念事業収入	5,250	0	5,250	100周年記念事業収入
⑥支部正味財産増加分繰入	376	523		
事業活動収入計	69,031	60,058	8,973	
2. 事業活動支出				
①事業費支出				
事業関係人件費支出	16,476	17,147	-671	法定福利費含む
事業費支出	25,946	21,512	4,434	本部及び支部の事業費
事業雑支出	415	280	135	会員交流会外
事業費支出計	42,837	38,940	3,897	
②管理費支出				
管理関係人件費支出	5,492	5,716	-224	法定福利費含む
退職給付支出	0	958	-958	
福利厚生費支出	25	25	0	職員福利厚生費
助成費支出	1,387	1,435	-48	本部から支部への活動費
会議費支出	1,840	1,850	-10	本部・支部総会外会議費
旅費交通費支出	305	308	-3	旅費、交通費
通信運搬費支出	440	510	-70	電話、FAX、メール、郵送等通信費
集金費支出	500	500	0	会費、グループ会費、広告料集金手数料等
消耗品費支出	1,640	1,823	-183	HP維持費、PC/ソフト、トナー、文房具外消耗品
備品購入費支出	150	120	30	事務所内備品

科 目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
印刷製本費支出	50	30	20	印刷製本費
光熱費支出	220	220	0	電気代
火災保険料支出	23	25	-2	火災保険料
租税公課支出	1,210	999	211	消費税、法人府市民税
建物管理費支出	4,420	4,300	120	事務所賃借料等
事務委託費支出	1,371	1,371	0	支部事務局委託費
雑支出	1,773	1,747	25	監査、保守、協賛、購読、未収金償却外
管理費支出計	20,861	21,959	-1,098	
③記念事業費支出				
記念事業費支出	23,250	150	23,100	100周年記念事業準備費
事業活動支出計	86,948	61,049	25,898	
事業活動収支差額	-17,917	-991	-16,926	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入				
退職給付引当資産取崩収入	0	958	-958	
記念事業債立預金取崩収入	18,000	150	17,850	100周年記念事業に充当
投資活動収入計	18,000	1,108	16,892	
2. 投資活動支出				
①特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	今年度債立不要
記念事業債立預金支出	0	0	0	現状予定なし
特定資産取得支出計	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	18,000	1,108	16,892	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	83	117	-34	
前期繰越収支差額	25,632	19,660	5,972	
次期繰越収支差額	25,715	19,777	5,938	

(注) 前期繰越収支差額には、27年度決算額を充当している。

(注) 平成28年度については、借入限度額を30,000,000円とする。

平成28年度正味財産増減予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：千円)

会
告

科 目	実施事業等 会計	その他事業 会計	法人会計			総合計 (H28年度 予算)	前年度予算	増減
	継続事業	その他事業	管理費	法人会計	内部取引消去			
Ⅰ 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
受取会費	0	0	0	32,173	0	32,173	32,218	-45
個人正会費受取会費	0	0	0	8,710		8,710	8,717	-7
個人正会費（地方）受取会費	0	0	0	637		637	823	-186
団体正会費受取会費	0	0	0	22,809		22,809	22,662	147
準会費受取会費	0	0	0	17		17	17	0
支部活動収入	0	1,387	0		1,387	0	0	0
事業収益	16,024	13,645	0	0	1,633	28,036	24,309	3,727
継続事業収益	16,024	0	0		506	15,518	14,878	639
その他事業収益	0	13,645	0		1,126	12,519	9,431	3,088
雑収益	70	106	0			176	186	-10
記念事業収益	0	5,250	0	0		5,250	0	5,250
経常収益計	16,094	20,388	0	32,173	3,020	65,635	56,713	8,922
(2) 経常費用								0
事業費	36,007	33,870	0	0	1,633	68,244	41,298	26,946
給料手当	15,532	11,209	0			26,741	15,645	11,097
法定福利費	2,757	1,990	0			4,746	2,937	1,809
臨時雇賃金	2	1	0			3	6	-3
旅費交通費	495	2,078	0			2,573	446	2,127
通信運搬費	1,728	1,484	0			3,212	1,738	1,474
消耗品費	929	219	0			1,148	961	187
印刷製本費	7,740	6,471	0			14,211	7,349	6,861
光熱水料費	110	0	0			110	110	0
賃借料	2,210	0	0			2,210	2,150	60
保険料	20	14	0			34	22	13
諸謝金	2,264	2,107	0			4,372	2,769	1,602
租税公課	605	0	0			605	3,387	-2,782
委託費	853	5,800	0		1,633	5,021	1,511	3,509
雑費	763	2,496	0			3,259	2,267	991
管理費	0	0	17,071	0	1,387	15,683	16,928	-1,245
給料手当	0	0	4,517			4,517	4,737	-220
法定福利費	0	0	975			975	979	-4
退職給付費用	0	0	0			0	958	-958
福利厚生費	0	0	25			25	25	0
会議費	0	0	1,840			1,840	1,850	-10
旅費交通費	0	0	305			305	308	-3
通信運搬費	0	0	300			300	350	-50
集金費	0	0	500			500	500	0
消耗品費	0	0	915			915	1,148	-233
備品購入費	0	0	150			150	120	30
修繕費	0	0	15			15	20	-5
印刷製本費	0	0	50			50	30	20
光熱水料費	0	0	110			110	110	0
賃借料	0	0	2,210			2,210	2,150	60
保険料	0	0	23			23	25	-2
諸謝金	0	0	0			0	0	0
委託費	0	0	0			0	0	0
事務委託費	0	0	1,371			1,371	1,371	0
租税公課	0	0	605			605	499	106
助成費	0	0	1,387		1,387	0	0	0
雑費	0	0	1,773			1,773	1,747	25
経常費用計	36,007	33,870	17,071	0	3,020	83,928	58,226	25,702
当期経常増減額	-19,913	-13,482	-17,071	32,173	0	-18,293	-1,513	-16,780
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計						0	958	-958
(2) 経常外費用								
経常外費用計						0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	958	-958
当期一般正味財産増減額	-19,913	-13,482	-17,071	32,173	0	-18,293	-555	-17,738
一般正味財産期首残高	17,120	15,234	-53,395	102,767	0	81,725	80,392	1,333
一般正味財産期末残高	-2,793	1,752	-70,466	134,940	0	63,432	79,837	-16,405
Ⅱ 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0			0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0			0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高								
	-2,793	1,752	-70,466	134,940	0	63,432	79,837	-16,405

平成28年度
日本建築協会役員会務分掌

平成28年 6 月15日現在・順不同・敬称略

役付役員

会 長	香西喜八郎	（株）東畑建築事務所
副会長	設楽 貞樹	（株）安井建築設計事務所 会長職務代行 編集・研修担当
副会長	田中日出男	（株）きんでん 会勢・事業担当
副会長	天野 直樹	（株）竹中工務店 企画・財務担当
副会長	大井 昇二	（株）大林組 会勢・事業担当
副会長	* 矢野 和久	（株）大阪ガス 総務・事務局担当
副会長	本多 友常	摂南大学 編集・研修担当

理事 ◎印は常任理事 ○印は委員長

（総務） 5 名 大林 剛郎 （株）大林組 栗原 信英 栗原工業（株） 佐野 吉彦 （株）安井建築設計事務所 立野 純三 （株）ユニオン ◎○山形 政昭 大阪芸術大学 （財務） 3 名 奥村太加典 （株）奥村組 今西 邦夫 （株）今西組 * 工藤 務 東リ（株） （編集・出版） 9 名 ◎○西 博康 清水建設（株） 松崎 公一 鹿島建設（株） 佐藤 榮一 （一社）日本建築材料協会 竹中 統一 （株）竹中工務店 杉本 浩 （公財）建築技術教育普及センター 松本 眞一 関西電力（株） 吉村 英祐 大阪工業大学 ◎ 米井 寛 （株）東畑建築事務所 ◎○* 勝山 太郎 （株）日建設計 （会勢） 10 名 浅沼 健一 （株）浅沼組		池内 哲郎 野里電気工業（株） 蔦田 守弘 （株）鴻池組 田中 完治 清水建設（株） 近藤 徹 不二熱学工業（株） 光用 薫 戸田建設（株） 藤原 富男 （一社）大阪建設業協会 篠原 佳則 （株）安井建築設計事務所 高松 隆夫 広島工業大学 中井 進 日建設計コンストラクション・マネジメント（株） （事業） 4 名 ◎○児玉 謙 （株）日建設計 城口 俊雄 （株）大阪城口研究所 * 酒井 祥三 西松建設（株） 中嶋 功 （株）熊谷組 （研修） 5 名 岩橋 貞雄 八千代電設工業（株） 長瀬 博一 （有）長瀬建築研究所 金井 隆夫 大成建設（株） 梶山 卓二 （株）昭和設計 永原 稯 王建工業（株）
常務理事 森本 勉		役付役員含む理事合計44名

*印は新任

監事	三木 徹	（株）安井建築設計事務所
	前田 隆司	（株）前田商会

顧問	中田 誠	（独）都市再生機構
----	------	-----------

平成28年度
日本建築協会評議員

議長：村上幸三郎 副議長：嘉納 秀一

平成28年 6 月 1 日現在・順不動・敬称略

技術 1	村上幸三郎 村上デザイン事務所	
総合 12	薮内 昭男 （株）浅沼組	野々上昌博 （株）鴻池組
	* 田淵 勝彦 （株）安藤・間	浅野 博光 （株）奥村組
	赤松 千州 （株）竹中工務店	毛利 俊彦 三井住友建設（株）
	村田 俊彦 （株）大林組	
	林 伸昭 戸田建設（株）	
	中道 正伸 （株）中道組	田中顕三郎 田中建設（株）
	原 眞一 コーナン建設（株）	藤井謙太郎 藤井建設（株）
電気 4	北村 康一 （株）きんでん	嘉納 秀一 三宝電機（株）
	森 博明 三和電気土木工事（株）	嶋田 雅景 （株）クリハラント
空調 3	安原 和利 （株）精研	若林 尚史 若林設備工業（株）
		生島 清好 （株）三冷社
建材 2	森村 泰明 森村金属（株）	深江 隆司 アスワン（株）
中国 2	嶋津 孝之 広島大学	村重 保則 村重保則現代建築設計
東海 6	* 福田 泰造 福田泰造建築事務所	後藤 利秋 （有）和光建築計画研究所
	河田 克博 名古屋工業大学	中村 哲士 アトリエーN1級建築士事務所
	* 佐伯 博 （株）東畑建築事務所	松元 親司 （株）東畑建築事務所
京都 2	高田光雄 京都大学大学院	
	山田昌次 花豊造園（株）	

32名 *印は新任

平成28年度
日本建築協会支部長（順不同・敬称略）

中国	高松 隆夫 広島工業大学
東海	篠原 佳則 （株）安井建築設計事務所
京都	長瀬 博一 （有）長瀬建築研究所

平成28年度

日本建築協会委員

■編集委員会（84名）

会誌「建築と社会」の企画・編集

◎ 勝山 太郎／日建設計

○＊戸川 勝之／安井建築設計事務所
米井 寛／東畑建築事務所

●特集小委員会

計画分科会

〈計画系〉

飯田 匡／大阪大学大学院

鈴木 克彦／京都工芸繊維大学大学院

△ 田中 直人／島根大学大学院

松田奈緒子／アトリエ805

三宅 次郎／阪神電気鉄道

守井 辰／日建設計

吉村 英祐／大阪工業大学

〈建築計画系〉

神戸 嘉也／大林組

下坂 浩和／日建設計

＊ 中辻 浩介／ジェイアール西日本コンサルタンツ

野田 隆史／竹中工務店

＊ 東 拓郎／東畑建築事務所

△ 樋口 展寛／鴻池組

＊ 松岡 英緯／大建設計

三谷 帯介／鹿島建設

米山 剛史／UR設計

渡部 剛／安井建築設計事務所

〈インテリア・住宅〉

今井 充彦／日建スペースデザイン

川合 隆之／積水ハウス

工藤 理隆／都市再生機構

△ 黒柳 亮／竹中工務店

＊ 齊藤 誠／大林組

＊ 塚口 洋之／塚口洋之設計事務所

ベリー史子／大阪産業大学

間瀬 一博／安井建築設計事務所

構造分科会

伊藤 栄治／安井建築設計事務所

岡田 健／日建設計

岸本 光平／竹中工務店

司馬 勢也／ゼン建築構造事務所

瀧野 敦夫／奈良女子大学

角田 耕一／大林組

橋本 宗明／北條建築構造研究所

△ 宮久保秀樹／鴻池組

向井 洋一／神戸大学大学院

設備分科会

有尾清二郎／竹中工務店

北野 勝也／きんでん

＊ 佐々木章二／総合設備コンサルタント

＊ 笹倉 陸／コイズミ照明

高村 聡／大阪市都市整備局

寺井 千佳／安井建築設計事務所

夏井 重行／元・富士ネオ工業

△ 橋本 直樹／日建設計コンストラクション・マネジメント

藤原 謙一／大阪市都市整備局

桒井 貴廣／総合設備コンサルタント

宮崎ひろ志／関西大学

＊ 森山 正和／摂南大学

山本 雅洋／大林組

施工材料分科会

＊ 東 琢／鴻池組

＊ 木谷 在憲／鹿島建設

桜井 和男／竹中工務店

高橋 秀一／大和ハウス工業

藤丸 啓一／清水建設

山口 紀宏／大林組

△ 吉田 正友／大阪工業大学

法令分科会

△ 磯林 雅之／京都市都市計画局

岡本 亮二／堺市建築都市局

黒川 正樹／神戸市住宅都市局

河野 学／京都市住宅供給公社

＊ 小林 智成／兵庫県県土整備部

作品作風小委員会

東井 嘉信／大林組

居内 章夫／徳岡設計

池上 明／エーアイアーキテクトスタジオ

稲垣 和江／イナガキエンチクケンキュウショ

▲ 加嶋 章博／摂南大学

菊池 浩輔／安井建築設計事務所

倉橋 尉仁／東畑建築事務所

倉渕奈千子／田中啓文総合建築研究所

澤田 純一／兵庫県県土整備部

高木 秀晃／昭和設計

鞆野 淳司／竹中工務店

豊田 充広／高松建設

西田 佳代／日建設計

芳谷 晴彦／清水建設

増田 敬彦／増田敬彦一級建築士事務所

広告企画小委員会

小川 雄介／竹中工務店

小山 昭／東畑建築事務所

金築 雄／清水建設

＊ 野山 将男／大林組

藤田 昌宏／安井建築設計事務所

▲ 前田 衛／日建設計

山辻 直樹／大成建設

■事業委員会（35名）

見学・講演・説明・展示・懇親会などの企画及び実施

◎ 児玉 謙／日建設計

情報見学小委員会

伊藤 好之／清水建設

大平 卓磨／竹中工務店

奥村 朋孝／鴻池組

北野 勝也／きんでん

小平 弥史／昭和設計

小林 正和／大林組

田崎 祐生／武庫川女子大学

千本多加子／日建設計

植田 豊／ジェイアール西日本コンサルタンツ

下記のとおり各委員会委員を委嘱しました。

◎委員長 ○副委員長 ▲小委員会委員長 △幹事 ☆顧問 ＊28年度新委員
(所属名は略称 順不同・敬称略)

寺西 興一／大阪府登録文化財所有者の会

▲ 豊田 充広／高松建設

＊ 中尾 勝悦／中尾総合建築設計事務所

夏井 重行／元・富士ネオ工業

沼田 典久／久米設計

樋上 新治／ラシンプランニング

宮本 克己／鹿島建設

森 雅章／安井建築設計事務所

脇田 隆史／東畑建築事務所

U-35小委員会

伊藤 昭裕／佐藤総合計画

榎 恭志郎／大建設計

△ 興津 俊宏／竹中工務店

駒井 陽次／Style Agency/PARK Lab.

下田 康晴／東畑建築事務所

＊ 出来 佑也／昭和設計

長島 薫／東畑建築事務所

中村 祐記／大林組

西森 史裕／大林組

廣富 純／佐藤総合計画

松島 将太／大建設計

三谷 帯介／鹿島建設

宮武 慎一／安井建築設計事務所

＊ 森下 大右／昭和設計

若江 直生／日建設計

＊ 和田佳奈美／竹中工務店

■出版委員会（11名）

建築に関する図書の企画・編集・刊行、ならびに講座の企画・実施

◎ 西 博康／清水建設

＊ 赤石 博之／きんでん

上原 正行／U建築工房

＊ 塩島 輝昭／きんでん

昇 勇／昇設計室

菅原 敏晃／竹中工務店

田中 正司／C.T.I.

玉水 新吾／ドクター住まい

仲本 尚志／atelier UNI-SUPPORT

藤山 宏／造景空間研究所

堀野 和人／スマイルズム。

■教育委員会（17名）

建築教育についての調査・研究・講習会の企画・実施ならびに工高生デザインコンクールなどの企画および実施

◎ 山形 政昭／大阪芸術大学

講習会小委員会

阿字地正人／大林組

柏木 隆男／松村組

勝野 哲博／戸田建設

門野 陽／鴻池組

川井 祐基／鹿島建設

北野 祥晃／清水建設

＊ 松田 繁／竹中工務店

＊ 下山 尚毅／浅沼組

工高生教育小委員会

＊ 岡田 依子／大阪市立工芸高等学校

加治 大輔／大阪芸術大学

門脇 裕之／大阪市立都島工業高等学校

白川 陽子／今宮工科高等学校

▲ 谷口 幸雄／日建設計コンストラクション・マネジメント

中村 眞二／東畑建築事務所

永島 敏郎／安井建築設計事務所

矢倉 鉄也／大阪市立都島工業高等学校

■100周年関連事業委員会（20名）

100周年に向けた記念企画実施

史料研究会（再読 関西近代建築）

◎ 山形 政昭／大阪芸術大学

安達 英俊／安達英俊建築研究所

石田潤一郎／京都工芸繊維大学大学院

植松 清志／大阪市立大学

桐浴 邦夫／京都建築専門学校

酒井 一光／大阪歴史博物館

橋寺 知子／関西大学

和田 康由／大阪市立都島工業高等学校

☆ 坂本勝比古／神戸芸術工科大学名誉教授

10年委員会

◎ 設楽 貞樹／安井建築設計事務所

赤木 隆／日建設計

大村 泰正／清水建設

門野 陽／鴻池組

川上比奈子／摂南大学

△ 菅原 幸也／日建設計

△ 中村 文紀／東畑建築事務所

○ 前川 治彦／前川治彦建築研究所

＊ 松田 繁／竹中工務店

＊ 松村 明／安井建築設計事務所

三井 達雄／大林組

■100周年記念事業実行委員会（12名）

100周年記念事業の企画実施

天野 直樹／竹中工務店

大井 昇二／大林組

＊ 勝山 太郎／日建設計

香西喜八郎／東畑建築事務所

○ 児玉 謙／日建設計

田中日出男／きんでん

◎ 設楽 貞樹／安井建築設計事務所

西 博康／清水建設

本多 友常／摂南大学

山形 政昭／大阪芸術大学

○ 米井 寛／東畑建築事務所

矢野 和久／大阪ガス

全179名

まち

建築

ひと

gallery

リノベーションでつくる 街のシンボル 井池繊維会館

リノベーションディレクター
末村 巧

リノベーションの企画を考えるとときに一番腐心するのが何を継承するのかということ。今回は近代建築を元の姿に戻して活用するためのリノベーション。当時の写真から大正11年築としては未来志向のデザインであったことが窺われ、原設計者のモダンな意思を継承することとし、断熱性の高い木製サッシや外観と一体化した室外機置場など、長く快適に使える機能の採用につなげた。

また昭和25年から地域の町衆が出資して建物を取得し、地域の利便施設として活用されていた記憶も利用目的として継承し、地域の未来を託すことができるテナントを誘致し、その活動が地域にしみ出るような運営を目指すこととした。そして平成8年にサイディングが施され、ファサードとともに地域からその存在感を失うこととなった20年間の象徴として、無数のアンカーボルト痕や削ぎ取った装飾跡なども、愛着があったはずの建物を顧みなかった時代の記憶として継承させてもらった。

輝かしい部分だけでなく決して誇らしいとは言えない時代の痕跡も含めて、すべてをデザインに取込むという選択をした結果、竣工後に寄せられる感想は概ね肯定的だ。近代建築ファン以外の地元の方々にも多くの好評を頂戴することには胸を撫で下ろすとともに、「清濁すべてをオープンにする」ということが生きている街にふさわしいシンボルになる可能性を広げたのではないかと感じる。その真価を問うことになる「活用」という挑戦がこれから始まる。



リノベーション前のサイディングで覆われた外観

末村 巧（すえむら たくみ）

1964年 大阪市港区生まれ
1989年 京都工芸繊維大学卒業
1989年 リクルートコスモス入社
2001年 合資会社マットシティ設立
2003年 水辺のまち再生プロジェクト設立
2007年 みんなの不動産運営スタート

一つ一つの不動産の集積が街であるという理念で街と向き合う不動産屋。現在は水辺を中心とした公共施設活用提案や再生を手掛けた物件のコンセプト維持のための管理運営も増えている。

企画編集：加嶋章博（作品作風小委員会）



（協力）
企画助手：福本優
設計監理：高岡伸一建築設計事務所
施工：株式会社ミドリテック
施主：株式会社井池繊維会館（木戸一夫／濱太郎）

リノベーション後の外観



キッチン付きのペントハウスのある屋上テラス



無数のアンカーボルト跡や左官補修跡をそのまま残すエントランス



ダイナミックな雰囲気を残す室内空間



左：削られた装飾跡 中：タイル脱落部の左官補修跡 右：オリジナル装飾

おもてなしと建築

編輯委員 樋口 展寛



藤森 照信

浦 一也
小林 純子
西尾久美子
杉本 貴志
橋本夕紀夫
稲葉なおと

企画 建築計画系分科会

総論

おもてなしと建築

藤森照信

工学院大学特任教授
東京大学名誉教授

藤森照信

1946年、長野県生まれ。東京大学大学院博士課程修了。専攻は近代建築、都市計画史。1986年、赤瀬川原平、南伸坊らと路上観察学会を結成、『建築探偵の冒険・東京篇』を刊行（サントリー学芸賞受賞）。1991年〈神長官守矢史料館〉で建築家としてデビュー。1998年、日本近代建築史の研究（『明治の東京計画』および『日本の近代建築』）で日本建築学会賞（論文）、2001年〈熊本県立農業大学校学生寮〉で日本建築学会賞（作品）を受賞。2006年、第10回ヴェネツィア・ビエンナーレ建築展で日本館コミッショナーを務める。著書に『藤森照信の茶室学』（六曜社）、『日本建築集中講義』（淡交社）、『日本の近代建築』上・下巻（岩波新書）、『藤森先生茶室指南』（彰国社）ほか多数。

戦後の住宅における「おもてなし」

「お・も・て・な・し」は3年前、オリンピック東京誘致に成功して以来、良いこと、積極的なことと考えられているが、前回の東京オリンピックの前までは、逆にとらえられていた。世間はどうか知らないが、少なくとも建築界ではそうだった。

人をもてなすとは、具体的には接待であり接客であり、建築的には他人を自分の空間に迎え容れることを意味し、当然、自分の空間の中にその場を画さなければならない。

それがどうした、と今の若い人は思うかもしれないし、たしかに公共建築やオフィスビルならその通りだが、これを住宅問題として考えればことの難しさが今の若い人にも推察できるだろう。

戦後の日本の住宅は、戦前までの長い長い住宅の歴史とは根本的に断切しているが、その断切を決定的にしたのは敗戦後の一冊の本と一つの理論だった。

昭和24年、浜口ミホが『日本住宅の封建性』という本を刊行した。戦後すぐのことゆえ小さくて薄いパンフレットのごとき一冊であったが、影響は決定的だった。内容は本の題にそのまま表れているように、日本の伝統的住宅の封建性、前近代性を鋭く指摘し、真正面から激しく批判した。批判の中核となるのは「おもてなし」の一件にほかならない。

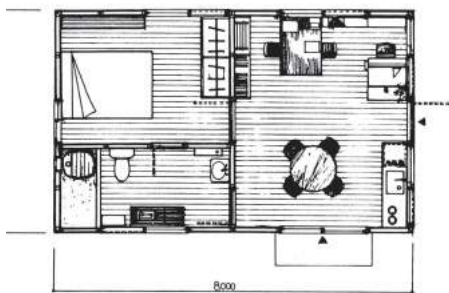


図1 〈浜口邸〉平面図
昭和23年
前川國男設計のプレモスの中に浜口ミオが室内設計
「日本住宅の封建性」を否定した住宅第1号



図2 〈浜口邸〉室内
昭和23年

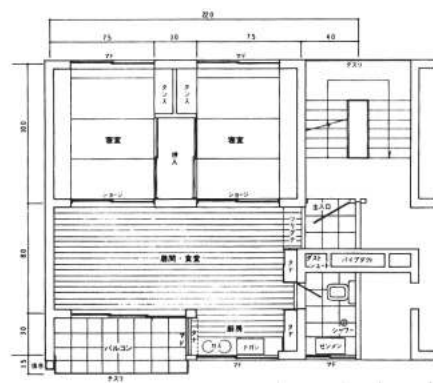


図3 〈51C型〉吉武泰水・郭茂林案
昭和25年2月

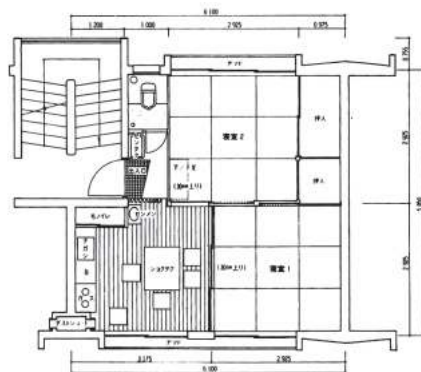


図4 〈51C型〉鈴木成文案
昭和25年8月

具体的には、家族が日常的に使う居間・個室や台所よりも「おもてなし」用のお座敷（客間）が広く立派に、かつ庭に面した日当たりのいい一画を占めていることを批判した。もう一つ、玄関を立派に作ることも。

この一冊だけだったならことは建築界の中だけに留まったかもしれないが、そこに理論が重なる。西山卯三が戦前に出した“食寝分離論”である。

西山は、客間を画すことのできるような余裕のある住宅は問題とせず、寝室とお茶の間だけしかないレベルの住宅をどう改良するかに意を注ぎ、昼は卓袱台^{ちやぶだい}が出されて居間兼食堂となり、夜は卓袱台を片付けて寝室と化す“お茶の間”という空間を解体し、台所と食堂を一つの空間に納め、それで余った面積を寝室に回して、寝室の安定的確立を主張した。食堂（ダイニング D）と台所（キッチン K）を一体化してD・Kとし、さらにこれに居間（リビング L）も加わってL・D・Kが一つ部屋に納まり、あとは寝室がある、そういう間取りを西山卯三と吉武泰水と鈴木成文の三人の優れた建築計画学者が生み出し、この名高い〈51C型〉が公営住宅と公団住宅に採用され、一気に広がった。

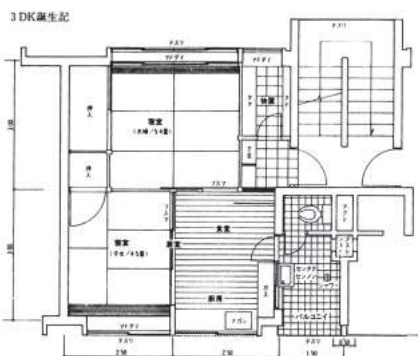


図5 〈51C型〉吉武泰水案
昭和25年11月

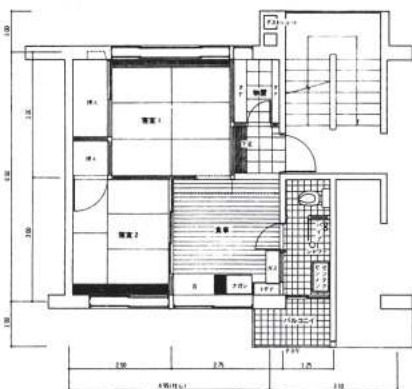


図6 〈51C型〉決定案
昭和25年11月

浜口さんと西山、吉武、鈴木先生にインタビューしたことがある。浜口さんは、中国の上海近郊のスパニッシュ様式の外国人用住宅から日本に帰国してみると、日本の伝統的住宅が玄関と客間ばかり立派で家族用空間があまりにひどいし、畳も不衛生だし、室内は暗くて湿気が多く、そんな中で親が没し、伝統的住宅は「親の仇」だと思って『日本住宅の封建性』を書いて出した、とのことだった。

西山先生は、理論は出したが、プラン化したのは吉武、鈴木で、小住宅改良のため出した理論がまさか普通の住宅の平面にまで決定的影響を与えるなんて思ってもみなかったようだ。接客重視を止め、家族本位のDK、LDKの平面に導かれて、戦後の住宅は今に至る。

前回のオリンピック前まではそうだった、と私が自信をもって語るの、私が建築学科に入って受けた住宅計画の講義もこの路線の上にあったし、当時の住宅のテーマの中にも「おもてなし」は無し。実は、今も事情は変わらず、建築計画学の中でも、建築家の作品においても、接客空間のことはたいして重視されていない。

そんなおもてなし無しの日本の建築界の中で、私がおもてなしに関心をもったのは、二

つの経験による。一つは、数年前から取り組んでいる茶室、そしてもう一つはこのたびの“おんばしら”。

“おんばしら” 生家での「おもてなし」

おんばしらは“御柱”と書き、6年に一度、申と寅の年に行われる信州は諏訪大社の祭り、巨木を山から伐り出し、山出しに三日、里曳きに三日かけ、神社に曳きつけて立てる。ただそれだけの単純な祭りだが、地元にとってはかけがえのない祭りで、この6日間は老若男女が祭りのためだけに過ごす。

たまたま私の生家は里曳きに御柱が通る“御柱街道”の中核部に位置し、多くの知人友人親戚を迎えるのが習いとなっている。

ではあるが、これまで10回の御柱は、両親が取り仕切ってきた。私が東京から友人を連れて行っても、あくまで迎えるのは両親。

ところが、両親が90歳を過ぎた今回、里曳きの三日間、何十人分かの料理や酒を用意するのは不可能。例えば、母は若いころ巻き寿司の芯にするため、前の年に大量の夕顔を育て、皮をひき、干して干瓢^{かんぴょう}を作っていたが、そんなことはもうできない。

御柱をどうするかは私と配偶者の肩にかかり、あれこれ考え、知人友人親戚を迎えることにした。私たちにとって初の本格的“おもてなし”。

まず、客を迎えるため片付けに取り掛かる。始めてみると、両親のためこんだ“不要な物”が出てくるわ出てくるわ、軽トラックで3台分は片付けても、客間や台所などの主要な部屋がやっと。あとは御柱後に回して、客間とその続き部屋として使う居間の二部屋の、畳替えと襖と障子の張り替え。さらに、古くなった照明の取り替え。

接客空間の目途が立つと、次は料理と飲み物となるが、そのためには三日間に迎える客の人数を決めなければならない。そこで配偶者が知人友人親戚にそれとなく聞くことにした。意外にも“おんばしら”への関心は強いらしく、声をかけたほぼ全員が“行きたい”。それも“〇〇さんも誘っていい? ”。これに飛び入りのSP付きの方も来られることになり、結局、三日間で延べ80人を迎えることになった。

まず人数分の食器をどうする。母に聞くと、大皿をはじめ接客用の食器が蔵の二階にあるからそれを使うように、とのこと。生まれて初めて昔ながらの食器をチェックすると、「弘化五年 藤森寅蔵」などと墨書された木箱に入った大量の漆塗りの椀などが次々に現れ、168年前の江戸時代の食器で客を迎えることに、迎える者としての気持ちは高まる。

料理の内容は昔ながらと決め、餅と鯉と天寄せと巻き寿司。この伝統4点セットに、若い人向けに地元の手作りハムと、売切れ御免の“下諏訪新鶴の塩羊羹”を土産を兼ねて加える。

鯉は山国信州のご馳走だが、必要となる大型5匹を家の鍋で甘辛く煮つけるのは無理なので、信頼できる川魚屋に頼み、毎朝、出来立てを受け取りに行くことにする。天寄せとは地元特産の寒天を使ったゼリー状の料理で、果汁や昨今はコーヒーなどを入れる。巻き寿司は干瓢の太巻きが地元の定番。

前日から餅米を冷やかし、外の露天カマドで数時間蒸し、今年96歳の親父が子どものときすでに古かったという臼を使つてつく。子供や孫につかせてみるが、やはりそれなりの年季はいる。私は正月のたびについてきたから大丈夫。餅はあんころ餅にするので大量の小豆を半日コトコト煮て粒あんを作る。

かくして準備万端整い、その日を迎えた。私は、村落単位^{はっぴ}の法被を客に着せて御柱を曳きに行ったり（法被を着ていないと綱を曳くのは許されない）、高過庵を案内したりで三日間が過ぎ、配偶者はひたすら家の中でご馳走の用意と接客に努め、御柱を見ることなく終わる。なんせ迎える相手は80人。

本格的なおもてなしをやってみて意外だったのは、どうもてなそうかと考えたり準備したりがとても充実して感じられたこと。嬉しかったのは、来た方が皆、満足そうであったこと。

おもてなしがこんなに充実して楽しいとは、このたび初めて知ることができた。

そして、こんなに充実して楽しいことを、どうしてわが建築界はこれまで正面から扱って来なかったのか改めて考えさせられた。それはやはり『日本住宅の封建性』と『食養分離論』の後遺症だったのではないかな。

確かに、合理的で機能的で家族本位の住宅は不可欠だけれど、それが満たされれば、次に、人間という社会的で社交的な生き物は、他人との交わりの場として住宅を使いたくなるのではないか。戦後、そうした交わりの機能は住宅の外に出され、ホテルや料理屋でなされてきた。もちろんそれも場合によっては有効だが、深く持続的な他人との交わりは自宅に迎えてこそ可能になるのではないか。迎えられる側から見ると、ホテルや料理屋ではなく自宅に招かれるときのほうがずっと嬉しいし、出かける前から気が入るのは必定。

21世紀の住宅平面の新しいテーマとして、客をどう迎えるかを考える必要がありはしないか。御柱の場合、昔ながらの木造住宅の接客空間をきれいにして使ったが、もっといろいろな平面があるはずだ。客用の空間を日頃から画するのは無理にしても、客が来たときにすぐそれ用に転ずることのできる作りもありそんな気もする。

茶室空間の「おもてなし」

御柱のおもてなしの舞台となったわが田舎の生家には、茶室のような空間が二つある。一つは本当の茶室で、30年ほど前、何を思ったか母がお茶を習い始めたのを機に老木工が作ってくれた。もう一つは、12年前、父が作った洋風応接間を道路拡張によって取り壊さざるを得なくなり、代わりに新たに応接間兼茶室として作った。

後者は私が設計し、土足のままの応接間に茶室の用途を加えるべく、栗とイチイの曲がった独立柱を二本立て、床の間の棚と炉を切っている。

かつての靴を脱いで上がる洋風応接間より使い勝手ははるかに優れ、ちょっとした客や打ち合わせはここで済む。土足での応接を伝統的な木造住宅の玄関と一体化して置くアイディアは、戦後の早い時期の農村計画学の提案に由来する。私は大学の佐々木嘉彦先生の授業で知り、現在の東京の“タンポポハウス”の地に移ってから隣の農家がこの提案を実践しているのを見聞し、なんとなく無用感の漂う農村計画学を見直した。

この農家用土足応接と立礼茶室の合体空間は、茶室としても気に入っており、もちろん

今回の御柱にも大活躍。

戦後の建築計画学は、都市の住宅については接客空間を消滅させ、農村については新しい接客空間を定着させた、といえるのかもしれない。ただしどの程度定着したかは不明。

とするなら、戦後の住宅に関する建築計画学は、都市においても農村にあっても、接客空間が、消滅させるにせよ進化させるにせよテーマであったということができる。

改めて考えると、ここ10年ほど取り組んできた茶室は、接客だけを目的として成立しているし、それも独立建築として作られているから、これほど純度の高い接客空間も他にない。

でも、私が取り組もうと思ったのは、接客空間とは関係なく、建築空間として興味深かったからだ。その一番のポイントは極小空間の中に火（炭火）が投入されていること。火の有無はその空間が人用か神用かを分ける指標にちがいないし、火は人間の空間にとって始原的な働きをするのに、これまでの茶室研究の中では火の存在が論じられていないからだ。

人類と建築空間への興味からスタートした茶室作りであったが、〈一夜亭〉(2003)、〈矩庵〉(2003)、〈高過庵〉(2004)の三作を立て続けに実現してみると、意外な効果のあることを知った。中に入りたいという人が結構多い。建築関係者については想定していたが、ごく普通の人も、お茶の嗜みのある人も、好奇心をくすぐられるらしい。

とりわけ高過庵は海外からの見学希望者も結構いて、おもてなし効果は抜群。

茶室という空間のおもてなし効果については、高過庵以前からある程度は知っていた。自宅の〈タンポポハウス〉の主室（居間兼応接間）に茶を習う配偶者用の炉を切り、客があれば大急ぎで片付け、炉を囲んで茶を喫めるようにした。茶の経験の乏しい外国人が来た時に点てると、その存在は見知っていても意外に本格的に喫んだことのない人が多く、喜んでくれるし、間が持つ。当初は外国人だけだったが、日本の学生も伝統文化については外国人同様であることが分かり、点てるようにし、今では、自宅でのおもてなしのメインコースを張っている。

茶室なんてとても、と思われる本誌読者は多いかもしれないが、これくらい作り易い建築もない。水屋無しで済ませば面積は畳二枚分あればなんとかなるし、三枚あれば十分。私の場合、三畳相当が定番化している。材もその辺を見繕えばいいし、加工も素人加工こそ望ましい。茶室の良し悪しは、面積も材も技術もコストも越えて、ただただ建築的センスにかかる。利休もそのようにして天下人秀吉のために〈待庵〉を作っている。

戦後日本の住宅は接客空間をどうするかで方向が決まり、日本の伝統の中には世界にも例のない純粹接客極小空間としての茶室がある。

建築の歴史を動かしてきた「おもてなし」の意識

ここまで書いてきて、一つ疑問というか仮説が湧いてきた。

“建築の歴史を動かしてきた原動力は接客ではなかったか”

自分たちのため、ではなく、お客様を迎えるため、を原動力として建築が進歩してきたなんて歴史観はこれまで聞いたことも考えたこともないが、試みに長い長い日本の歴史をあわてて振り返ってみよう。

まず、日本の建築史の原点たる縄文住居から。縄文住居のターニングポイントは床で、土間に床が持ち込まれ、土間と床の併存が始まり後の民家の原型が成立するが、その床はいつどんな事情で成立したのか。これについては中谷礼仁の興味深い仮説があり、仏像など仏教のしるしを置くとか仏僧を招くとか、仏教の流布の中で生まれたのではないか。アイヌも土間の壁際に棚を設け、窓から入ってくる神をそこで祭る。確かに、仏像やお札を土間に直接置いてはバチアタリ感は免れない。

弥生から古墳時代にかけての高床式はどうだろう。かの家屋文鏡に刻まれた四棟のうち三棟の前方には露台が張り出し、上には権威を示す衣傘きぬがさが差し掛けられているから、住み主たる王や王妃がこの露台に出てきて、地面に伏すか立つかする目下と接見したと思われる。おもてなしとは主客の立場が入れ替わるが、接客、接見という対外意識からこの場が出現したことは変わらない。先ほどの言葉は、



図7 〈和洋併置式邸宅〉岩崎久弥邸配置図
設計コンドル 明治29年

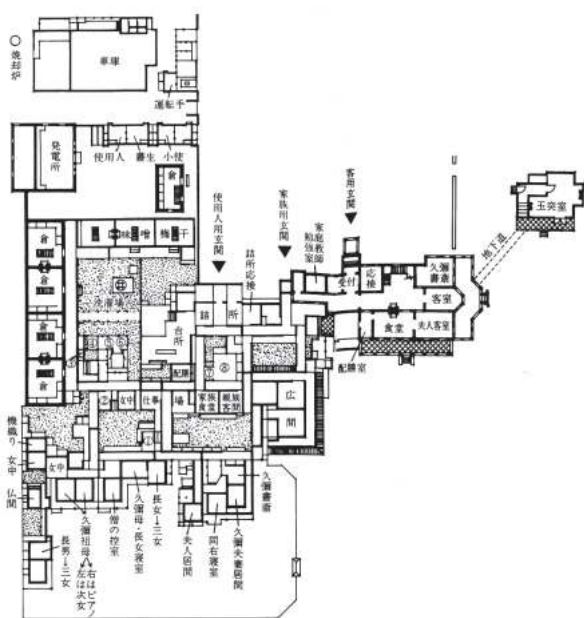


図8 岩崎久弥邸平面図
設計コンドル 明治29年

“建築の歴史を動かしてきた原動力は接客・接見という対外意識ではなかったか”と変える必要がある。

寝殿造はどうだろう。露台によって一段高い床面が上、地面が下、という高床式で成立した“接見時微小高低差上下制”がさらに高度化したのが寝殿造にちがいない。地面よりも縁が、縁よりも廂が、廂よりも身舎が、と小刻みに高さをあげ、最後に畳の上に天皇。こうした微小高低差にもう一つ、露台の衣傘が示していた北側が上、南側が下という方位の上下が加わり、天子は南面して北端に座し、そこから南側に離れるに従い、身分は低くなる。

寝殿造は、生活より儀礼重視の空間であることはよく知られているが、言い方を変えれ

ば接客・接見の機能が生ま出したスタイルといえよう。

引き続き書院造はどうか。書院造を特徴づけるのは畳と天井と襖と障子により囲われた四角な部屋の誕生にちがいないが、その部屋を強く印象付ける床の間は、接客・接見用として発達している。客よりも自分が上位の場合は床の間を背にして対面し、自分より上位の客を迎えるときは客が床の間を背にする。

書院造の代表として知られる二条城を訪れると、豪華な御成門といい豪壮に飾り立てられた床の間といい、中核部分は接客・接見のために発達したことがよく分かる。実際に将軍が泊まったり私用に使ったりした部屋を見ると、ちょっと隠れた位置にあり、豪華ではあるが狭い。

茶室はどうか。すでに述べたようにごく少人数の大事な客を迎えるための専用施設に他ならず、客一人、亭主一人の〈待庵〉が示すように、接客空間の結晶のごとき建築であった。

その茶室に影響されて硬い

書院造が軟化して数寄屋造に変わり、ここに初めて自分と家族だけがくつろぐための空間が生まれる。ヨーロッパの建築史に当てると、対外重視のパロック様式の宮殿の後に生まれた貴婦人用のロココ様式に相当しよう。

でもその数寄屋造も、現在では、高級旅館や料亭のような接客施設を最後の砦として生き残っている。

最後に近代を見てみよう。洋風建築の導入によってそれまでの伝統的木造建築は大きく揺さぶられ、近代化・西洋化へと軸足を移すようになる。伝統的な書院造の中に、洋館がいつどのような事情で取り込まれてゆくかは判明しており、明治10年代のこと、大きな書院造の広間（一番格高い接客用の座敷）の隣

に小さな洋館が併置される。併置の理由は、洋風生活しかなしに決まった天皇を迎えるためであった。この習いは、まず有爵者の邸宅に広まり、さらに天皇の行幸を格別意識する必要のない邸宅へも波及し、明治中頃には〈和洋併置式邸宅〉として一つのスタイルを確立し、確立した後、上から下へと波及し、やがて応接間だけを洋間とする〈中廊下式住宅〉が成立する。



図9 〈中廊下式住宅〉岡田邸
設計山田醇 昭和6年

日本の明治から昭和戦前までの住宅を代表する和洋併置式と中廊下式の二つについて考える時、忘れてほしいのは、それまでの接客空間であった広間（座敷）が洋風応接空間にとって替わられたわけではないということ。それまでの広間（座敷）も温存され、その隣に洋風応接間が重なった。接客空間の倍増が、戦前までの日本の近代の正体であった。

こう歴史をたどりながら、少し辟易するのを禁じ得ない。接客・接見重視の建築とは、言い替えれば見栄と外見重視に他ならない。それが建築の歴史を動かす原動力になってきたとは。

私は御柱と茶室の二つを通して、おもてなしの面白さと重要性を知った、と書いてきたが、おもてなしの五文字を接客・接見重視と言い替えると、面白さと重要性は私の気持ちの中で少し薄くなり、見栄と外見重視に置き替えた瞬間、面白さと重要性は消失してしまう。

同じ内容が、言い方ひとつでかくも変わるものなのか。

“おもてなし”と“見栄と外見”は同じ内容にもとれるが、よくよく考え、本質的な差があることに気づいた。“おもてなし”には心がこもっているのに対し、“見栄と外見重視”はそこんところが欠けている。

（ふじもり てるのぶ）

各論

1

新しい旅の姿

寝台列車「瑞風」を
デザインする

浦 一也

浦一也デザイン研究室

浦 一也

1947年 札幌生まれ。

1972年 東京藝術大学大学院美術研究科
修了。

日建設計、日建スペースデザインを経て

現在、浦一也デザイン研究室主宰。

北海道日建設計デザインアドバイザー。

インテリアデザイナー。

著書に「旅はゲストルームⅠ,Ⅱ」(光文社)

「測って描く旅」(彰国社)など。

ホテルが走る

2017年春にJR西日本の寝台列車TWILIGHT EXPRESS瑞風が運行を開始する。

10両編成に約30人の乗客を乗せ、山陰と山陽の周回を含め5ルート。ツインルーム（ユニバーサルルーム含む）は13室、シングルルームが2室、1両1室でバスタブを備えたスイートがあり、中央にダイニングカーとラウンジカー、先頭と最後尾に展望車を備える。1泊か2泊するのだが、車内の食事は各地の一流レストランの味を楽しめるほか毎日エクスカーション・ツアーがあり、バスなどで温泉地やレストランに立ち寄ったりする。列車の外観は、先代のトワイライトエクスプレスを彷彿とさせるダーク・グリーンの車体、先頭車は懐かしい「ボンネット型」を連想させる。動力はディーゼル発電機による電力とバッテリーアシストによるモーター駆動のハイブリッド。

全体のコンセプトは「美しい日本をホテルが走る」としている。外部に出られる「デッキ」や風を感じられる「上げ下げ窓」をたくさん設け、FIX窓もとても大きい。沿線各地の建材や伝統工芸品を使ったり飾ったりし、京都、松江、萩などを巡るということもあって、茶の湯を楽しむこともできる。やや贅沢な「おもてなし」を受けながら…

そのデザイン・プロデュースとインテリア・デザインをしているのだが、もちろんJR西日本の主導と深い理解の上に立って…それは列車というよりホテルのようなものをつくらうとする仕事でもある。キーワードを「ホテルが走る」としている所以である。「走るホテル」としなかったのは、ホテルに投宿しているといつの間にか走り出しているというイメージを強調したかったのだ。



「瑞風」先頭車のエクステリア

人によるサービス

ホテルには昔からハードよりサービスのよいうなソフトが大切…と言われ続けてきた。「いいホテル」とは建築や空間を指しているのではなく、多くはサービスや格式の程度をいつている。たしかにできたばかりのホテルはどんなにハードが立派でもサービスがなくて、古いホテルや改修したものにいいものが少なくない。

しかしそのサービスもこの頃どんどん変わっている。ドバイのある超モダンホテルではフロントでタブレット型端末を手渡され、「これに全部入っています」と言われただけであった。照明のON/OFF、調光、カーテン、テレビ、オーディオはもちろん、宿泊約款、ダイニングの予約、ルームサービスのオーダー、国や町のガイド、市内施設の予約…なんでもできる。しかしなぜかとても寂しい。

今後はこのようなホテルが増えそうだが、やはり人によるサービスがいい。旅館で仲居さんが布団を敷き延べながら天候のことなどをそれとなく話題にしたりする…そういう世界はなくなってほしくない。

「瑞風」では客室を担当するサービスクルーが上質なサービスを提供する予定である。「王侯貴族並みに…」とは言わないが、人によるかゆいところまで手が届く暖かいサービスを受けたいからである。ツインでは夜になるとサービスクルーが壁からベッドを引き出ししてくれる。お湯も氷もルームサービス。このサービスは日本の旅館や昔のホテルに通じる。

人と設備が一体となってサービスすることを追求していくと、ハードもソフトもどうも超モダンではなくなるように思う。かといって近代以前のものでもない。自分たちが子供だった頃や父親、母親の時代…それは懐かしくも「よき時代」であったのだ。

ノスタルジア

最新の建築は過ぎ去った時間をテーマにしたものは少ない。しかし西欧にはリニューアルを重ねたいもののがたくさんある。古い価値あるものを壊して新しいものをつくることは罪悪であったりさえする。空間をテーマとしにくいのなら、時間をテーマにして列車に取り組んでみたいと思ったのはそのあたりにあった。

1925年、パリで万国装飾美術博覧会が催された。その後、あっという間に世界を席卷したデザイン様式に「アール・デコ」がある。パリ、ニューヨーク、ベルリン、上海、東京…。アール・ヌーヴォーの植物的、有機的、曲線の様式に対し、幾何学的、直線的なジグザグ模様や定規とコンパスを多用したようなそのデザイン様式は機械的な「未来」を予感させ、一世を風靡して最後の装飾とも思わせるものだった。

そんなアール・デコを瑞風全体のデザインボキャブラリーとした。日本のデザインもそれに通じるものがたくさんあって、「和洋の境をまぎらかす」かのように渾然一体になってどこことなく懐かしい「ノスタルジア」の世界を形づくっている…と思う。



ダイニングカーのインテリア



スイートルームのベッドルーム

取り合わせ

お茶の世界に「取り合わせ」という概念がある。

各種ある茶道具を季節、歌、物語、来歴、姿などによって取り合わせ、その組み合わせの妙を図るようなことをいうのだが、瑞風のプロデュースにあたっては内装・家具・備品・アートなどをデザインしたり選んだりしたりするにあたり、それに似たようなコーディネートをしている。

具体的には地元産の天然木、組紐の目地、彫金されたスイッチプレート、壁に飾られた名物裂、いくつかの名作椅子、茶の湯の道具類、フランスやドイツのアール・デコの工芸

品やレリーフ、懐かしい写真や版画、何人ものアーティストによる「描き下ろし」の絵画や彫刻、陶芸…といったアイデアを考えている。

それらの小さな備品やアートのデザインやセレクトにはノスタルジアという脈絡がある。その取り合わせを見ることもまた、瑞風の旅の一面としたい。

列車は建築ではない

もとより列車は建築ではない。

日本の狭軌サイズ1,067mmの鉄路上を走る鉄道である。1両も長さ約20m、幅約3mと、とても細長く狭い。天井の高さも低い。鉄やアルミでできていて、どの壁も100mmそこそこの厚さ。大地、自然や風土とのコンテキストを持ちにくいので手がかりを他に求めなければならない。

また、動かない建築と、走る列車では大きくハードのつくり方が異なる。寸法、ディテール、重量など…これが設計の大きなポイントになったのは言うまでもない。不燃性も大きな壁で、建築より厳しい制限はマテリアル選択が限られた。

さらに、そのデザインは誤解を恐れずにいうとプロダクト・アウトとマーケット・インの中間にあるといい。特定の客を対象とするデザインといっても不特定でもあり、誰が乗るかわからないのに特別仕様の唯一無二のデザインで固めているのである。

私はそこではじめて「ベルソナ・ストーリー」的な設計手法をとった。顔が見えないエンドユーザーの属性を年齢から経歴、家族構成、趣味にいたるまで想定で積み上げ、その人物像をはっきりとイメージしてからプロデュースや設計に臨んだのだ。そうすることで、まるで個人住宅を設計するような手がかりが得られたのである。

また「瑞風ワールド」は列車内にとどまらず、始発駅の特別ラウンジや立ち寄り途中駅のゲート、駅舎、レストランなどのデザインや備品のビジュアルデザインにまで及んでいる。本来、私たちは都市や建築、テーブルの上まで区別なくつながった広汎な環境に身をおいている。その環境デザインをあまり限定せずに設計することができた。

新しい旅の姿

心が解き放たれるような、非日常の世界。それは寝る間も惜しんで走るようなかつての寝台列車と異なり、ゆっくりとした鉄道の旅の中にあった。それは未知の世界でもあり、かのジョルジュ・ナゲルマケールス（*）が描いた旅の姿の延長に位置するものでもある。

次々に発表される最近の列車はこれまでにないような新しい姿をつくり出しているのかのように見える。機能本位の通勤車両などの設計は、それはそれで究極を求め大変な世界なのだが、昨今の列車などはこれまでにない新しい価値をつくり出そうとしているのかのようだ。

これからの「鉄道の旅」はおもてなしを中心としたソフトと、鉄道というハードが一体化したような鉄道ならではの姿が求められていくと思われる。

また、ホテル建築は動かないために旅の「拠点」になるのだが、瑞風のような列車は拠点そのものが動く。極端に言えば鉄路さえあればどこまでも…。こうなると旅の姿そのものが変わってくる。

かつて賓客を迎える究極の施設には、執事や料理をつくるシェフばかりではなく、医師や美容師や宗教家まで同行させた。現代はそれほどではないにしてもその拠点がどこまでも移動するともなれば、上質なサービスがついたホテルそのものが巡る旅になる。

それが新しい旅の姿のひとつかもしれない。

「ホテルが走る」のである。

（うら かずや）

* Georges Nagelmackers (1845–1905)

ベルギー出身の実業家で国際寝台車会社の創業者。アメリカのブルマン型寝台列車をヒントに寝台列車ワゴン・リを計画、1883年にオリエント急行の走行を始める。その後、パリからコートダジュール、リスボン、イスタンブール、サンクトペテルブルグ、シベリアなどに寝台列車を展開させた。

各論

2

公共トイレをまちの
レストルームとして
デザインする

小林純子

設計事務所ゴンドラ
代表

小林純子

1967年 日本女子大学家政学部住居学科卒業
田中西野設計事務所等を経てフリーに
1989年 瀬戸大橋の坂出側での公衆トイレ
チャームステーションの設計に携わる
1991年 設計事務所ゴンドラ設立
公共トイレを中心とした設計に携わる
2014年 東洋大学工学部工学研究科環境・
デザイン専攻 後期博士課程卒業・工学博士
作品：大丸百貨店東京店、さっぽろJRタ
ワー、アミュプラザ博多、湘南ステーション
ビルラスカ、千代田区秋葉原有料公衆トイレ、
世田谷区学校トイレ改修
著書：『トイレが変わる』『変わる学校トイレ』
『心に響く空間』等

公共トイレの進化

公共トイレの定義は明確に決まっているわけではないが、ここでは公民を問わず誰にでも公開しているトイレとする。

公共トイレは、人々にとって外出先で不可欠な施設であるが、30年位前は、不特定多数が利用者であるため一部のマナーの悪さからメンテナンスが追い付かず、4K（暗い、汚い、怖い、臭い）と揶揄されていた。また、そのための積極的な改善が遅れ、施設全体の快適さや、まちの豊かさを損なう状況が起こり、今回のテーマであるレストルームとは程遠い存在であった。

我が国で公共トイレの快適化が始まったのは1980年代からで、それは「都市をアメニティの視点で見直す」、「女性の社会進出」、「高齢者や障害を持つ人のためのバリアフリー環境の構築」、「量から質への価値観の変換」などが社会的な課題として意識されるようになった時期、また、個人的価値観や生活の質を高める重要性が見直され始めた時期と重なる。その後、各施設間で相前後しつつも快適化が進み、現在では排泄機能にとどまらず、心地よさが求められ、化粧直しや身繕い、おむつ交換等、まちの中の多目的空間としても捉えられてきた。最近の商業施設では、買い物の意味に商品の購買のみでなくその時間を楽しむことが加味され、施設間では長時間滞在させる仕掛けの1つとしてトイレの美化が競い合われ、排泄の場所のみではなく、ほっと一息つき、化粧や身づくろいを兼ねたレストルームとして造られ始めている。

バリアフリーに関しては、2006年から国が法整備を充実させ、障害を持つ人に対して多機能トイレや付属機器の設置等が進んだ。

我が国の訪日外国人は2014年に1300万人を超え、10年前の2倍を超えた。最近、海外の観光客からは、「日本のトイレは世界一」とまでいわれていると聞く。また、2020年に決まった東京オリンピック、パラリンピックへ向けて国際化への視点も加わり、おもてなしの公共トイレとはという議論が始まっている。

公共トイレの現状の課題

筆者は30年近く多岐にわたる公共トイレの設計を行い、竣工後の継続調査を実施し課題

を整理してきたが、現在は、1980年代の4Kとは異なる内容となっている。自らの設計の事例や他の事例の検証から、現在4つの課題があると考えられる。

①トイレ改善整備に内容や進度の格差がある

都市部商業施設等でレストルームまで進化しているトイレがある一方で、依然として4Kに近い状況のトイレも残っており、格差が下記の内容で存在すること。

- 男女格差（便器数等が少なく女性が多く待っている）
- 地域格差（地方のトイレは総じて改善が遅い）
- 年代格差（高齢者、子ども等への配慮不足がある）
- 施設間格差（学校、病院、公衆トイレ、自然公園等が遅れている）
- 障害を持った人との格差（全体的には促進。しかし、多様な障害に対しては遅れている）

②安全性の確保が不完全である

国際化で多国籍の人々の往来交流、治安や犯罪への不安感の増大等に対して、特に公衆トイレ等で安全対策が具体的に進んでいない。例えば、有料化、管理者巡回強化、複合施設等が試みられる例はまだ少ない。

③快適さ持続への実践強化が遅れている

多くの施設で、清掃性はまだ進みが遅く、清掃性の強化（内容、頻度、体制づくり）が必要である。特に清掃格差は大きく、例えば建築種別で1日の清掃頻度を比較すると、商業施設では清掃者が専門業者で約30分をかけた7回、学校は児童生徒や用務主事等で約10分かけ1回、公衆トイレは高齢者事業団の約15分を2回であった。快適さ持続は清掃者の能力、頻度、内容、特殊清掃や定期清掃等特別清掃の工程の組み入れ等が大きく影響する。これらの点で施設毎に開きがある。

④施設毎に公共トイレを統括する組織が必要

公共トイレの快適さはハード・ソフト両面での改善が必要であるため、それらを連携させ統括する運営者の存在が重要となるが、その統括組織のない事業所が多い。

現在は公共トイレの改善情報やデータや事例もあり、トイレメーカーの機器改革も進み、快適化への設計は比較的实现しやすい。もし

て竣工時は建築主や利用者から評価も高いが、それを長年持続させるのは並大抵の努力ではない。そのことを事例で見続けてきた。

それは、公共トイレをレストルームとしてデザインすることは比較的簡単だが、それを持続させることは難しいことを意味する。

標準の公共トイレとレストルームの違い

公共トイレの標準は、利用者の誰もがまち中で、安心して清潔なトイレを使え、身も心も開放され、仕事や思いで詰まった心を癒し休ませ、次の活動にゆとりを持たせる場であるとする。そのうえでレストルームとは、空間デザインも、設置機器等の性能もさらに上のレベルで、利用者の満足度も深く、清掃管理の内容も確実で、環境が定常的に担保されているトイレと考える。

では、標準の公共トイレとレストルームの具体的な違いは何だろう。

筆者の設計や公益施設等のマニュアル等から、標準仕様を具体的に考えてみた。

- ①**適正配置**（用をたしたくなくても我慢できる距離にトイレが存在する）
- ②**適正便器数**（トイレ待ちがない）
- ③**十分な換気**（15～20回の換気回数の確保があり臭いがない）
- ④**人間工学に沿った適正な広さ、機器の取り付け高**
- ⑤**手洗い、身づくりいコーナー（鏡）の設置**
- ⑥**ユニバーサルデザイン**（洋便器がある・手すり・車いすで入れる広さがある）
- ⑦**明るさ**（必要照度がある）
- ⑧**安全性への考慮**（死角がない、プランのシンプル化・オープン化）
- ⑨**プライバシーの確保**（ブースの個室化一仕切りは天井まで）
- ⑩**清掃性の良さ**（清掃しやすい建材（耐水性、耐薬品性、防汚性等）、清掃者との連携）等である。

レストルームとして設計する場合はこの他に下記のような要素が加わる。

- ①**施設のコンセプトを考慮した空間デザイン**
- ②**利用者ニーズに沿ったより満足いく機能の付加**（温水洗浄便座、温水の出る手洗い器、おむつ替え台、授乳室、子どもトイレ等）

③個室感覚のある化粧コーナー

④休息のためのソファ

また、このようなレストルーム化が可能なトイレには下記の条件が必要である。

- ①**トイレは利用者層に左右されるので、不特定多数の利用がある場合でもその層幅が制約されていること**
- ②**充実した清掃管理の費用負担が可能なこと**
商業施設や公共交通、有料公衆トイレ等でこのような条件を満たした事例がある。

公共トイレを全てレストルーム化することがおもてなしではない

おもてなしとは客を歓待することである。

最近海外からの観光客が増え、このテーマは重要課題になっている。全てのトイレでおもてなしといえるトイレになることが必要である。近年のネット社会の中で、個人行動も多くなり、彼らは、良き評判とあらば、あまり有名でない観光地にでも足を延ばす。つまり、国内の公共トイレを、公衆トイレや商業施設、交通機関、寺、神社、公園等どこでも利用する可能性があるということである。

ここで気になるのは課題で書いた施設間の格差、地域間の格差である。

我々日本人は経験上、快適なトイレがどこにあるか知っている。だが、そこまでの情報のない外国人観光者は近くの公衆トイレに飛び込み、日本のトイレは世界一なの？と不満に思うといったことが起こり得るのである。

このために、全国的に特に遅れている公共トイレの改善が必要となる。

上記のように、公共トイレの快適さ創造においては、設計時より竣工後の管理の良好さの保持の方が難しい。企画設計時、利用者層や、周辺環境、管理者の有無、清掃頻度等から、レストルームとしての設計が適切な判断が必要である。竣工後の管理状況と照らし合わせるとレストルームではないが標準仕様として、シンプルなデザインの方が良好な環境を保持できる場合も多い。おもてなしトイレとは、いつでも誰にとっても気持ちよい空間であればよいのである。

おもてなしの事例

下記2ヶ所のトイレの写真はおもてなしの

心で造られている公共トイレである。

ア. 商業施設・湘南ステーションビル平塚ラスカのトイレ—竣工後も関係者によるメンテナンス会議を実施し快適さを持続させている。清掃者が館内案内も可能な教育を受け幅広く快適環境づくりに一翼を担う。（写真1、写真2）



写真1



写真2

イ. 公衆トイレ・東京都千代田区秋葉原有料公衆トイレ—トイレを有料化し、清掃者兼案内者を常駐させ、安全で清潔なトイレをいつでも誰にでも提供することを可能にしている。（写真3、写真4）



写真3



写真4

（こばやし じゅんこ）

京都花街、舞妓さんのおもてなし

西尾久美子

京都女子大学現代社会学部
教授

西尾久美子

京都市生まれ。実家は数代続く米穀商。
大阪ガス株式会社に勤務後、滋賀大学経済学部を経て、神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了、博士（経営学）。
神戸大学大学院経営学研究科助手、京都女子大学現代社会学部准教授、2013年4月から現職。

専門は、経営組織論、組織行動論。
主な著書：『京都花街の経営学』（東洋経済新報社、2007年）、『舞妓の言葉—京都花街、人育ての極意』（東洋経済新報社、2012年）、『おもてなしの仕組み—京都花街に学ぶマネジメント』（中公文庫、2014年）など。
京都花街の人材育成とビジネスシステムに関する研究が注目され、テレビ・ラジオ番組への出演、新聞・雑誌の取材など多数。

<http://kyotohanamachi.biz/>

舞妓さん

桜の便り、夏の川床、秋のもみじ、雪の瓦屋根、こうした風景を背景にはんなりとした着物姿で愛らしく微笑む舞妓さんのポスターを見れば、「京都へ行ってみよう！」と思われる方も多いだろう。

京都のシンボルとも言える舞妓さんは、京都にある五つの花街¹⁾で生活している。彼女たちの多くは京都出身者ではなく、日本全国から中学を卒業後に京都に来て、約1年の住み込みの育成期間を経てデビューする。そして、10代半ばの少女が「舞妓さん」になるとすぐその日から、お座敷²⁾と呼ばれるおもてなしの現場に行く毎日が始まる。

舞妓さんはだらりの帯に裾を引きずる振袖を身に付け、日本髪を地毛で結い上げている（写真1を参照）。4～5年ほどの舞妓経験を経て芸妓にキャリアが変わる。芸妓さんになると裾を引きずる着物に帯はお太鼓に結び、日本髪の鬘となる（写真2を参照）。

舞妓（20歳以下）の特徴

— 江戸時代後期の町娘の外出着、可憐さ —

地毛の日本髪
花かんざし
白塗りの化粧
着物（肩上げ・袂の縫上げ）
だらりの帯
ぼっくり（帯留め）
半衿（赤地に刺繍）
帯揚げ（赤地）
おこぼ（高さ10cmの履物）



写真1 舞妓の装束（写真提供：筆者、禁転載）

芸妓の特徴

— 大人の女性の粋な風情 —

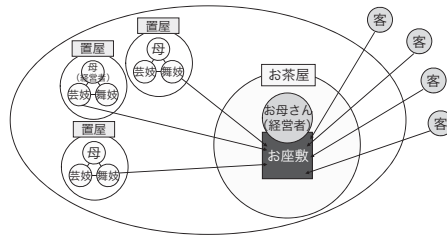
日本髪のかつら
かんざしはシンプル
白塗りの化粧
着物（袂が短い）
帯はお太鼓結び
帯締め
半衿（白）
帯揚げ（白地）



写真2 芸妓の装束（写真提供：筆者、禁転載）

このおもてなしの現場は、京都花街にあるお茶屋の中とは限らない。京都花街のおもてなしのコーディネーターのような役割を果たす事業者「お茶屋」のお母さん（経営者）が、お客さまの要望に応じておもてなしの場所やお料理、舞妓さんや芸妓さんを決める（図1を参照）。つまり、彼女たちは、おもてなし

サービスの重要な構成要素の一つとして、現場ごとで組み立てられる。このようなビジネスの仕組みが、京都花街では連綿と続いている。



お茶屋のお母さんは、顧客の来店目的（接待、息抜き、法事等）と好みを考えて、どの芸舞妓を呼ぶか決める→顧客満足度を考慮した現場設計

図1 お座敷（仕事の現場）の成り立ち
— お茶屋と顧客と芸舞妓の関係 —
『京都花街の経営学』をもとに筆者作成

おもてなしのプロジェクトチーム

冒頭で紹介したポスターも、企画会社がお茶屋に依頼をして、舞妓さんを観光名所に派遣してもらって撮影する、そんな流れで出来上がっている。

このように、舞妓さんばかりでなく芸妓さん（関東では芸者さんと呼ばれる）も、おもてなしのチームメンバーとして、サービス提供のたびごとに、お茶屋の差配のもとにプロジェクトチームが結成される。

例えば、舞妓さん2名と芸妓さん3名で料理屋さんに、舞妓さん20名と芸妓さん10名でホテルのパーティにと、行く場所も人数もさまざまである。そして、要望に応じて柔軟に編成されたチームとして、毎日3つから4つのお座敷に出かけている。

だから、デビューしたばかりの新人の舞妓さんにとっては、行くお座敷の場所も初めてで、同行する先輩芸舞妓さんたちも顔と名前は知っているがお座敷でチームになるのは初めて、ということも珍しくはない。さらに、舞妓さんが新人が経験3年目なのかお客さまは知らないことが多いから、お座敷に行けば、即それなりの技量を発揮することが求められる。

つまり、舞妓さんとしてデビューすることは、厳しい条件の現場を、おもてなしのプロフェッショナルとして担うことであり、緊張と失敗の連続の日々を過ごすこととなる。

一方で、あこがれの舞妓さんとしてデビューできることは、やりがいのある日々が始まることでもある。海外からの観光客の前で日本舞踊を披露する、日本庭園で写真撮影

会に参加する、パーティ会場でお客さまと会話をしながらおもてなしをするなど、「舞妓さん」として注目を浴びる毎日を過ごすようになるからだ。

「舞妓さん、かわいい。しぐさも、きれいだわ!」、「日本舞踊、しっとりとして感動したよ。でも、お稽古は大変では?」など、お客さまから褒められたり、厳しい環境で努力を続けることを評価されたりと、お座敷に出るとうれい声かけを受ける機会に恵まれる。

こうした数々の現場経験が、「お客さまが喜んでくれるのが、一番うれしおす」と、まだ10代の新人の舞妓さんたちに、日本文化を体現するプロフェッショナルとして必須である顧客に寄り添う気持ちを培っていくのである。

おもてなし力、「座持ち」の育成

彼女たちをおもてなしのプロフェッショナルとして磨くのは、これらのお褒めの言葉だけではない。実は、一緒にお座敷をつとめる先輩芸舞妓さんたちやお茶屋や置屋（舞妓さん育成の事業者）のお母さんたちから、いろいろ行き届かないことについて指摘される。

自分で気が付いていることはもちろん、気が付かないことについても、毎日毎日、さまざまな厳しい言葉がかけられる。彼女たちに何が足りないのか、どのようなことに気を付ければいいのかを教え、おもてなしの力をより確実に磨いていく。

では、どのような言葉を先輩芸舞妓さんたちから新人の舞妓さんは言われるのだろうか。

「かんざしの挿し方は、こうした方がええ」、「帯をバタバタさせたら、じゃまになるさかい、気をつけてや」、「お客さまの前では、なんば急いでいても、走ったらあかん」などと、よりあるべき舞妓さんらしく振舞うこと、他の人と一緒に仕事をするために必要なごく基礎的なことを、指摘される。そのほとんどが、新人の舞妓さんにとっては耳の痛いことばかり。しかも、時にはお客さまの前で、「あなたは○○ができない」といった意味合いのことを言われることもある。

一見すると、とても厳しいように思えるが、彼女たちが、舞妓さんとしてあるべき姿として存在し行動することが、伝統文化に裏打ちされたおもてなしを提供することになるのだ

から、その場その場で能力育成のための言葉がかけられることは、よりよいおもてなしサービスのために重要だ。

そして、「座持ち」と呼ばれるおもてなしのために必須の能力が育成されていく。

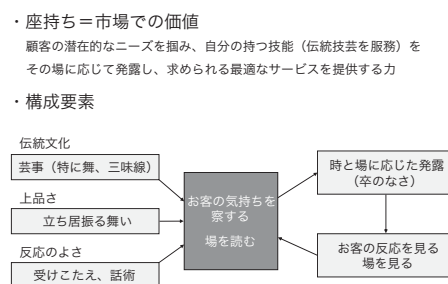


図2 「座持ち」とは？
『京都花街の経営学』をもとに筆者作成

指摘をうけとめ、活かす

周囲の先輩たちから何か言われると、「すんまへん、○○さん姉さん、おおきに、気いつけます、おおきに」と、謝ると同時に指摘されたことに舞妓さんたちはお礼を言う。

しかし、それだけでは、不十分だ。彼女たちは、置屋に帰ってから、「いつ、どこで、どれから何を言われた」のかを、きちんと報告しなければならない。現場でだれが何を「言うてくれはった」かを伝えることで、置屋のお母さんやお姉さん役の芸妓さんは、現場での新人の舞妓さんの様子や技能進捗をチェックすることができ、それに応じた指導をしていく。

これは、新人の舞妓さんが何か指摘を受けたこと（特に自分で気が付いていないこと）を「嫌なことを言われた」ととらえると、いわゆる京都の「いけず」を言われたという解釈になるが、「言うてくれはる」ととらえると、自分の能力を伸ばすためになると教えることになる。

そして、「言うてくれはる」と他者からの指摘を前向きに受け取れるようになることは、現場で一緒になるさまざまな人たち（お客さまを含む）から、指導を受ける姿勢をつくり、数年間の舞妓さん時代で技能を上げることにもつながる。能動的に他者からの指摘を受け取り、それを自らの能力育成に活用しようとする、その姿勢が、日本的なおもてなしを支える姿勢となるのである。

形のあるものと形のないもの

舞妓さんたちは、建物や建具、食器類、伝統芸で使う小道具や茶道の道具類など、私たちの身の回りにある日本的な形のあるものを、さらに輝かせる存在だ。彼女たちがそれらを丁寧に、美しく、機能的に扱うことで、一緒にお座敷やご宴会で過ごす人たちに心地よさを感じさせる。

だから、新人の舞妓さんだからといっても、おもてなしに手を抜くことは許されないのである。目の前にいるお客さまに、あるべき適切なサービが提供できないだけでなく、ブランドとして良いイメージがあるからこそ、未熟なこと不十分なことを改善できる姿勢が新人の舞妓さんに身につかないと、京都の「舞妓さん」全体のイメージの低下につながるような大きな問題になってしまう。

おもてなしのためには、心地よい空間作りが必要だ。街並みや日本家屋独特の建築様式もおもてなしのための重要な要素³⁾である。ただし、それは有形のものだけでできあがるのではなく、ものをより輝かせる、ものと一緒に輝く行為があつてこそ、文化になると考えられる。

舞妓さんのポスターが私たちの心をとらえるのは、彼女たちの笑顔や装束が美しいだけではなく、形のあるものと形のないもの、両方に、配慮のある行動を舞妓さんたちが日々実践しているからである。

（にしお くみこ）

註

- 1) 祇園甲部、宮川町、先斗町、上七軒、祇園東（順不同）
- 2) ご宴会と呼ばれることもある。
- 3) 建築を専門とされる先生方とともに『伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的体系化とマネジメント』（科学研究費基盤研究（B）岡崎篤行代表）をテーマに調査研究を継続中である。

参考文献

- 西尾久美子『京都花街の経営学』東洋経済新報社、2007年
西尾久美子『舞妓の言葉—京都花街、子育ての極意』東洋経済新報社、2012年
西尾久美子『おもてなしの仕組み—京都花街に学ぶマネジメント』中公文庫、2014年

お茶、雑感

茶の空間

茶室というのは、茶をたて飲む為の空間というのは当たり前だし、その通りなのだけれど、そう簡単には言い切れない。私は比較的そういう友人や仲間が多く、そうした機会が普通よりは多いのだろと思うれるが、それでも月に一回か二回位のもので、オフィスで仕事の後一杯のビールや冷たい酒を一杯やる事の方が断然多い。しかし、茶を飲むことは簡単で軽い事ではないが、ちょっとした決意のようなものがあるのである。決意というよりも、私の場合は気合と言うのか、一つには

多分、姿勢なのかもしれない。

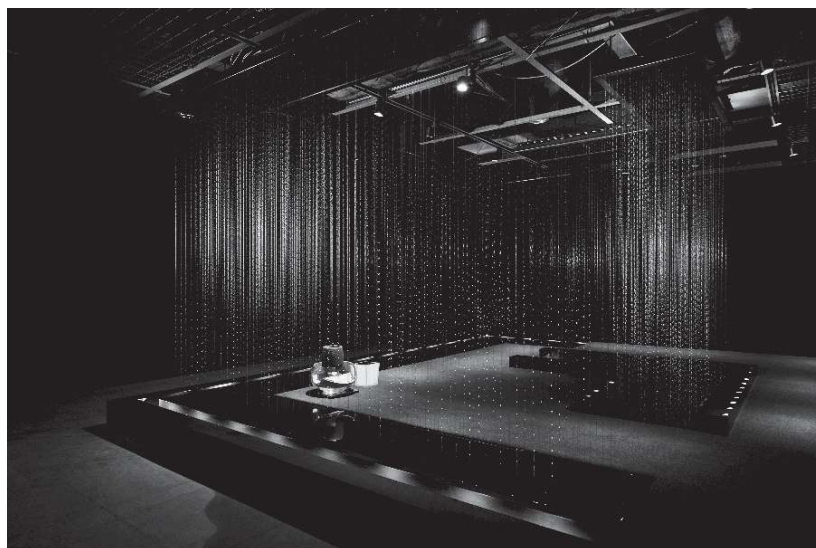
よく、正座をしなくても、と言われるけれど、なかなかそうはいかない。どうやら、若干緊張するようだ。膝とか、身体もそうだが、むしろ頭が多少緊張するようだ。

少量の茶と共に何か喉を通るものがあるのである。それも、少々しっかりとしていて、スーッと味わい深く、飲みながらも飲みごたえと言うか少しだけ一緒に引きずられているものが、説明は難しいが確かにあるのである。

雰囲気は悪いものではない。ある種の爽やかさとでもいうのか、落ち着くのである。ま

2008年 『杉本貴志展』にて水の茶室・鉄の茶室を展示

水の茶室



杉本貴志

株式会社スーパーポテト 代表取締役
武蔵野美術大学名誉教授

杉本貴志

1945年東京都生まれ。1968年東京芸術大学美術学部卒業後、1973年（株）スーパーポテトを設立、商業空間のデザインを数多く手掛け、バー、レストラン、ホテルの内装デザインから、複合施設的环境計画、総合プロデュースまで幅広い分野で活躍。

主な作品に、「春秋」「響」「ジバング」等の飲食店の内装設計や、近年は、国内外のホテルのインテリアデザインを多く手がけ、主なものに「パークハイアット」（ソウル、北京）、「グランドハイアット」（シンガポール、上海、東京）、「ハイアットリージェンシー」（京都、東京）、「シャングリラ」（香港、上海）、「ペラジオ」（ラスベガス）などがある。毎日デザイン賞（1984年、1985年）、インテリア設計協会賞、Restaurant Design of the Year、国土交通大臣賞、第一回KUKAN賞、Interior Design Magazine Hall of Fame Awards 2008等受賞多数。



天井から落ちる雫が結界を作って茶の場を作っている。
釜はガラス製である。

るで、一風呂浴びて身ざれいにしたかのよう
に、あるいは身边に散らばった雑多な品々を
並べ直すというのか、そういった気持ちにな
るのである。

茶を飲むことは、嗜好品としての茶ではな
く、茶の形に昇華した茶という文化とでも言
うか、向かい合い、様々な想像を合せて飲む
ことなのだろう。

古い会記によってかつての茶会を想像して
みると、__月__日、行われた場所、集まった
人々、茶をたてた主人、そして食事の献立、
床の軸物、花、に始まり、花器、釜、茶器、

水指、等の道具類、そして茶碗、菓子の種類
が記され、我々はそれらを見て往時を想像す
るのである。

それらは道具でありながら道具ではなく、
その背景に物語を持ち、その風景を作り上げ
ているのである。その当時の日常性に挟まれ
た非日常的な物語であつたに違いない。往時
の茶室（それも大変狭い）に海外の材料がよ
く使われ、光壁や天井等、変化に満ちている
のもそういった理由があるのであろう。

木の葉が色づく山の深さであつたり、いく
つもの色が重なった紅葉であつたり、吹き抜

ける冷たい風であつたり、そこにわずかに芽
生える新緑であつたり、鮮烈な水のせせらぎ
であつたり、そうした物語をまとった古い言
い伝えかもしれないし、あるいは伝承された
物語かもしれない。そうした気配の引き金が
満ちているのである。

しかし、現代の我々を取り巻く空間は極め
て多くの情報に囲まれている。出会う人の数
も昔とは比較する事が出来ない。現代の我々
が生活をし、過ごす空間は簡単ではない、単
純ではない、情報の量も質も種類も圧倒的で
ある。一日に出会う人間の数も、仮に新宿駅
を通過する日々を送っていると考えると、昔
の何百倍、何千倍をも凌駕するだろうし、移
動する距離も想像を絶するに違いない。あら
ゆる情報の渦にまかれ、その中で選択をする
ことが人生なのである。

空間は自然と曖昧になり、それも一重や二
重どころではなく、何層にも重なって多層化
され、そうした中で選択をしなくてはならな
い。着衣も同様だし、食材も同様である。本
来はそうしたのではなく、限られた空間の
持つ極めて強い限定的な特異性を目指したの
であらう。しかし、今は一碗の茶碗や軸物で
語るのはかなり難しいと思われる。

それは、敢えて言うならば、移ろいゆく光
のように、また吹き抜ける風のように、変化
するさまを空間に重なりながら感じられるか、
ということなのであろう。

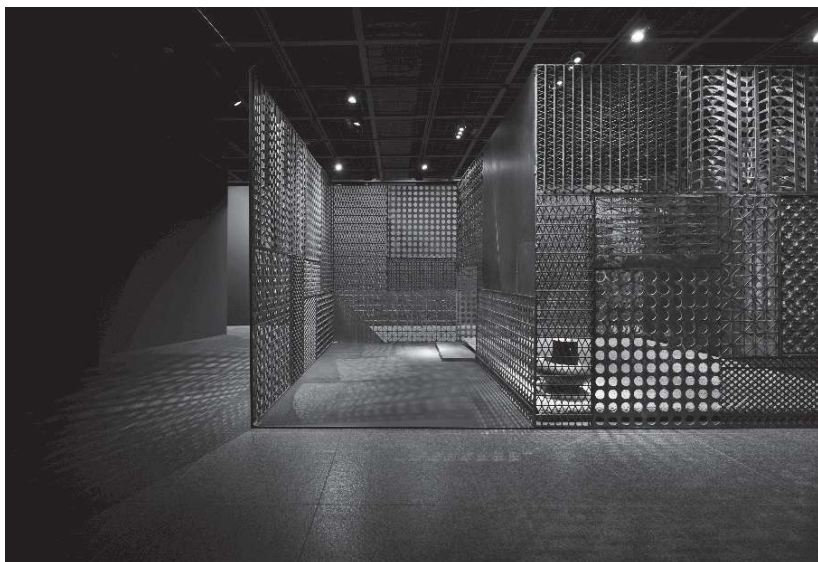
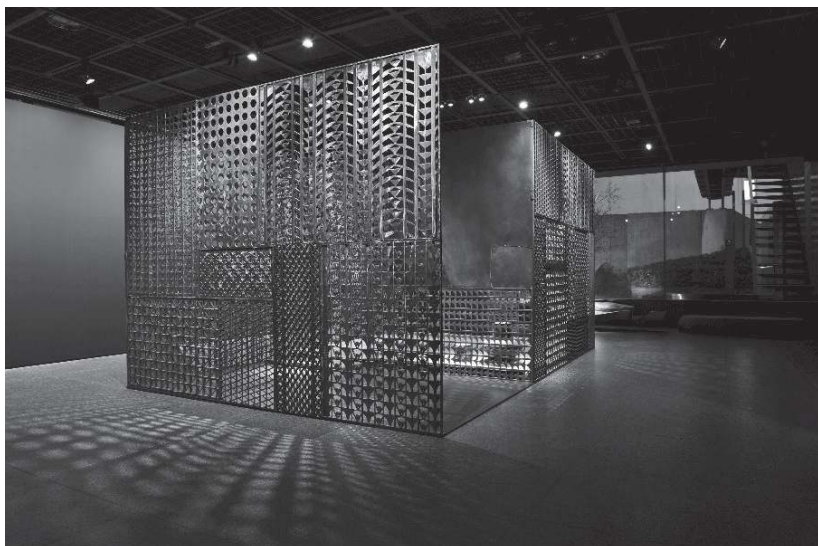
空間は限定し、固定するのではなく、水が
流れる様に流転し、象徴するのである。重な
り合って変化する。だから美しい。茶室の写
真集にはあまり感じない。“茶碗”も同様で、
“茶碗”の語る事は限られているようだ。

私は釜を見るのが好きだけれども、どんな
に形や“ハダ”に魅せられても、あるいは時
代や物語を抱えていても、その事で茶全体を
語る事は出来ない。茶室も同様である。

(すぎもと たかし)

写真はすべて撮影：ナカサアンドパートナーズ

鉄の茶室



1993年に裏千家の茶美会“素”の為につくられ、その後2002年にニューヨークで行われた「The New Way of Tea」展に運び、茶事が行われた。
ロンドン郊外の廃品置き場で見つけた鉄の廃材を集めて作られたものである。

食べる・・・ 食空間にまつわる話

橋本夕紀夫

橋本夕紀夫デザインスタジオ

橋本夕紀夫

1962年生まれ。東京藝術大学特別講師、愛知県立芸術大学非常勤講師、昭和女子大学非常勤講師。

主な作品に「ザ・ベニンシュラ東京」(日比谷)、「故宮晶華」(台湾・台北)、スーパークラフトツリー (東京スカイツリー4F)、インターコンチネンタル大阪(大阪)、ROZILLA (新三田)、東急ハーヴェストクラブ京都鷹峯 & VIALA (京都) 等。

JCD優秀賞、第9回空間デザインコンペティション銀賞、第16回タカシマヤ美術賞等、受賞多数。2009年4月商店建築社より「デザイナーショーケースVol.1 Yukio Hashimoto」、2013年12月六耀社より「LEDと曲げわっぱ—進化する伝統デザイン」が刊行。

食と空間

以前、ある中国人に案内をされて中国北京の人民大会堂で食事をしたことがある。人民大会堂は天安門広場の西側にあり、中国共産党の総会や全国人民代表大会等が開かれる巨大建造物である。内部空間は圧倒的なスケールでくらくらする程の大空間であった。

そこで食事をしようと通された場所は、1000人ぐらいが入れるようなバンケットであった。そして、なんとそのバンケットの中央にぽつんと一つだけ円卓のテーブルが用意されてあったのである。席に着くと次から次へと豪華な中華料理が出されて、贅沢感が満ち溢れていたのであるが、どうにも居心地が悪かった。酒もどんどん注がれ、カンペイ！カンペイ！の嵐の中に巻き込まれていったが、なんだかとても空虚な気持ちになっていった。元来こういうぜいたくなおもてなしには不慣れなせいもあるが、料理をおいしく、そして楽しくいただくためには、環境の影響が非常に大きいものだなと反面教師的に感じたのであった。このようにエンプティな巨大空間の中でぽつねんと食事をするとかかなりの緊張感を伴うが、あまりにも小さな空間での食事でもまた緊張感を伴う。しかしこちらのほうは、いささか魅力的な緊張感であるが・・・。

三位一体

以前知人から、欠員が出たので参加しないか、と誘われたお店があった。それは知る人ぞ知る「壬生」(みぶ)という名のお店で、完全会員制なので、めったにいくことができないところであった。その名を世界にとどろかせたスペインのエル・ブジのフェラン氏もリスペクトする、隠れた名店である。「壬生」は非常に小さなお店で8人が座る事のできるテーブルが一卓のみ置いてある。空間もものすごくシンプルで、床の間が一つ設えられているだけである。そしてその床の間には季節ごとの飾り付けがされるといふ。一つのテーブルを囲うのはそれぞれが知らない人ばかりである。ある意味お茶席のようでもあるので、微妙な緊張感を漂わせていたが、女将さんが話し始めると場の雰囲気が一気に変わった。その季節や食材にまつわる話や、これから提供される料理の解説など、とにかく話が面白

い。かなり期待感が高まるのだが、あまり期待が高すぎるとがっかりすることもあるので、無心の状態で料理を待ち構えていると信じられないようなものが出てきた。賀茂茄子なのであるが、炭のようにフツフツと表面が燃えているのである。そしてその驚くべきものを目の当たりにした瞬間から空間が一変した。無駄の装飾のない空間と、女将さんと、燃える賀茂茄子が三位一体となって、かなり特殊な非日常空間を作り出していった。なるほどおもてなしとは感動が伴うものであるのだなと、そのときつくづく感じた。

店づくりについて

飲食店の場合、料理、サービス、空間の設え、そのどれもが大切であるが、全てに対していいバランスをとるのがなかなか難しい。もちろんそのうちのどれかがかなり突出していれば、お客様に満足感を得てもらうこともできるが、理想的なのはこの三位一体感である。店づくりにおいてこれを実現するためには、設計段階から料理人をはじめとする直接運営に携わる関係者と価値観を共有しながら進めていくのが理想的ではあるが、毎回それが実現するとは限らない。多くの場合が、経営者とともにコンセプトをつくり、設計をすすめてゆき、ハードがある程度まとまった段階からスタッフィングされるケースが多い。

店づくりのアプローチの仕方は多種多様で、そのときの目的に合わせて機能と意匠の方向性を決めていく。がやがや賑やかな店にしたいのであれば、あえてテーブルや椅子のサイズを小さくしたり、人の移動する導線を少し狭くしたりすることもあるし、高級感のある店にしたいければ、ゆったりとした家具を配置し、あえて無駄なスペースをつくり、間合いのある空間をつくり出したりすることもある。しかしこれらのことは価値観を共有しないと、実際に運営する側としては狭すぎたり、椅子が重すぎたりすると感じられて、ギクシャクしてしまう。このように、オペレーションに先行して設計等のハードが進められる場合にもっとも大切なのが、経営者がその店に愛情を持てるかどうかである。店を成功に導くための戦略ではなく愛情である。本当に自分の店が好きになれば、コンセプトや価値観が

他のスタッフに伝わりやすくなる。もちろん店はお客様の満足のためにあるのであるが、それを提供する側に愛情がなければ、本当の意味でのおもてなしをすることができない。したがって飲食店を設計する場合いつも気にかけているのが、提供者が満足するかどうかということである。

意識と一体化された空間

人の味覚は時として相対的なものである。もちろん絶対味覚なるものも存在はするが、同じ料理でも店員からその成り立ちの解説を聞いた後では何も知らずに食べている時よりもおいしく感じることもある。情報を得ることによって味覚への集中力がより高まるせいであろうが、人とのコミュニケーションという相互作用によって食環境に変化をもたらしたという見方でもできる。同様のことが飲食と空間との関係においても言えることができる。もし提供する飲食が特別なものであれば、空間によってもそれがより特別だと体感できるようなものにするともできるのではないだろうか。

私が設計した「Café鈴木」という店がある。開業してもう17年近くになるが、いまだにそのたたずまいは変わっていない。神奈川県の本厚木という場所にあるのだが、一杯のコーヒーを飲むために遠方より訪れるお客様も多いと聞く。当時から店主の鈴木さんはコーヒーに対して強いこだわりを持っていて、毎日自家焙煎した新鮮な豆を使って、イタリアから輸入したという巨大なエスプレッソマシーンでコーヒーを入れている。コーヒーカップも一客一客ご自身が気に入ったものだけを買集めているため全て形が違う。当時設計に当たって鈴木さんが特に拘ったのは、コーヒーを入れてからお客様に提供するまでの時間である。どうやら数秒ずれると味が変わってしまうらしい。その他もいろいろなこだわりのお話を聞いていると通常の喫茶店の枠にははまらなくなっていくので、思い切って茶室のようなカフェにしようということになった。そして立礼のスタイルを参考にした店づくりをすることとなった。真正面にすえられた亭主席から両側にあるカウンター

の客席にサービスをするレイアウトにして、一見するとまったくカフェっぽくない空間であるが、茶室のような緊張感をつくり出すことができた。通常のカフェの概念からすると、コージーでリラックスできる空間こそあれ、緊張感のある空間というのはなかなかないと思うが、このようなスタイルこそが鈴木さんの提供するコーヒーを空間で体現できるものだったのだと思えたのである。

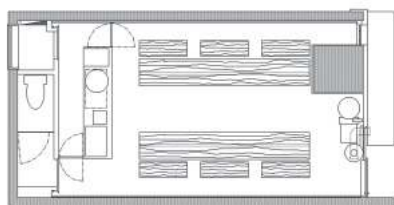
食空間で大切なことは、食を提供する側の意識や気持ちの高まりがもっとも重要である。本当に感動のできる食卓は、料理も空間も全てが提供する側の意識と一体化しているときに表れるものである。



Café鈴木 外観



Café鈴木 内観



Café鈴木 図面

究極の食空間

以前いくつかの高級飲食店を経営するあるレストランオーナーがおっしゃっていたことだが、究極の食空間はアウトドアであると断言していた。自然に囲まれた空間での食事が

最もおいしく感じられるということである。確かに自然環境が豊かなリゾート地でのテラスレストランや、ピクニック等での食事は大変おいしく感じられ、尚且つ楽しい思い出として記憶に残ることが多い。私も食事体験として鮮烈に記憶に残っている思い出がある。

それはまだ私が子供のころの話である。祖父母の家は、岐阜県の温泉で有名な下呂町の近くの、とんでもない山奥にあった。その家は山の中腹にあったので車で乗りつける事ができず、車は山の麓に止めて、その家にたどり着くためには山登りをしなければ行けないようなところであった。夏休みになるといつも両親に連れられて、休み中そこで過ごしていた。山の上に祖父が炭焼き小屋を持っていた、ある日子供たちを連れてそこに行こうという事になった。最初は山登りが楽しくてワイワイ賑やかに祖父のあとをついて行ったのだが、だんだん疲れ果てていき、お腹もすいてきたところで昼食を取ろうということになった。お弁当は、ご飯と漬物と味噌など非常にシンプルなものであったが、とにかくお腹がすいているので一刻も早く食べたかったのだが、そのとき何故か箸を忘れてきてしまっていたのである。そこで祖父は機転を利かせて、持っていた鉋で小枝を切り取り、それを削って即席の箸を作ってくれた。そしてその小枝の箸で食べたお弁当の味は格別なものであった。今でもそのときの味覚を思い出すことができる。本当になんでもない、むしろ素朴な食べ物が、そのときの体の状態やロケーションや小枝の箸によって、特別なものへと変容していったのである。このときの感覚は今も私にとっては非常に重要なもので、事あるごとに思い出している。

(はしもと ゆきお)

各論

6

名建築で もてなす

～宿に受け継がれる
建築家の心～

稲葉なおと

作家

稲葉なおと

1959年東京生まれ。東京工業大学建築学科卒業。マンション、商業建築等の企画・設計を数多く手がけた後に短編旅行記集「まだ見ぬホテルへ」（小学館文庫）を刊行。JTB紀行文学大賞奨励賞受賞。その後も世界の名建築ホテルに400軒以上宿泊、取材・撮影を続けている。写真集「アール・デコ ザ・ホテル」（求龍堂）、長編小説「0マイル」（小学館文庫）、児童小説「ドクター・サンタの住宅研究所」（偕成社）等著書多数。吉村順三、村野藤吾、平田雅哉の宿を10年間費やし泊まり歩き、宿主が語る建築家たちの素顔をまとめた長編ノンフィクション「匠たちの名旅館」（集英社インターナショナル）が話題に。公式サイト：<http://www.naotoinaba.com>

3つの宿との出会い

「建築に見どころがある宿」にこだわり行き先を決める。その宿で終日過ごすのを楽しみに旅に出る。そんな旅をずっと続けてきた。

建築に見どころのある宿は高級ホテルや旅館よりもむしろ1泊数千円で泊まれるところに多かったりする。数千円で泊まれて建築を堪能できれば大いに満足。サービスに多少不満があっても気にしない。そう考えてきた。

私の心に変化が生じたのは数年前のことだ。建築の良さを熟知した上で客をもてなす、できればそういう宿に泊まりたいと思うようになったのだ。きっかけは、3つの宿との出会いだった。1軒は吉村順三の宿。1軒は村野藤吾の宿。もう1軒は、谷口吉郎の宿だった。

吉村順三の宿

吉村順三は、京都の俵屋旅館新館、文珠荘新館をはじめ、旅館・ホテル建築をいくつも手がけた。中でも吉村が1997年に88歳で他界するまで、面倒を見続けた宿がある。

佐賀県嬉野にある旅館、大正屋。そこは規模と建築家がかかわった年数から、宿泊建築における吉村意匠の集大成と言えるだろう。

芳名帳に名前を書き終え、着物姿の女性に案内された。仄暗い廊下を歩く。突き当たり。衆芳亭という茶室付きの離れ。彼女が左手の襖を開けた。8畳の次の間。天井の棹縁をなぞるように視線が窓へと引き寄せられた。硝子戸が開いている……。一瞬思ったが、そうではなかった。緑の景色に戸の棧が眼に入らなかった。硝子なしで景色を臨むように見えたのだ。棧は障子の後ろに隠されていた。

係の女性に従い、数歩歩く。彼女が再び襖を開ける。12畳の本間。障子窓も、床から天井までの大きな障子戸も閉まっている。私が座布団に胡座をかくと、彼女は座卓の向こうで膝をつく。「ようこそいらっしゃいました」

両手の先を畳に深々と頭を下げた。彼女は足の指を立て、体を静かに90度回す。手を添えた大きな障子戸を、するすると開け始めた。

1枚……。2枚……。3枚……。

和室の部屋に案内されると、部屋の襖は通常どこの宿でも開け放たれている。窓の障子戸も開いているのが普通だ。けれどもこの宿では、障子戸は締め切っておき、客が座に着

き、心を落ち着かせたタイミングで客の目の前ですると開いていく。やがて幕の向こうに見えてきた緑豊かな庭に観客は魅了される。座敷に胡座をかきながら、いつしか森の中に運ばれたかのような気分に入るのだ。

この時、私は教えられた気がした。

宿建築にとって、いかに第一印象が大事であるか。その第一印象は、建築の良さだけでなく、もてなしがあってこそ訪れた人への響きが倍加される。そして、もてなしは、どこの宿でも見かけるようなものではなく、独自のものでないと客の胸を打たない。



大正屋・衆芳亭（筆者撮影）

2泊寛いで迎えた最後の朝、ご飯の世話をする係の女性に私は、部屋への案内方法について何か意図はあるのか、と訊ねてみた。「最初に部屋にお入りになって、こういうお部屋なのかと知っていただいてから、障子を開けたら、お庭が広がって、そこで感動がわーっと込み上げてくるかと思うんです」

予想通りの返しに、私は笑みで頷く。

「ここの建物を設計された先生が、そのようにしたほうがいいとおっしゃったそうです」

ということは、吉村順三が……。

家具も什器もテキスタイルも、すべて建築家の職能に属すと語る吉村の仕事は、従業員教育にまで及んでいたということなのか。

「いえ、先生のお弟子さんと伺っています」

ひとつの名が頭に浮かんだ。板垣弥也。大正屋の設計を当初より担当し、吉村亡き後は増築改築の設計を直接指揮。師が亡くなって7年後に、自らも59歳で急逝した建築家。

建築は詩である……。吉村が遺した言葉だ。

師が書き遺し、何度も加筆した詩の心を知る愛弟子は、詩の本意を使い手たちに伝えようとしたのだ。建築家の志を、設計の意図を、所作というメッセージに載せて。

師弟がともに世を去ったあとも、その心は使い手に受け継がれ、日々のもてなしを通じて客の心へと伝えられている。

村野藤吾の宿

奈良の信貴山朝護孫子寺の本山・成福院にある宿泊施設、信徒会館。そこは、数多くのホテルを世に遺し、希代のホテル建築家とも言える村野藤吾が手がけた唯一の宿坊だ。

コンクリート打ち放しの3階建て。唐破風をからめた特徴的な銅版葺きの屋根を載せ、独特な火灯窓が並ぶ外観。大阪万博に合わせ、1970年に建てられた建物だった。けれどもその第一印象は、築40年を過ぎようとする建物には思えないほど瑞々しさを感じさせた。

朝5時に目覚め、本堂での御祈祷の見学を終え宿へ戻ると、坊さんたちが玄関前を丁寧に掃いていた。白木の台を雑巾で拭くのは住職の母親、大奥さん。住職は階段を汗びっしょりになりつつ拭いていた。朝食の前に茶を頂きながら、建設当時の話を伺うことが出来た。大奥さんは建築家の苦労話を、親類が苦心したかのように懐かしそうに語った。

きれいなコンクリートですね、と私が言う
と大奥さんは笑みを浮かべた。
「毎年10月の半ばから大掃除にかかりまして、コンクリートは年末まで順番に拭くんです。汚れが積み重なると打ち放しが台無しになりますから、毎日拭く場所もあります」

40代なのに10代でも通るかのような、若さ
漲る建築の秘密は、拭き掃除にあったのだ。
「村野先生に仕上げて頂いた時の色を保つように、コンクリートも木も全部拭きます」

今の寺は掃除を外注するところも少くない。自身の手による掃除にこだわるのは、建築家への感謝を込めた寺独自の方針なのだ。「絨毯は365日掃除機と雑巾をかけます。お陰様で金色の絨毯も全く傷みがありません」

毎日の拭き掃除で白木の柱や扉は、透明塗料を塗り重ねたかのように艶色に光っていた。「村野先生から貴重な御縁を頂きましたので、先生の心を守っていかなくてはいけないですから。掃除しか先生に御無理申し上げましたことの御恩返しができないので。頑張ってくださいにしておきたいと思っています」

話へ何度も頷きつつ、私は村野自身の言葉を思い出していた。
〈設計者は乳母のようなもので、世に出た子供の行く末を見守っていますが、もっと建物にたいして血のかよった管理をしていただきたい

と思います。だから私自身は自分の設計した建物については、竣工後も行くたびにそこを掃除してくださいとか修繕してくださいとかいいます〉

竣工後40年間以上、一日も欠かさず自分の作品を磨き続けてくれた施主から、今も建築家への恩返しを心掛けていると聞かされたら、建築家はどのような気持ちになるだろう。

建築家への感謝が心を込めた掃除となり、磨き上げられた建物と日々磨き上げる人々の姿が、この宿ならではの「もてなし」としてゲストの心に残るのだ。

唯一無二のもてなし

私は1年程前から毎日新聞のホームページ上で「秘蔵の宿」という週刊連載を続けている。ビジネスマンが出張や家族旅行に気軽に利用できる宿の中から選び、毎週逗留。その宿泊体験記を写真とともに書き続けている。既に50軒以上の宿を訪ねたが、やはり気になるのは、各宿での第一印象と掃除についてだ。

取材先はビジネス利用が主流のホテルが多いので、大正屋のように係が部屋まで案内することはない。だがちょっとした気配りで、第一印象の針はぴくりと「好」のほうに傾く。

例えば東京都千代田区にある、庭のホテル東京のチェックインは胸に響くものがあった。

フロントの女性は手続きを終えると、カウンターに向こうからずっと私の横に歩み出た。エレベーターの前に私を案内した彼女は、ボタンを押し、3つある扉のひとつが開くと、私を誘導。私の部屋が15階にあり、エレベーターを降りたら廊下を左に歩いた先にあると告げてから、扉が閉まるまで腰を折っていた。

エレベーターから客室のある階に降り立ったものの、自分の部屋がどこにあるのかわからずうろろうとした経験を持つひと多いだろう。エレベーターから出てどちらに歩くのかを説明してもらえただけで、ホテルの第一印象はアップするというわけだ。

同様の配慮は台東区のホテルグラフィー根津にもあった。宿泊客の9割弱が外国人。フロントの女性は英語も日本語も完璧なドイツ人。彼女はエレベーター前まで私を案内、閉まりかけた扉を手で押さえつつ、部屋は出て左の最初のドアです、と笑顔で教えてくれた。



ホテルグラフィー根津（筆者撮影）

第一印象では、これはという宿に出会うことがある。だが掃除となると、暗澹たる状況の宿が多い。チェックアウト時間を11時や12時と遅めに設定する宿が増えているのはありがたいことだが、ゲストがまだ館内で寛げる時間帯にもかかわらず、10時前後から、使用後のリネン類が廊下の床に山積みになっていたりする。ゲストがジグザグに歩かなければならないほど、幾重にも山ができていくホテルもある。その上、清掃スタッフはゲストと眼が合っても、ろくに挨拶さえしない。

配慮の欠如が起きるのは、ホテル側に連泊客への配慮がないからだ。遅い時間にチェックアウトする客と連泊する客への気遣いがなから常識外れの掃除が横行してしまう。清掃業務は外部委託するのが今は当たり前だ。そうすると業務は可能な限り時間を短縮して、となり、作業はどんどん粗雑になってしまう。

掃除は通常、ゲストに見せるものではない。だが心のこもった掃除は、時には客に感動さえ与える。熱海伊豆山にあった谷口吉郎設計の旅館、桃李境に連泊した時のことだ。部屋係の女性が朝食後に、丁寧なハタキがけから始め部屋の隅々まで雑巾がけをする姿を、私は毎日楽しみに眺めていた。谷口吉郎が生涯求めた「清らかな意匠」にどこか通じるような、訪れた者の心を洗い流す所作だったのだ。

徹底して見せない。それとも、見たゲストの気持ちが和むような掃除を心がける。

急増している外国人観光客は日本人客と異なり、ひとつ宿に連泊するひとがほとんどだ。欧米人には観光に追われるよりも、ホテルで過ごす時間を大切にするゲストも多い。

チェックインからアウトまで、ゲスト視線で感激と心地よさを演出する。その姿勢を持つところこそが、外国人ゲストからも日本人宿泊客からも、唯一無二のもてなしのある宿という評価を得られるのだろう。

（いなば なおと）

おもてなしを巡る旅。諸先生方の論考から、歴史から始まり、旅のシーンに欠かせない多彩なおもてなしの「心」に触れることが出来た。設計業務の中で、利便性や快適性、その他諸々に対して思考を巡らせることが多いがそれらは全て、おもてなしに繋がっているのかもしれないという気持ちになった。この感覚を大事にしながら今後も建築と関わり続けたいと思った特集であった。感謝したい。

(樋口展寛)

編集に当たって扉の挿絵デザインを担当した。藤森照信氏の言う「客を迎える」姿を中心に各論で語られたおもてなしのシーンをあたかも1日の出来事のように周囲に巡らせ、最後は「客がいない所での心遣い」を表現した。おもてなしで相手に心地よさを感じてもらうには、細やかな人の気遣いのほか建築のつくり方に依るところが大きい。今後もユーザー目線で居心地のいい空間づくりを目指したい。

(神戸嘉也)

質の高いものでなしは一期一会の心構えによって生まれる。茶会で客の好みや季節に合わせた床飾りをするように、日本の建築空間は相手にあわせて変えられるようになっていた。

現代建築の場合はどうだろうか。いつ行っても同じ場所よりも、訪れるたびに変化を感じられる場所のほうが楽しい。自然光や風の変化を取り入れて、時とともに変化する空間をつくることは私たちにもできるはずだ。

(下坂浩和)

本特集は東京オリンピック招致決定以降のま
とまったおもてなし論として価値ある 1 冊と
なったと思う。藤森照信氏によればおもてな
し空間の外部的化が住宅史を形成してきたとい
うことだが、公共空間についてはどうだろう。
例えば桂離宮の沓脱石等のようにおもてなし
を要素として空間に結実した見事な建築を私
たちは知っている。本特集を今後建築におい
ておもてなしを考えていく為の一助としたい。

(中辻浩介)

編集後記

建築計画系分科会



建築学科の設計の授業で「天橋立を訪れる人をもてなす建築を設計する」という課題を出した。若い自由な発想でさまざまな案が出されたが、中でもとんでいたのが、天橋立の端っこに塔状の建物を立て、訪れた人にそのてっぺんからバンジージャンプをしてもらい、落ちながら見える天橋立の風景を楽しんでもらう、というもの。本特集でもわかるように「おもてなし」の形にもいろいろあるものだ。

(野田隆史)

ホテルに従事する知人に「建築は箱さえあれば十分だ」と言われたことを思い出した。きれいに設えられた寝具、行き届いた清掃、培われてきたサービスのノウハウ。もてなされる客人と、もてなす主人という関係において、建築（空間）は背景である。設計者として、待庵や青空でのピクニックも、その空間体験と相まって増幅される感動のおもてなしをクライアントと共有していきたい。

(東 拓郎)

「設計は、思いやりと優しさのかたまりみたいなものですよ。」学生時代、徹夜でフラフラの状態で受けた設計演習で、担当の先生から言われた忘れられない言葉だ。今回のテーマについて考え、そして執筆を頂いた先生方の論考を拝読させていただき、改めて「人をもてなす」ことの素晴らしさ、奥の深さを知るとともに、先述の言葉を思い出し設計者として身の引き締まる思いがした。

(松岡英緯)

学生時代に竹原義二先生を訪ねた時、「プランを歩いているか?」と問われた。平面図を目線の高さに持ち上げ、歩くように動かし空間の感じ方を確認せよと。建築は誰かのための空間を作ることに他ならないし、それを受け取る鍵は人間の身体性にある。どんな小さな場面にも誰かの感受性に思いを巡らせ、寄り添いながら考える。それが我々設計者の、社会に向けた「おもてなし」の作法なのだろう。

(三谷 帶介)

おもてなしの源は何だろうと考え、真心という言葉に行き着いた。「他人のために尽くそう」という純粋な気持ち。偽りや飾りのない心。誠意（大辞林）とある。藤森論考の“おもてなし”と“見栄と外見”の違いと符合する。神仏や来客への真心の現れとしての空間の組織化が建築史上、大きなウェイトを占める以上「建築の歴史を動かしてきた原動力は接客である」とは言い得て妙に思えるのですが、藤森先生いかがでしょうか。（米山剛史）

(米山剛史)

私の嫁の母は年に数回、友人や知人を自宅に招く。大変だなあ、自分にはできないなあ、いつも思うのだが、自分の家みんなの集まれる場所であって欲しい、ということらしい。人をもてなすことが得意な人もいれば、苦手な人もいる。けれども「おもてなし」というものは、そこに心配りがあってこそそのもののなのだろう。私のような者は、苦手なりにということになるのだけれど。

(渡部 剛)

連載 No.547

法令コーナー

屋上広告物全面禁止 芦屋市屋外広告物条例 7 月 1 日施行

辻 宏治

芦屋市都市建設部都市計画課まちづくり係長

芦屋市は、交通の利便性と豊かな自然環境を背景とした住宅都市として発展し、先人の努力もあって、良好な住環境を形成してきた。

近年は、市域全域を景観法に基づく景観地区に指定するなど、特に景観行政に力を入れている。屋外広告物条例の制定は、その中でも非常に重要な意味を持っており、さらなる良好な景観形成において、大きな役割を果たすものと考えている。

芦屋市では、これまで運用していた兵庫県の屋外広告物条例の内容を踏襲しつつも、屋上利用を禁止し、色彩や面積の制限を厳しくするなど、周辺景観と調和した屋外広告物を誘導したいと考えている。

芦屋市屋外広告物条例の制定は、平成27年12月18日、施行は平成28年7月1日からとなる。

広告物等規制地域

これまで、許可地域と3種類の禁止地域の計4種類に区分されていた市域を、「芦屋市景観計画」に基づき、下記の通り7種類の地域に細分化し、地域の特性に応じた規制とする。

- (1) 山麓地域 (2) 住宅地域 (3) 複合地域
(4) 芦屋川特別地域 (5) 南芦屋浜特別地域
(6) 沿道沿岸特別地域 (7) 広告物誘導特別地域

中でも (4) ~ (7) の特別地域では、芦屋の景観形成において特に重要な地域であるため、他の地域よりも規制内容を厳しくしている。

主な規制内容

■屋上利用広告の禁止

屋上利用広告などに代表される、建築物の高さを超えて設置される広告物は、市域全域において全面禁止とする。

屋上に設置する広告物は、遠方からの見え方を考慮して、大きな文字や派手なデザインになる場合が多い。

住宅都市として、比較的規模の小さい建築物が多い芦屋では、全面的な禁止が望ましい。

■壁面突出広告の原則禁止

建築物の側面に設置される壁面突出広告は、地面からの高さが低く、小規模なものを除き、設置を禁止する（地域によっては壁面突出そのものを禁止）。

壁面突出広告は、通りとしての景観を害する一因となるほか、建築物のデザインを阻害することもある。また、高い箇所に設置されるものは維持管理が難しく、経年劣化による落下事故を引き起こす可能性がある。

■壁面利用広告の規制強化

壁面利用広告の個当たり面積の上限を設け、設置できる高さを低くする。さらに、壁面積に対する割合の規制を適用するに当たって、単に建築物の壁面積を母数とするのではなく、広告主が占有している建築物の壁面積のみを対象とすることにより、店の規模に応じた適正な広告を誘導する。

■総量規制の強化

一部の地域における表示面積の総量規制について、一事業所当たりの規制ではなく、一団の土地や一の建築物当たりの規制とすることにより、テナントビル等における周辺景観に対する悪影響を防止する。

■色彩の規制強化

芦屋市では、景観地区に基づく規制により、建築物の色彩を厳しく規制しているため、広告物の色彩も大幅に見直すこととした。

具体的には、マンセル値の彩度等により、全面的に使用を禁止する「禁止色」、ポイント的な使用に留める「アクセント色」、使用する面積を制限する「規制色」をそれぞれ地域ごとに設定し、全ての広告物に適用することで、上品で落ち着いた広告物の誘導を図る。

■文字の大きさの制限

広告物における文字が大きくなり過ぎると、全体のデザインを損なうだけでなく、見る者に圧迫感を与える。1文字当たりのおおきさを1m以下とすることによって、適正なデザインの広告物を誘導する。

■その他の広告物の禁止

アドバルーンは市域全域において禁止し、電光掲示板やネオンサイン等についても原則禁止とする。また、通りの景観を乱す一因ともなるのぼり旗についても、一部の地域を除いて禁止とする。

経過措置

芦屋市屋外広告物条例の施行時において、兵庫県の屋外広告物条例に基づき適法に掲出されている屋外広告物のうち、市条例の規定に適合しなくなったものについては、一定の期間掲出することができる経過措置を設ける。

経過措置の期間内において、是正計画が認められたものについては、さらに期間を延長し、最長で10年間の経過措置が受けられる。

おわりに

これらの規制による良好な広告景観の形成は、行政のみならず、広告主や広告業者の方の協力を得ながら、官民一体で取り組むべきであるとする。

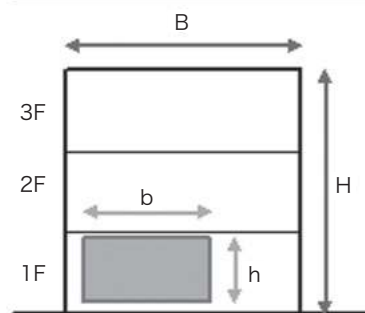
行政が一方向的に進めるのではなく、各方面から理解と協力を得ながら、一歩ずつ確実に進めていきたい。

(つじ こうじ)

辻 宏治

1999年芦屋市役所入庁。

例. 1階が店舗、2・3階がマンションである建築物に店舗の広告物を掲出する場合



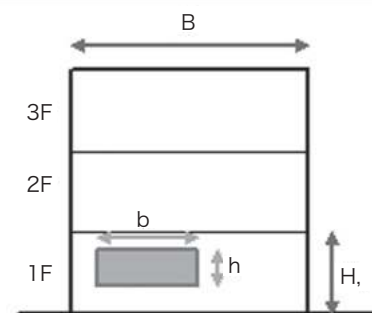
<県条例>

1階店舗の広告物

 $b \times h \leq B \times H / 5$

設置高さ47m以下

店舗の規模に比べて広告が過大



<市条例>

1階店舗の広告物

 $b \times h \leq B \times H / 5$ かつ5㎡以下

設置高さ10m以下

店舗の規模に比べて適正な広告

※地域によって表示面積や設置高さの上限は変わります。

再読 関西近代建築
— 論考・記事編 —

7

公園特集号
椎原兵市「天王寺公園
の沿革と全貌」他『建築と社会』第17輯第4号
(昭和9年4月号)

山形政昭

大阪芸術大学

この特集号は昭和8年(1933)末に完工した大阪市営の天王寺公園改造工事の記録を中心として、大阪における当時の公園整備についての報告記事を集録したものである。寄稿者には大阪市公園課の椎原兵市、方米治郎、大阪市営繕課の富士岡重一らが並び、住友家寄付による茶臼山一帯を含めた天王寺公園に関する詳しい沿革及び改修工事記録となっている。ところで、大阪の公園整備計画について『建築と社会』誌上では片岡安「我国都市改良計画の将来」(大正7年5月号)をはじめとして、「庭園と建築号」(昭和2年10月号)、「林泉と庭園号」(昭和4年10月号)、「建築と風致号」(昭和5年4月号)などがあり、それらを通して都市計画事業の大きな成果の一つとしての天王寺公園が分かる。

建 築 と 社 会

第17輯第4号 昭和9年4月発行

公 園

目 次

新天王寺公園デラフ	1
天王寺公園の沿革と全貌	17
動物園の立地から見た動物園舎	24
天王寺公園の建築物について	36
天王寺公園の改造工事	43
動物舎舎	48
大阪府営公園とその歴史的施設	49
大阪市営公園の沿革と全貌	55
園形新建築	65
乾式補造建築の断熱材料	71
時 報	76
會員のこゝろ	79
★ 報	79

■天王寺公園の概要

周知のように、天王寺公園は明治36年(1903)に開催された内国勸業博覧会会場の跡地で、大阪市はその東側約34,300坪を天王寺公園として整備を進め、明治42年(1909)10月に開園したものである。市営公園としては明治33年(1900)の中之島公園に次ぐものであった。

ここで、大正～昭和初期の市営公園の計画を先導した椎原兵市の「天王寺公園の沿革と全貌」の記録をたよりに、その後の発展を要約すると、開園翌年の明治43年(1910)に早くも西側に拡張し、運動場一帯を加え、大正4年(1915)に動物園を整備、開園している。その頃には園内に、武徳殿、勸業館、公会堂、市民博物館が新設され、温室が改造されて植物園として開園したという。さらに大正11年(1922)3月に住友家より茶臼山別邸(慶澤園、茶臼山の17,523坪)の寄付があり、加えて河底池の3,000坪が園地に加えられた。これによって公園敷地は開園時のほぼ2倍となる約68,000坪となったという。

それより先の大正9年(1920)2月に大阪市では美術館の建設が立案され「大阪市美術館新築設計」コンペにより、1等前田健二郎案はじめ入選作が『建築雑誌』(大正9年11月号)に発表されている。コンペの要項には、天王寺美術館とは記されていないものの、内容より現地を想定したものであり、住友家の寄付に先立つコンペとして興味深い。美術館の建設は遅れ、昭和2年(1927)に至り着工、昭和5年(1930)に躯体工事が完

了したが仕上げ工事はさらに遅れて昭和11年(1936)に竣工した。その経緯についてはここでは触れないが、「大衆に開放された美術の殿堂であり」「文化都市としての茲に点睛をなせる」²⁾ものだった。

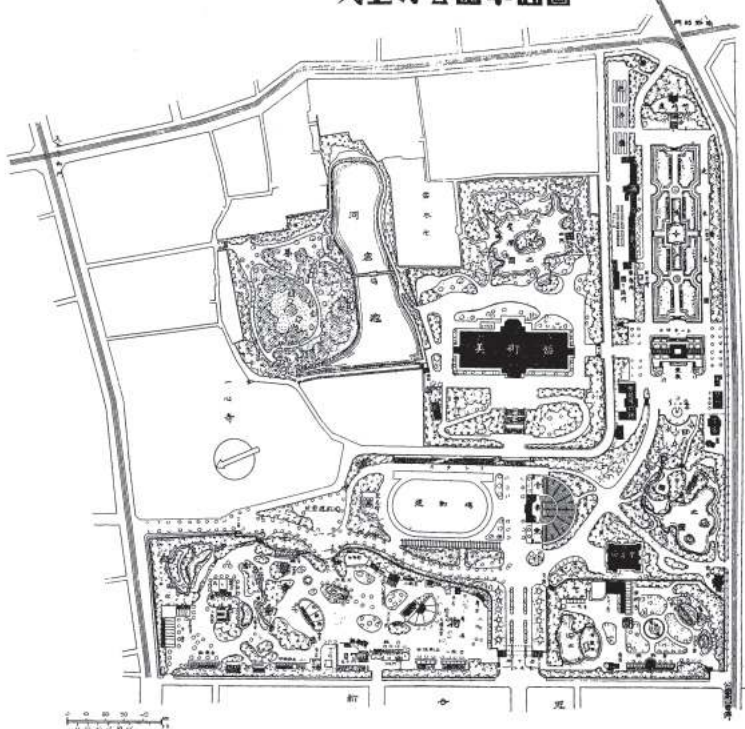
一方、大正14年(1925)の大阪市域拡張による大大阪の到来を期して、毎日新聞社の寄付による音楽堂が建てられ、昭和を迎える。そして第2次都市計画事業における公園増設計画の一つに加えられ改造計画がなされ、第14回失業応急事業として昭和7年(1932)に着工、翌年9月に竣工した。その間の昭和8年に公園一帯が風致地区指定を受けている。

改造工事の内容は①南東部の植物温室及び花壇一帯、②花壇の西側につづく日本式庭園、③運動場及び音楽堂一帯、④動物園一帯、⑤茶臼山及び慶澤園一帯であり、殆ど全域における改造が加えられた。しかしそれは単なる改築ではなく、開園以来の蓄積を踏まえた総合的な整備であったところに特色がある。そして天王寺公園は「何と云つても大阪の代表的大公園で面積地況に於ても内容施設より見ても、又位置交通より云つても、市民が利用する点の多少からしても当然第一位を占むべきで、殊に改造工事を了つた今日に於ては、我国の都市公園として決して恥かしくない程度に整つて来た」という。

■建築物に就いて

市営繕課長にあった富士岡重一は「天王寺公園の建設物を述ぶるに方つて、仮りに総合的な公園に形造つてゐる、各ブロックを区画

天王寺公園平面図



天王寺公園平面図(第17輯第4号1頁)

して見るならば、児童遊戯場・運動場・学園（公会堂・美術館・音楽堂・博物館一帯）・日本庭園・植物園を含む花壇方面・動物園等に大別することが出来る」と説明するのであるが、とりわけ美術館ブロックについて、次のように述べ、空間的、文化的計画性を指摘している。

「美術館は……大阪市にとっては、亦其の文化を語る一つの代弁者となるものである。それに中之島にあった、三井家の門廊（引用者注：旧黒田藩蔵屋敷門）を配し、正面にはフロントアベニューと前庭とを設け、……背面には茶臼山の古雅な深苑が、美術館をして落着きのあるものにしてゐる」

つまり、美術館の立地について（昭和9年（1934）の時点では美術館の仕上げ工事途上にあった）、西正面は新世界に向かって、広場と軸線が伸び、一方背面には歴史をもつ庭園ゾーンを配し、加えて公園側のゲートとして、近世中之島の歴史的門屋を置くことで、歴史と近代をクロスさせた総合的文化を物語る処と特色を指摘する。

つぎに、花壇ブロックについては噴水等のモダンな造形について、動物園ゲートと南園に通じる地下通路の計画的特色についてなど、種々の特色を述べている。

■天王寺公園整備に至る都市計画

大阪市における公園計画については、明治に遡って山口半六の「大阪市新設市街設計書」にその端緒が見られるが具体化に至ることは無かったとされる。大正期に入り本会創立翌年の『関西建築協会雑誌』第1輯7～8号（大正7年5～6月号）において、片岡安の論説「我国都市改良計画の将来（上、下）」があり、公園について僅かだが触れている。曰く、都市計画における重要項目として、港湾棧橋、幹線道路に始まり「遊園地、公園其他の娯楽場と幹線街路の連絡」を挙げているのであり、行政、公館の配置に関するなかで、「博物館、美術館、図書館、……何れも街路系統の重要分子をなすものであるから、其配置及計画は決して個々別に考ふべきものでない」としている。

片岡の都市計画に関する大所からの論説は、その後も「都市の改善（上、下）」（大正10年6～7月号）など間断なく発せられ、府にあった池田實らと共に、市街地建築物法の定着にも努めたことが知られている。その後、関東大震災を経て昭和に入る時期、本誌上においては都市環境に関する論説が際立つ。そうした一つに片岡の「現代都市と公園（都市の緑化問題）」（昭和2年10月号）があり、時論を集録したまとめとして、「新たに都市公園として開設する場合には決して日本式の庭園

に擬すべきものではない。主として市民一般の心身を休め快活の気分を養ふに最も適当なる緑地々帯となさねばならぬのである。公園の配置及施設に就ては論すべきこと甚だ多いのであるが、現代の都市としては、其増設拡張及改善に就て、最大なる努力を払はねばならぬ問題となつて来たことに先づ以て注意を払ふ必要がある。」としている。

片岡の本論につづき古宇田實の「庭園の実用化と芸術」があり、椎原兵市の「庭の建物に就て」がある。造園専門家として種々の庭園建造物を列記した後、大正14年に設計した千里山遊園地を事例に挙げて、音楽堂を兼ねた野外劇場などを紹介している。天王寺公園施設との関連あるものとして興味深い。

椎原はその2年後の本誌に「大阪の庭園に就いて」（昭和4年10月号）を記し、歴史的な名園の残存事例の少ないことを述べたのち、旧住友男爵邸庭園（慶澤園）を取り上げ、近代における池泉回遊式庭園の大規模にして大阪第一の庭園と評価し、当時の写真を巻頭に収めている。

昭和5年4月の本誌は「建築と風致」特集としている。そこで再び片岡は巻頭の論説で「建築と風致」と題し述べるなかで、都市公園に関して「……都市に於ける公園、遊園の拡張及改善が其都市建築の密集的に又高層式に発展せんとする調和剤として近代都市の努力せねばならぬ最も緊要なる事業……」という。加えて椎原の「風景地の建築物に就て」、大屋霊城の「都市風景の構成」等が収められている。

昭和初期、大大阪時代の都市整備として御堂筋の拡張が進むなか、大阪城の再建と大礼記念大阪城公園整備も着手されており、それを反映した制度として風致地区の設定が論じられ、昭和8年に至って天王寺公園一帯も風致地区に指定されている。

こうした機運を背景として天王寺公園の改造は昭和8年に始まった。

■椎原兵市（1884～1966）の業績

明治40年（1907）京都高等工芸学校図案科卒業。宮内省内苑寮技手を経て、大正9年大阪市土木課に入る。大正13年（1924）より、昭和15年（1940）まで土木部初代公園課長に就いていた。関係者による『椎原兵市氏の作品と業績』（昭和41年（1966））があり広範な活躍が伝えられているなかで、方米治郎は「大阪市の初代公園課長」を寄せ、プロフィールなどかなり詳しく報じている。そこで氏の代表的な業績の第1として「天王寺公園及び動物園の改造拡張」を挙げており、加えて「2. 大阪城天守閣復興及び、大阪城公園設置」「3. 都市計画事業としての公園緑地

計画」そして「4. 新設道路の街路樹植栽と広場設置」とし、街路樹では御堂筋のイチヨウ並木が「大阪名所の風物詩」と讃えている。つまり大阪市の大正～昭和初期における都市計画事業、そして昭和の御大典記念事業における公園整備を計画主導した功績が知られるのである。

加えて大阪における由緒ある庭園調査にも取り組んでおり、それらの保存に努めていた。そうした一つに旧住友家茶臼山本邸庭園があり、先の「天王寺公園の沿革と全貌」において小川治兵衛による代表的名苑の一つとし、その由来を住友家で編まれた『慶澤園造営記』を引いて次のように記している。

「庭は……茶臼山町にあり、北は池を隔て、茶臼山に相対し東は名利雲水に接す。西及南は通路を挟んで天王寺公園に臨む。此地をトシ造営の工を起せしは実に明治28年にあり、当時は付近一帯最も荒涼を極め、西北隅は俗に団栗山と称する高地にして雑木漫りに生ひ茂り、東部及北部には野生の竹叢あり、南部丘原も復殆ど無緑の瘦地たりしなり。かゝる荒廢の地も荊榛を拓き高低を整へ鋭意之が利用を図り、爾来明治41年に至る10数年の歳月を費し一萬三千坪の地域を買収し得て、漸く本園の結界を構ふことを得しものなり。更に邸外茶臼山の五千余坪の地も舊と岩崎男爵家の所有なりしを譲り受け、之を修補して益々佳致を加へ名勝として保存することゝせり。……」このように古来の地形を捉え、史的な価値を明らかにすることで慶澤園を公園の核心と位置づけたとしている。

＊

この公園特集号に記録された天王寺公園改造工事を通して、大阪の代表的都市公園としての天王寺公園のことはもとより、当時の土木部公園課の果たした仕事を知ることができる。つまり当時、煙の都、産業都市と言われてきたなかで推進されてきた、市域における緑地や公園、遊園空間としての成果と、大阪に形成された都市景観の一つとして見直すことができるだろう。

（やまがた まさあき）

註

- 植松清志の論考「再読 関西近代建築13 大阪市立美術館」（本誌平成22年4月号）がある。
- 富士岡重一「大阪市立美術館」（本誌昭和11年6月号）

参考文献

- ・椎原兵市の業績と作品出版委員会『椎原兵市氏の業績と作品』1966年11月
- ・財団法人大阪市公園協会『大阪市花と緑の行政史』2001年10月

連載

建築
と
社会
を
考える

NO.9

連載
建築と社会を考える藤井厚二「聴竹居」の
保存と活用一建築の価値を社会的に
共有していくプロセスー

松隈 章

株式会社 竹中工務店 設計本部設計企画部

松隈 章

1957年兵庫県生まれ。1980年北海道大学建築工学科卒業後、竹中工務店入社。大阪本店設計部、本社・企画室、本社・地球環境室などを経て2010年より本社・設計本部設計企画部副部長。設計業務の傍ら近代建築の保存活用や公益財団法人ギャラリーA4（エークウッド）での企画展をはじめとする数多くの建築展に参画。

主な著書『聴竹居 藤井厚二の木造モダニズム建築』平凡社コロナブックス、『環境と共生する住宅 聴竹居実測図集』彰国社（共著）、『16人の建築家-竹中工務店設計部の源流』井上書院（共著）。保存・修復・再生に関わった「旧ジェームス邸」が建築学会作品選集とBELCA賞受賞。

大山崎町と「聴竹居」

京都府乙訓郡大山崎町は、大阪府との県境にある人口1万5千人ほどの町である。この京都府下で一番小さな面積の町（約6平方キロ）には、北に天下分け目の合戦で有名な天王山、南には桂川・宇治川・木津川の三川が合流し淀川になる雄大な景観があり、名神高速道路、東海道本線、新幹線、阪急電車などの国土幹線が縦横に走っていて、治水上、交通上の要衝でもある。さらに、千利休の唯一現存する茶室である国宝「待庵」、本館が登録有形文化財に指定され、増築の設計を建築家・安藤忠雄が手がけたアサヒビール大山崎山荘美術館、重要文化財の宝積寺などの近世・近現代建築の宝庫でもある。

そのちいさな町・大山崎に京都帝国大学教授、建築家の藤井厚二（1888年－1938年）（写真1）の自邸「聴竹居」（写真2）が竣工88年を経た現在もそのままの姿でひっそりと建っている。



写真1 藤井厚二 肖像写真



写真2 新緑に包まれた「聴竹居」全景

「聴竹居」は、藤井厚二が自ら興した環境工学の理論を生かした実験住宅で、その完成形とした第5回目の自邸である。そこには日本の気候風土にあった真に日本人の心と体に適した「日本の住宅」が実現されている。20世紀を代表する建築家ル・コルビジェ（1887

生まれ）と同時代に世界に提示した日本発の木造モダニズム建築としても、今後、世界的に評価されるに足る日本を代表する「住宅」のひとつと言える。

1996年三重県立美術館で開催された展覧会に「聴竹居」を展示することに協力してから私と「聴竹居」との繋がりは始まり、今年で足かけ21年になる。1999年に長い間住まわれて居られた方が亡くなり空き家となった。2000年には竹中工務店大阪本店設計部の有志で実測調査を行った（2001年彰国社から「聴竹居実測図集」として出版）。同年、日本のモダニズム建築を代表するとして「聴竹居」がdocomomo20選（写真3）に選定された。2000年にはdocomomo 20選の、2005年にはdocomomo100選の展覧会で、さらにテレビや雑誌でも取り上げられるようになり、徐々に町の外側からの注目により社会的認知度を高めていく。

写真3 「聴竹居」の縁側
docomomo 20選関西巡回展の案内チラシ

保存と活用は地元第一主義の思想から

2000年春から8年間は、空き家となった「聴竹居」をある方がオフィスとして借用していた。2008年春からは、私が借家人（持主は藤井厚二の次女・東京在住）となり、地元・大山崎町の皆さんと任意団体・聴竹居倶楽部を結成し代表に就任、より積極的に公開活用すべく活動を始めた。当時は建築専門家の中でもそう多くの方がその存在を知らない「聴

竹居」。個人邸であるがゆえにましてや、一般の方々には全く知られていなかった。2008年の春に「聴竹居」の徒歩圏に住む地元の有志数人に集まって頂いた時には、「どこが良いのか」「どこが凄いのか」理解できず皆さん一緒に、その価値がわからずにきょとんしていた。公開のしくみや管理体制を整えたうえで、多くの方々への情報発信手段としてまずホームページをつくり、予約制での一般公開をおそろお始めた。その後、少しずつ全国各地から見学者が来場されるようになり、現在では、その数は年間約3000人～4000人にも達する。

こうした保存と活用をボランティアで手掛けている聴竹居倶楽部は、私を除いて全て地元のそれも徒歩圏に住む方々だけで構成している。このことが一番重要で、いくら著名な有識者が評価しようが、外部の専門家が讚えようが、地元の方々が心の底から愛着を持ち続けられない限り、地域に根差した建物は絶対に次世代に遺すことは出来ない。

実は、この「地元第一主義」の考えに至ったのには、私自身の苦い経験があるからである。2000年代の半ばごろ、ある木造の小学校の建物が保存か解体かで揺れ動いていた。地元へ駆けつけた有識者メンバーの一人から聴いていた活動はすこぶる順調で保存に向けて動いているとの印象を持っていた。ある年の夏休みの家族旅行の途中で立ち寄った。突然ではあったものの好意的に受け止めてくれるだろうと見学を申し出たところ、当直していた教職員と校庭で児童を遊ばせているPTA会長それぞれから信じられない言葉を聴くことになった。ちょうど池田小学校事件があった後だったことも影響しているが、それは、「台風で屋根が飛ぶくらい脆弱でこんな死角の多い校舎は、早く新しい建物に建替えて欲しい、よそから来た人が遺せと騒いでいるが迷惑だ」と言ったニュアンスの言葉だった。はるばる家族で訪れた建物で、当時小学生だった我が二人の娘たちだけでも、木造の校舎を見学させてほしいと言う言葉も全く通じず、門前払い。本当に苦い思い出となった。この私的な経験から、地域に根ざしている建物の保存と活用は地元の方々の想いに寄り添うかたちでよそ者が参加し協力していくやり方ではない限り頓挫すると言うことを教えられた。以降、

建物の保存と活用に取り組む場合には常に「地元第一主義」を念頭に置くようになった。

存続が危うかった我が町神戸市垂水区塩屋町の「旧グッゲンハイム邸」(写真4)が2007年に地元の一家によって救われた時も、ちょうど組織化された地元の塩屋まちづくり推進会の活動の場としての活用を勧めた。今では地元のまちづくり活動には欠かせない建物として活用が定着している。



写真4 旧グッゲンハイム邸（神戸市垂水区塩屋）

大山崎の地においても「地元第一主義」は功を奏し、今では町のガイドマップに「聴竹居」の写真が載り、まさに町の文化資源としての地位を獲得することが出来た。さらに近年は新聞、雑誌、テレビでも多く取り上げられるようになり、2013年のお正月のNHKのテレビ番組「美の壺・邸宅スペシャル」の中で「聴竹居」が紹介され天皇后陛下のお目にとまったことで、同年6月24日に行幸啓(写真5)が行われた。



写真5 天皇后陛下行幸啓。左から2番目が筆者
2013年6月24日
(写真提供：小西家)

生きた活用を継続し続ける

建物の保存と活用は建物を生きた形で使うことが大切だ。「聴竹居」は住宅として建てられた建物である。「其の国を代表するものは住宅建築」として生涯日本の気候風土に適合し日本人の理想となる住まいを追求した藤井厚二の思想と空間をより多くの方々に体感して

もらうために、敢えてある個人や企業が専有する住まいとして独占するのではなく、水・金・日の週3日の予約制の見学や各種イベントを通じて時空間を体感できる拓かれた「住まい」としている。

2008年春の公開開始当初は口コミで情報を得た建築関係者の見学会が続いたが、2009年春には庭での新緑コンサート(写真6)、同年秋には室内での紅葉コンサートも開催することが出来た。2009年晩秋には、今や恒例となったイベント「紅葉をめぐる会」(写真7)の第一回目を開催している。春の「新緑をめぐる会」と秋の「紅葉をめぐる会」は、「新緑」や「紅葉」に包まれた「聴竹居」を気軽に見て頂こうとの主旨から始めたイベントで、事前予約なしで庭を開放、希望者は室内の見学も順次可能として、初めての方やリピーターの方々など多くの方々が訪れる恒例行事として定着している。



写真6 新緑コンサート 2009



写真7 紅葉をめぐる会 2013

2009年春には聴竹居の空間を展覧会の場にした漆作家の展覧会「聴竹居との出会い 栗本夏樹展」(写真8、9)を、2013年春には現代アーティストの河口龍夫展(写真10)も開催し、聴竹居の空間と現代アートとの対話を愉しむイベントになった。



写真8 栗本夏樹展 案内チラシ 2009年



写真9 栗本夏樹展（撮影：清水 襄）



写真10 河口龍夫展 2013年

地元・大山崎を見つめなおす活動

2011年と2012年に聴竹居倶楽部が主催して大山崎町の魅力を発見するイベント「大山崎百人百景」撮影会（写真11）と展覧会（写真12）を開催した。この催しは、一般公募した町内外の一般の方々100名に富士フィルムのレンズ付フィルム「写ルンです」を渡して、半日、大山崎の魅力あるシーンを27コマに捉えてもらおうと言う企画。

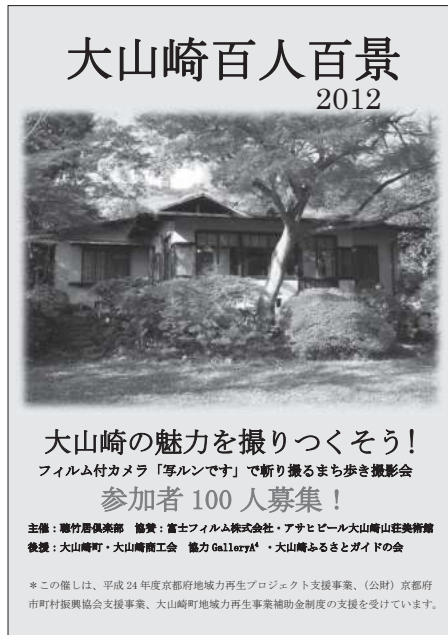


写真11 大山崎百人百景撮影会案内チラシ

その成果の発表の場として大山崎ふるさとセンターのロビーに参加者100人×27コマ＝約2700枚もの写真を一堂に展示すると同時に全ての写真を収録した冊子も作成した。「大山崎の素敵なところをたくさん見つけられ、ますます好きになりました」「参加者全員が同じカメラを使うので、それぞれの視点がわかって面白い」「27枚しか撮れないのが面白い」などの感想が寄せられ、大山崎町住民も普段はほとんど気が付いていない大山崎の魅力を再発見するイベントとなった。



写真12 大山崎百人百景展覧会の風景

こうした地域をあらためて見つめなおす活動も聴竹居倶楽部はその中心になって推し進めてきた。

藤井厚二の他の建物の保存と活用へ

聴竹居倶楽部の活動は大山崎だけに留まらない。藤井厚二が設計した他の建物の保存と活用にもそのノウハウを生かしている。広島県福山市鞆の浦の藤井家の別荘だった建物を復元再生した「後山山荘」（写真13）に2013年末に聴竹居倶楽部のメンバーが訪れ、所有者、地元福山の方々と公開活用についての意見交換を行った。そして、2014年春から月一回の公開が地元のボランティア組織・後山山荘倶楽部により始まっている。



写真13 「後山山荘」（広島県福山市鞆の浦）

さらに、2015年からは、藤井厚二が「聴竹居」を建てたあとすぐに実現した注文住宅「八木市造邸」（大阪府寝屋川市）（写真14）も聴竹居倶楽部メンバーによるアドバイスを受け、地元中心のボランティア組織の八木邸倶楽部により月一回の公開を始めている。



写真14 「八木市造邸」（大阪府寝屋川市香里園）

大山崎「聴竹居」に始まった地元中心の活動を、鞆の浦「後山山荘」、寝屋川市「八木市造邸」へと広げ、ホームページのリンクをはじめ人的交流や情報交換を続けている。地元に通る藤井厚二の建物を愛するメンバーが、それぞれの土地柄に併せて公開するとともに協調・連携していくことで、保存と活用をより良いものにしていこうという機運が生まれてきている。

繋がりの建物教えること

偶然にも出会った「聴竹居」に1996年以来関わってきて今思うことは、ひとつの建物の持つ可能性の大きさだ。ひとつの建物が、人と人、人と自然、さらに人と地域、そして過去・現在・未来を「繋ぐ」大事な存在だということである。グローバル社会、経済至上主義など、全てがフラットに効率やお金を優先した現代では見えにくくなってしまったものをふと気が付けてくれる。

私自身も経験したことだが、1995年 阪神淡路大震災や2011年 東日本大震災など一瞬にして日常性が不可逆なものだと気が付かされる災害に見舞われた時、建物や地域の風景の大切さや愛おしさを自覚することになる。ふだん何気なく暮らし、見ている建物や地域の風景の環境から実は大きな影響を受けているし、それらは人生にとっての大切な記憶装置になっている。明治の終わりから西宮の風景に



写真15 1995年 阪神淡路大震災直後の武田五一設計「芝川邸」
(撮影：大西写真事務所)



写真16 2007年 博物館明治村に移築復元された武田五一設計「芝川邸」

なってきた芝川邸が同じ場所には遺せなかった。明治村に移築復元されたが地域の記憶からは失われた（写真15、16）。

私も「聴竹居」に出会わなければ、大山崎町を訪れることも無かつただろうし、地域の方々との交流も生まれえなかつただろう。さらに「聴竹居」を通じて藤井厚二の「日本の住宅」と言う思想に触れることも出来たし、日本の住まいの歴史、日本における建築の在り方、日本人の自然との付き合い方などにも想いを馳せることにも繋がった。大山崎町の方々にとっても、同じようなこと感じただろうし、何よりも「聴竹居」の存在によって大山崎を誇らしく思う地域愛（シビックプライド）醸成の一助になったと思う。

地域と共に存在し続ける生きた建物には、「愛着の連鎖、継承」を支える「たてものがかり」の存在が不可欠だ。聴竹居倶楽部はまさに「聴竹居」の「たてものがかり」なのである。

5つのステークホルダーの共創

阪神淡路大震災以来様々な歴史的な建物の保存と活用に関わってきた経験から、それらを持続していくためには、5つのステークホルダー（図1）が同じ方向性をもつことが何よりも大切なことが分かってきた。その5つとは、①歴史的な建物を有効活用したい所有者②歴史的な建物を活かして付加価値を創造しようとする事業者・使用者（①と同じ場合もある）③歴史的な建物を地域の大切な文化遺産として遺したいと思う地域の住民④歴史的な建物を地域のアイデンティティやシンボルとして遺し生かしたいと考えている地元行政⑤歴史的な建物を長期にわたり維持管理してきた設計者、施工者である。つまりは、歴史的な建物は地域そして社会システム全体で支えていくものと言える。

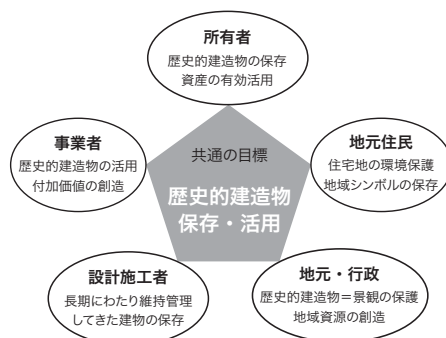


図1 5つのステークホルダー

「聴竹居」についても同様だ。今のところ、5つのステークホルダーは保存活用と言う同じ方向性にある。しかし、個人所有の財産であるがゆえに、固定資産税さらに相続税負担の問題は避けることは出来ない。今後は、聴竹居倶楽部を中心にした地域住民の協力のもと、地元行政と連携しながら、昭和初期の日本の（木造）モダニズム建築を代表する建物として国の「重要文化財」に指定する動きを加速させるとともに、持続可能な所有形態や保存活用体制を整備していくことが求められている。

「聴竹居」のこれから

「聴竹居」と出会ってから20年、ようやく「聴竹居」などの歴史的な建物をきちんと次代に遺していく社会的な機運が生まれてきている。藤井厚二は、自ら確立した環境工学の視点から日本の気候風土の特長を概説した上で、図面と絵や写真で完成形としての「聴竹居」を実例として掲載しながら、志向した日本の気候風土と日本人のライフスタイルや趣味に適合した「日本の住宅」の思想を紹介する英文の著書「THE JAPANESE DWELLING-HOUSE」（写真17）を1930（昭和5）年に発行、「日本の住宅」の素晴らしさを世界に向けて発信している。



写真17 藤井厚二著「THE JAPANESE DWELLING-HOUSE」1930年

それから86年、昭和の時代を越え平成を迎えて四半世紀になる今、「聴竹居」は藤井厚二の想いをのせて20世紀の日本を代表する世界的な住宅遺産として再び世界発信する時を迎えている。（敬称略）

（まつくま あきら）

連載 No.411

構造の頁

デザインと構造架構の融合

1 スパン高層建築物の構造設計

川口 恵 柴田宜伸 藤永直樹

大成建設株式会社設計本部

はじめに

銀座や新宿に見られる小さな間口の中に少しでも有効スペースを確保したいという建築主のニーズに対して、デザインと構造架構を融合させることは、最良の方法と言える。

ここではその1つの例として、1スパン高層建築物に対する架構デザインを紹介する。

建築計画概要

本建物は、銀座の老舗文房具専門店本店ビルの建替計画である。間口約8m、奥行き約38m、細長の平面形状と塔状比が約7のスレンダーな立面形状の建物で、表も裏もない「ガレリア（みち）」をイメージした建築計画である。

敷地を最大限利用できるフレキシブルな建物を実現するため、外壁面から隣地境界線までのクリアランスを施工可能な最小寸法の約30cmとしている。内部空間を最大限確保するため□-390×500と偏平な箱型断面の柱を用いており、柱型が内部に現れないようにし、内部空間確保を最大限考慮した計画としている。偏平柱は建物全体の剛性を確保するため2.4mピッチに配置している。



写真1 建物全景

構造計画概要

地下階は鉄骨鉄筋コンクリート造（耐震壁付ラーメン構造）、地上は鉄骨造（長辺方向：座屈拘束ブレース付ラーメン構造、短辺方向：ラーメン構造）である。短辺方向は1スパンラーメンによる架構であり、地震時に低層部の柱には大きな軸力変動が生じる。静的解析時の応力状態に応じて計画した梁崩壊型の終局形が確実に形成されるとは言えない。

また、全層梁崩壊型が形成されたとしても全梁同時に降伏するとは限らず、剛性偏心が生じることも想定される。これらの弱点を補うため、①変形制御及び特定層への変形集中を避けるため、地下階から地上部全層を貫通する剛強な通し壁柱を建物重心位置に配置する②建物の減衰を付加するためにオイルダンパーを両妻面に設置することとした（図1）。

通し壁柱の設計

通し壁柱は1階床を支点としたキャンチレバー状となるが、地下ピット内の壁脚部を固定するとむしろ地震力を集めてしまうため、本計画ではローラーとして設計した。モデル上のローラーを実現するために脚部にはゴム支承を設置した。

一方、通し壁柱上部の剛性は図2に示すように特定層の単位加力に対して、その層の仕事を通し壁柱がどれだけ上下の層に配力しているかを評価して決定した。通し壁柱の剛性が高くなるにつれ、強制変形を与えた層の弾性ひずみエネルギーは減少し上下層のひず

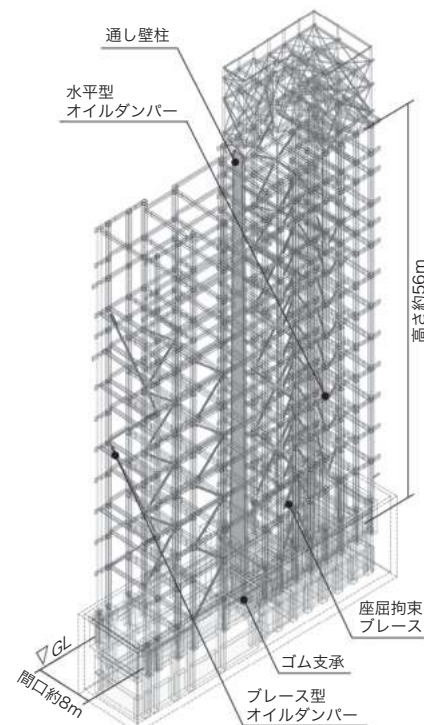


図1 構造解析モデル

みエネルギーが増加している。剛性倍率1.0倍の断面を採用した（図3）。

通し壁柱の断面形状は、本建物が鉄骨造であること及び施工性を考慮し、図3の剛性倍率1.0相当のビルドH形鋼BH-2500×400×28×60とした。また、図4にレベル3地震動入力時の通し壁柱の有無による応答の違いを示す。通し壁柱がない場合、11階の変形が過大となっている。一方、通し壁柱がある場合は、特定層に変位が集中せず、設計意図通りに各階の変位は均一化している。

ブレース型制振システムの設計

建築デザインと一体とするため、端部にオイルダンパーを組み込んだブレース型制振システムを計画した（ブレース軸径、ダンパー径ともにφ267.4mm）。建物正面は2層にわたるブレース型オイルダンパーを設け（最大減衰力：1000kN/本）、反対側の面には1層に1本の水平型オイルダンパーを（最大減衰力：500kN/本）設置した。

透明感の高いファサードに溶け込む細径のブレースダンパーにより耐震性を向上させるだけでなく、ファサードデザインとの融合を図った。2枚のガラスカーテンウォールの間に挟まれた半屋外に設置し、室内空間を阻害しない位置とした。ブレース端部は、建築主のスケッチを元に製作可能な形状を鉄骨の削り出しにより作成した。

おわりに

構造設計の主旨に対する建築主、意匠設計、施工者の理解と協力があり、構造と建築デザインが両立した建物が実現できた。関係した方々にはこの場を借りて感謝の意を表します。（かわぐち めぐみ、しばた よしのぶ、ふじなが なおき）

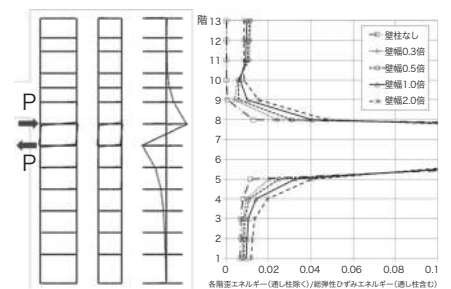


図2 曲げモーメント図

図3 曲げモーメントによる通し壁柱の歪みエネルギー

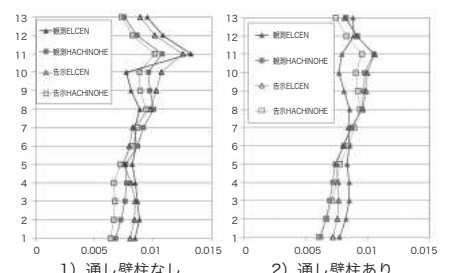


図4 応答最大層間変形角 (L3)

第15回 読者と選ぶ「建築と社会」賞 入賞発表

読者と選ぶ「建築と社会」賞

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい、社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考に当たっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

第15回読者と選ぶ「建築と社会」賞 選考会

日 時 2016年5月9日(月)

17:30~20:30

場 所 日本建築協会

選考委員(写真 右手前から反時計回り)

委員長 田中直人/島根大学大学院特任教授

委 員 近本智行/立命館大学教授

委 員 高砂正弘/和歌山大学教授

委 員 多賀謙蔵/神戸大学大学院 教授

委 員 阿部浩和/大阪大学大学院教授

委 員 弘本由香里/大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所特任研究員



審査講評

田中 第15回の読者と選ぶ「建築と社会」賞の審査について改めて確認させていただいた後、先般、現地で見ていただいた作品を含めた作品部門、それから論考部門の審査をしたいと思います。

この賞の審査にあたって、評価基準の大事なところは、「社会性」ということと、「環境性」ということになっています。社会性とは何か、環境性とは何か、これもういふんと難しい言葉ですが、他の賞でやっているものと同じものじゃない、「建築と社会」賞としての独自の評価基準を大切にしたいですね。それでは、作品部門から行きます。

■作品部門

田中 現地調査に行った作品が6点、遠方等、視察できず資料で説明いただく2点の計8点から選考します。場合によっては敗者復活で、ぜひこれはというものがありましたらまたご提案いただきたいと思います。

<作品データを映し出し、内容を確認しながら検討。以下、各作品について同様に>

田中 ではシスメックス i-Squareですね。

多賀 この建物、積極的に取り組んでおられると思うんですけど、いろんな事情があつてなんともいえない閉鎖的な建物の印象ですね。社会性とか、環境性とかいうイメージとちょっと遠いのかな、という感じで残念ながらという気はいたしました。

阿部 ちがう視点で見ればこのあたりの地域が工場地帯だと思うので、その中でこの建物はひととき目立つデザインを効果的には作られていたね。あとは内部の見学通路も回廊式になっていてうまく計画されている。

弘本 私も従業員が働きやすい、いわゆる過去の工場の空間とは一線を画す洗練された労働環境をつくっていらっしゃるという点では評価できるのかなと思いました。ただ均質的で今どこにいるのか認識にくい空間デザインには多少不安も感じました。また、あの巨大な盛り土には、賛否あるかもしれませんが、盛り土でゆるやかな大地の動きみたいなものを作ることで四角いキューブの建物の存在感を際立たせています。その周辺で暮らす人たちにとってもある種のランドマークみたいなものになっている可能性も感じました。その点も評価できるのではないかと思います。

近本 感動を与える空間作りということで、彫刻のような形態を建物の矩形の形と盛り土のやわらかい形と対比させてつくったかった、設計者の意図が非常に良くわかると思います。ただ盛り土をつくられた時にもう少し地域に開放的な空間にしてあげるとかそうすることでガラッと変わったんじゃないかな、と思いますね。

田中 はい、ありがとうございます。

次の**阪南大学50周年記念館**について検討したいと思います。

高砂 ホールや学生の食堂もきれいで、全体としてまとまっていますが、新しい提案をこの中から見つけることができなかった。

近本 一生懸命がんばって南側のグラウンドに対しても大きな開口を取るとか、あるいは西側のファサードデザインもピロティを介してとるとか、がんばっていたようには見えませんでした。

田中 既存の建物も上手く取り込んでつないでいく、例えば外装材を統一して雰囲気合わせていくと、そういう新旧のコラボレーションがよく意識されているのでその点はすごくいいなと思いましたね。じゃあ次、**立命館大学大阪いばらきキャンパス**。

弘本 以前に大阪府のみどりのまちづくり賞の審査でお邪魔したことがあります。その際に、地域連携のお取り組みを中心にいろいろお聞きしたのですが、市街地の工場跡に大学を創ることで、こうした緑地等のオープンスペースを設け、環境面でも社会面でも、地域に大きなプラスの効果を与えていることは間違いのないと思います。キャンパスを地域と一体型で設けられたことはとても大きなチャレンジだと思います。ただ、建物のコストがかなり抑えられていて、いわゆるローコスト建築に近いような印象を受けます。しかし、人の流れの作り方や参加のデザインなど、さまざまな知見が盛り込まれ、環境面でもいろんな実験をしていらっしゃるようですから、実験成果がこれから社会にフィードバックされていくことにも期待したいですね。

阿部 社会性というか、地域連携の点から見ればかなり効果的なプランニングができているし、ゾーニングができています。学校の内部の設計もワークショップしながら作ったことで、学生の生活に合ったキャンパス作りができていたと思いました。ただ大学としては、やっぱりちょっとこれでいいのか？というところはあつて、ショッピングセンターじゃないんですよね、と言いたところがあるやっぱあつて(笑) 今後100年、200年続くとすればもう少し予算をかけて欲しいと個人的には思いました。

多賀 ひとつの棟じゃなくてキャンパス計画という条件あつてのことだと思います。

立命館自体が小学校から含めて相当積極的な取り組みをされていることが背景にあると思うのですが、かなりいろんなことに挑戦されているなっていうのが、構造屋の私にもわかるような作品でした。見るからにコスト押さえたなというのもよくわかる建物で、それは僕にとっては逆に好感を持てたというか、お金ない中でやろうとしたことが逆にはつきりしていて、将来的にはその時必要があれば床壁を張り替えたら良いのかな、という気がします。(一同笑)

そんな中でも、玄関の大庇のところはもうちょっとやりようがなかったのかなと思いました。構造がそのまま見えているわけですけども、小奇麗に塗装しているところもあるんですね。「溶融メッキのままでは・・・という事で塗装しました」というご説明だったのですが、それをしたがかえって他の所がすごくみすばらしく見えてしまったな、というのがちょっと残念という気がしました。

田中 社会性とか地域に対して開かれるという点の評価がある一方で建築的なグレードとか、作り込みについてももう少し投資しても良かったんじゃないかという意見が大半ですね。ありがとうございます。

大学の話が続きます。**大阪国際大学・短期大学部 1号館**いかがですか。非常にアルミの、マークに拘っている。

高砂 マークに拘ってますねえ。(一同笑) 建築よりコマーシャルな感じがします。

弘本 マークを考え付かれたところまでは良かったと思うのですが、ちょっとマークを多用されすぎているのが、見ていて若干へビーな印象を受けました。コモンスペースもたくさん設けられていて良いと思うのですが、什器の形や場所によっては活用されにくいものもあるのではないかと、少し気になりました。

近本 学生がものすごく活気あって、外国の方も含めてだと思うのですが、そういう意味でいうといろんな雑多な交流スペースがあった良かったのかもしれない。

弘本 なるほどコモンスペースは、有効に活用されているわけですね。

田中 じゃあ。デザイナーの、計画者のねらい目がうまくいっているという事ですね。

じゃあ、**もりのみやキューズモールBASE**についてお願いします。

阿部 スポーツをキーワードにして、フットサルがあったりランニングトラックがあったり、そういう施設を上手く盛り込んでいる点はなかなか素晴らしいと思いました。ここは元々野球場だったということもあるし前に大阪城公園があり、住宅地であるっていう中で、そういう風に組み立てられているということが面白いなと思いました。ただ意図的かどうか、学生が作った模型がそのまま出来上がったみたいな感覚は少しあって、もう一捻り工夫はできなかったのかな、という感じは否めないと思いました。

田中 健康スポーツに関して商業施設としておもしろい企画ですが、もうちょっと違うライフスタイルの提案とかもあるかなと思うけど。

多賀 かなり敷地の制約条件がある中でがんばっているなあというのはすごくわかりました。構造面で注目はされていないかもしれないんですけど、フットサルの屋根を結構大胆なキャンチレバーでやっています。こういう施設も相当コストの制約が厳しかろうという想像に難くない中で、立派な吊橋状のキャンチレバーで屋根を架けているというのは構造のエンジニアから見たらそのがんばりには好感が持てます。

高砂 上から見られるアングルがあると思います。街の中の建物なので。上から見た時に、あまりきれいじゃない。そこも含めてやっぱ社会性だと思うので、その辺はもうちょっと配慮すべきだったと思いますよ。

田中 非常にユニークで面白いなと思ったのですが、できればもう少しユニバーサルというか、車椅子の方とかハンディを持った人に対する配慮が入れられていたらなおいいかなというのがひとつと、それから前に野球場であったという場所柄の記憶性を野球場のホームベースとか入れられてそれは大変いいと思うのですが、やはりそこまでやるんだったら元々の場所に合わせるとかもっと徹底してこだわるところがあった方が良かったのかな、と思いました。出来たら建物の一部とかですね、何かそういう空間的な仕掛けを残していただくといいのかなという風に思いました。

だけど全体的にがんばってる作品ではないかと感じました。まあ、商業施設もいろいろあってもいいんじゃないかなとこれから思いますね。

じゃあ次、**久野病院**ですね。

多賀 ほば寝たきりの方も外が見えるようにという配慮から壁を少し斜めにする手法は、この建物が初めてってことではないと思うんですけども、また、その構造を特許にするというのもしょうかな、というところが正直あるんですけど、それはさておいて、担当された若手の方が非常に真摯に取り組まれたな、というのが伝わってきました。施設の目的としたら、あまり明るくない目的を持った建物なのですが、そこを何とか明るくしようとしているというのも伝わってきて、とても好感の持てる建物でした。

高砂 昔、設計を教えていただいた先生に入院患者はベッドに寝て、1日中白く退屈な天井を見て過ごしているのよね、といわれたことがありました。この病院であれば横を見れば外の景色が見える、という仕掛けになっているところがすばらしいと思いました。

意外とできそうでできなかった建物をうまくつくられたな、という印象です。外が眺められて緑が見えて、空が見えて、そういう病室をつくられたというのは本当に良いアイデアです。それ以外にきちんとそのことを考えて構造も組まれていますので、建築としてすごくいいと思います。

弘本 重度の寝たきり高齢者の方々の病院としては、背景にある医療制度や経営上の制約から、できる事がかなり限られていて、患者さんの尊厳として、「眺め」というところにひとつの救いを求めて、時間や季節の変化が感じられる眺めが得られるようにと配慮されたということ自体は、設計のあり方としては良いことだと思うんです。また、病室特有の臭気を上手く換気することも合わせてやられたということも、生活の質を高める上で評価できると思います。一方でこうした日本の高齢者医療の現状が抱えている矛盾みたいなものに対して根本的な問題解決とは何か、単純に建築で解ける問題ではないとしても、何か胸の痛みを覚え、考えさせられました。

設計としては、訪ねてくる家族のスペースも穏やかに寛げるように配慮してある点もよいと思います。ただ、患者さんにとって窓の外眺めを得ること以外の刺激や行動があるのかどうかなどが気になりました。設計の問題というわけではありませんが、悩ましく思ったところ。極限の設計としてはよく考えられていると思うんです。だけど本当にあるべき病院とはどうなんだろうと思ったときに、落差があって、ちょっと苦しい気持ちになったところがあります。ただ世の中には眺めも確保されていない病院が山ほどある現状の中で、これぐらい考えるべきだという、意味のある提示になると思うんですね。そのどっちをとるかというところで、それは田中先生の意見をお聞きしたいなと思ったところでもあります。

田中 そうですね。医療施設もいろんなレベル、タイプもありますから、それに対して建築的にどう対応するかということ。

この場合、私が感じたのは、クライアントの方と設計者が結構うまくいい感じで理解しあえているかなという感じがしました。まずもって1階のロビーのところにサイン計画として、この施設の意図なり、狙いを嫌味がなく、来た人にわかって貰える、一緒にこういうスタイルでやっているんだよ、というデザイナーの意図がユーザーの家族の方とか関係者の方に理解してもらえるようなエントランス空間をデザインされてると。そのプレゼンの仕方も結構見やすく工夫されていて非常に親しみを沸くようなプレゼンされてるなと感じました。まあ、ひとつの新しい病院の作り方を提示してるかな。あの中身の悩ましい話は、建築家の限界があってできないかもわかりません。

では**京都市立病院 院内保育所**ですね。これについていかがでしょうか？

近本 これは市立病院の職員の方のお子さんのみですかね？患者さんが例えば数日間短期入院かなんかでとかいうときのお子さん預かりとか。ただ単に院内の職員の方だけだったら、おもしろくないですね。

阿部 うちの大学も付属の保育園があってやっぱり勾配屋根がついているんです。大学

なのでみんな四角いですが、そこだけ勾配屋根で優しい感じがあるんですけど一体感があるかどうかといわれると。

高砂 この場所にマッチしているかという、唐突で違和感があります。

田中 植栽けっこう生垣的に遮蔽する感じがあってちょっとスクリーン的には見通しは少ない状態じゃないかなと思いました。

続いて東海の方です。**エレメック本社ビル**。

近本 唯一、設備をメインにだした事例だと思いますね。そういう意味でいうと、この外壁のデザインも含めてなんですけども、風の通り方、潜熱蓄熱材の効果を建物全体で実証しようということがきつと予条件にあったのかな、と。それでシミュレーションの結果とか、効果検証をきちんと計ろうとしている建物かなと思います。建築的にどこが素晴らしいとはなかなかいいにくいところではあるんですけども、設備的にはがんばった、というところ。

高砂 エコウォールってあるじゃないですか、これよくわからないですけど、どういうものですか？

近本 エコウォールって、たぶん緑の壁面に面して細いコリドールっていうか隙間を作っておいて、その隙間のところに空気が入り込み、更に壁面の段々になっているところに風をとらえるように開口が空いているから建物の中に入ってゆく、というものでしょう。

田中 資料にエコウォールって、風力換気効果を促進させるって書いてありますね。

高砂 風が抜けないですよ？

近本 いや、抜ける先がですね、PCMの調温効果っていうものによります。

阿部 PCMって何なんですか？

近本 潜熱蓄熱材なんです。何℃でもいいんですけど、例えば30℃ぐらいで固体から液体に状態を変化させることができる、そういう材料なんです。水だったら比熱が1じゃないですか？そういう潜熱蓄熱材を使うと相変化を伴う熱を蓄えられるんで、その分より多くの熱を蓄えることができますよ、っていうような材料です。

阿部 で、そこが温まると風の流れができる？

近本 そうそう、固体から液体になることで多くの熱を蓄えるからより多くの空気を引っ張り上げるじゃないのか、ってことだと思います。

阿部 それでコリドールというのがあるわけですね。

近本 わかりにくいですよ。

高砂 実際にその効果はありますか？

近本 いや、多分あるんだと思いますよ。きつと実証しているんだと思いますけど。

弘本 沖縄などではそんな建物がけっこうありますよね。郷土色が豊かなブロックを使っただような。

近本 でも潜熱は利用してないんですよ。

弘本 あれはまた違うんですか。

近本 あの、ブロックは蓄熱目的なので潜熱を利用するとかではないと思います。

高砂 設備がいっぱいあって、どうでしょうか。オフィスなのだから明るくしたいじゃないですか、それなのに東側にエコウォールがあつて光が全然入ってこなくて、暗い感じがする写真ばかりじゃないですか、これって健全なのかなって気がして仕方ありません。(一同笑)

たとえば中庭をつくって、柔らかい光や優しい風を室内に入れるとかね、その方が健全だと思う。

近本 たぶん、これは六合エレメックさんの製品を実証したいんだというふうに思った方がいいんじゃないですかね。

田中 環境性ということで自社のことも含めてがんばっておられると思いますね。社会性という点でどうでしょう、地域に対してつながるとか、関係してるとか、やっぱり自社ビルだから無いでしょうね。

多賀 設備のエンジニアリング面で、すごくてんこ盛りに近い状態かもしれないけど、かなり意欲的に、実験的に近いぐらい取り組まれていますよね。この中で良い手法は一般化していけばいいと思います。実際どうであったかということのをこれからオープンにしていつてほしい、という期待も含めてこの作品を取り上げるというのはありかなという気がします。

田中 はい、ありがとうございます。

そしたら次の段階に移りたいと思うんですけど、敗者復活で何かありますか？

高砂 浜松信用金庫駅南支店は見てきました。これ意欲作です。いままで体験したことがないような空間ができあがっていると思いました。ただ、ちょっと独りよがりの感じがありまして、周りの環境にあわせているかという、それはほとんど無い。建築と社会賞としてふさわしいかっていわれるとどうかなっていうところがあります。また、担当は違いますが、昨年からの連作です。

もうひとつは、4月号、私の空間作法の中に「**一見はるかす伊賀上野城**」というのがあって、都築業の河原さんが基本構想されていて、竹中工務店の酒井さんと井上さんが設計協力をしたという建築です。本を見直し、今朝あわてて資料お願いし、資料が届いたところです。韓国の建物をモチーフにしてつくった、ゲストハウスっていうのですか、都築業の別荘的な建物だと思います。気候風土みたいなことを考えながら環境にマッチした素材で自然体な建築をつくろうとしているので、これは評価すべきだと思いました。

田中 ありがとうございました。ということで、今日プレゼンの確認させていただいたのは8点、プラス、敗者復活として2点、ですから、10点の中から選んでいただくということで。〈委員による投票と集計〉

投票結果、シスメックス1票、阪南大学50周年記念館が0、立命館大学大阪いばらきキャンパス4、もりのみやキューズモールBASE2、大阪国際大学・短期大学部1号館0、久野病院6、京都市立病院 院内保育所0、六合エレメック本社ビル2、浜松信用金庫 駅南支店1、見はるかす伊賀上野城2となりました。

田中 久野病院は満票です。もうこれは決めてもいいんじゃないかと思いますが、よろしいでしょうか？続いて多かったのが4票いただきました立命館大学です。これもいいですね？続いて2票、1票というレベルに全部並んでしまうので作品2点ということにしますか？ご意見ください。

多賀 2作品やむなしという気もします。今回初めてですけど、ぐっと来るものがやっぱり少ないなという印象がありますので。

田中 今回はかなり偏ってましたね。この辺りも今後の課題ですね。

阿部 かたまるんですね。どうしようと悩むぐらいある時もあれば、ちょっと不作の時もある

田中 そうですね。では**久野病院、立命館大学大阪いばらきキャンパス**、この2点を入選作としたいと思います。

■論考部門

〈1月号から各特集、論考内容の確認〉

多賀 1月号、読み易かって、いいな、と思ったんだけど、田中先生、弘本さんも入っておられてて。(一同笑)

田中 選考委員の作品は選考対象から外すことにしましょう。

5月号、総論で「あかりの歴史と未来」。各論1の方に1次選考での評価が高いような感じなんですけど。「**島原・角屋の昼と夜**」明かり、文化、歴史的なことも含めて書かれます。あと各論の方で川中さんとか鈴木さんの分が、注目されているようなんですけど、このあたり誰もが関心を持ち易い明かり、文化、創造というね、そういうテーマ性もあると思いますけど、そういう観点から評価されているようですね。私は村上さんのはいいかなという感じです。

多賀 私も光のことは素人に近いんですけど読んでいて電気の無い世界を想像できて面白かったです。

高砂 実際に現場で実験されていますよね。

田中 実証というか裏づけがありますね。

高砂 だからリアリティと説得力があり、これ面白いですよ。

田中 5月号につきましては各論から村上さんの分と、全体特集の企画としての候補ということで検討したいと思います。それから6月号ですね、「これからの学びのかたち」ということでいろんなキャンパス、特に立命館大学の話がたくさん出てきておりますけどもこれについて何かご感想とかご意見ありますか？

弘本 対談 新しい学びのかたち—グローバル社会の人材育成のために—は先ほどちょっと話が出ていましたけど、面白いなと思いました。最近の状況を非常にわかり易くその背景も含めて説明されていて。

近本 対談は面白かったですね。それぞれのお持ちの実例を丁寧に説明されてたんで。事例紹介からスタートしていたんでわかり易かったですね。

田中 じゃあ、この号につきましてはこの対談というところですね。次は8月「**建築の価値**」ですけども、総論ならびに各論かなり興味深い物がありますが、まず総論の「**建築の価値、建築と価値**」に目がいつているようなんですが、いかがですか？

弘本 私も総論面白いなと思って読みました。

多賀 私もこれ面白い、これか舟橋先生の総論か、両方はないかなと、どっちか。

弘本 そうですね、論理の濃度からいっても。

田中 じゃあとりあえずは8月号につきましては総論の土居さん候補ですね。

高砂 中谷さんの「**建築の価値を生み出すのは誰か**」を入れていいですか？各論3。わかりやすかったです。雑誌編集長の立場から建築の価値ってどういうものかっていうことを考えられている。

田中 次10月号、「職人がいなくなる」。非常に真摯なテーマですけどこれはどうでしょう？1次選考では、総論「**職人がいない 技能者不足の理由を紐解く**」が注目されてるようなんですけど。

弘本 私の立場では、はじめて知ることも多くて面白いと思ったんですけど、建築業界の人にとっては、どうですかね？

高砂 いやいや、面白かったですよ。この総論は良かったと思います。

多賀 深刻な話

高砂 そうですよ。ほんとそう。

田中 じゃあ続いて11月号ですけども形態と構造の関係ですね「**形態にあらわれた構造**」ということで。各論の中の山梨さんの分に注目されているようですが、いかがですか？構造いかがですか？この特集。

多賀 本人をよく知ってるからというのもあるんですけど、例えば向野さんの論調は私と

しては好きですね。

田中 向野さん、各論1－2ですね。

近本 ホキの解説ですよ。

多賀 そうですね。

阿部 私、館さんの「**かたい形、やわらかい形ーオリガミの構造形態学ー**」面白かったです。

高砂 わたしも。

田中 親しみ易いですよ。

あとですね、法令コーナー、構造のページ、設備、再読、群像、建築と社会を考える、とありますが、何かご推薦いただくこと無いでしょうか？

近本 舟橋先生のはボリュームがあつて…。

弘本 迫力がありましたね。

近本 新しい企画のスタートですからという意味では。

弘本 そうですね、最初にふさわしい視座を示してくださっています。

多賀 後から書く人にはかなりプレッシャー。(一同笑)

田中 8ページでしたね、たしか。

多賀 そうですね、大作でしたね。

難しい漢字もたくさん使っておられるし。

田中 引用文献もすごかったですね。

弘本 とても勉強になりますね。

田中 では今後のシリーズの発展を期待して総論「**建築と社会を考えるー一つの試論ー**」舟橋先生の分を上げるということにしましょうか。あとU-35の企画等についてはどうでしょうか？

まとめていきますと5月号は村上さん、6月号は対談、8月号は総論と各論3の中谷さん、10月号は総論、11月号は各論3、それから建築と社会を考えるシリーズの舟橋先生というところでいいですか？

じゃあこれも投票いただきたいと思います。特別賞の特集の企画、1月号から12月号ありますので、それも候補として入れて投票してください。特別賞は絶対作ると決まってないので、何月号の特集がいいかという議論はしていませんけど、全体見ていただいて、特集としていいのはこれだ、という風にあげていただいてもいいし、あげていただかなくてもいいと思います。

<委員による投票と集計>

投票結果をお知らせします。

島原・角屋の昼と夜4、対談 新しい学びのかたち0、建築の価値、建築と価値1、建築の価値を生み出すのは誰か1、職人がいない4、かたい形、やわらかい形3、建築と社会を考える3、5月号特集と8月号特集そのものに各1票入っています。

田中 6名の委員がいて6票満票がなくて、最高が4票ということですね。4票の物をそのまま入選という風にしてもよろしいですか？

あと、特集として評価されたのはそれぞれ1票だけですよ？だから今年度の場合は特集の表彰はないという感じでどうかなと思います。

問題は次なんですけど同点で3票とあります。どういう扱いがいいと思われますか。

高砂 え、両方ともだったらだめですか？

田中 4人でいいですか？

多賀 まあ、相対的には頭抜けてますよね。

高砂 いいじゃないですか。

田中 じゃあ、いまの高砂先生からの動議で4票に次いで3票のお二人も入選として、都合4名になります。それでよろしいでしょうか？

弘本 はい。

高砂 バランスいいですよ、総論が2つで各論も2つ。

田中 そしたらもう一回確認しますが、4票のお二人と3票のお二人、計4名を入選ということでもよろしいでしょうか？

それで今回は特集企画、特別賞は該当なし、という形をとりたいと思います

トータルとしまして作品の部門で2点、でしたね、で、今年は論考の方が多くて4点、合計で6点になりました。

どうもありがとうございました。

一時選考結果

『作品部門』－10点

- ・シスメックス i-Square
- ・阪南大学 50周年記念館
- ・立命館大学大阪いばらぎキャンパス
- ・もりのみやキューズモールBASE
- ・大阪国際大学・短期大学部 1号館
- ・久野病院
- ・京都市立病院 院内保育所
- ・浜松信用金庫 駅南支店
- ・東海の建築 六合エレメック本社ビル
- ・私の空間作法 見はるかす伊賀上野城

『論考部門』－7点

- ・島原・角屋の昼と夜
- ・対談 新しい学びのかたち
- ーグローバル社会の人材育成のためにー
- ・建築の価値、建築と価値
- ・建築の価値を生み出すのは誰か
- ・職人がいない 技能者不足の理由を紐解く
- ・かたい形、やわらかい形
- ーオリガミの構造形態学ー
- ・建築と社会を考える ー一つの試論ー

入賞作品

『作品部門』

- ・立命館大学大阪いばらぎキャンパス
- ・久野病院

『論考部門』

- ・島原・角屋の昼と夜 村上幸三郎
- ・職人がいない 技能者不足の理由を紐解く 蟹澤宏剛
- ・かたい形、やわらかい形
- ーオリガミの構造形態学ー 館 知宏
- ・建築と社会を考えるー一つの試論ー 舟橋國男

※論考部門

島原・角屋の昼と夜（2015年5月）

村上幸三郎様の受賞の言葉はご静養中のため、掲載依頼を差し控えさせていただきました。ご了承ください。

第15回 読者と選ぶ「建築と社会」賞 入賞作品

作品部門

立命館大学大阪いばらきキャンパス

〈2015年6月号〉

所在地 大阪府茨木市岩倉町2-150
 建築主 学校法人立命館
 設計監修 学校法人立命館 キャンパス計画室
 基本設計・監理統括 株式会社山下設計
 設計・監理 株式会社竹中工務店
 施工 株式会社竹中工務店



立命館大学大阪いばらきキャンパスでは「都市共創」、「地域・社会連携」、「アジアのゲートウェイ」のコンセプトのもと、新たな学びのスタイルを創造している。

敷地の骨格は条理制から南北・東西の軸線とし、防災公園を囲むように図書館やホール、レストランを配置した。開かれた建築とランドスケープの融合により、広域交通に分断された街の文脈の回復をめざした。

多様な出会い、豊かな交流が生まれる街のようなキャンパスでは、大屋根のあるテラスとラウンジを持つ学生の主動線「コンコース」と、それに直行するセットバックテラスを持つ「緑のチャネル」とが、外部と内部を一体的空間にしている。学生主体の学びの場のネットワークが、「キャンパス全体をラーニングプレイス」とし、講義室や研究室など内部機能に呼応したファサードが、時間により表情を変え、窓や障子の開閉等の環境行動を促す、「気付きのキャンパス」を形成している。



及川清昭 おいかわ・きよあき
 1976年 東京大学工学部建築学科卒業
 1976年 東京浦辺建築事務所
 1999年 東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授
 2003年より立命館大学理工学部教授



武田史朗 たけだ・しろう
 1995年 東京大学工学部建築学科卒業
 2004年 立命館大学講師、武田計画室設立
 2009年 立命館大学理工学部准教授、現在、武田計画室（ランドスケープ・建築）代表



石井靖人 いしい・やすひと
 1985年 千葉大学工学部建築学科卒業
 1987年 千葉大学大学院工学研究科修了
 同年 山下設計入社
 現在、関西支社 執行役員 関西支社長



長谷川淳 はせがわ・じゅん
 1982年 神戸大学工学部建築学科卒業
 1984年 神戸大学大学院修士課程修了
 同年 竹中工務店入社
 現在、同社大阪本店設計部設計第7部長



作品部門

久野病院

〈2015年12月号〉

所在地 兵庫県神戸市西区神出町広谷623-16

建築 主一医療法人社団薫英の会 久野病院

設計・監理 株式会社竹中工務店

施工 株式会社竹中工務店



■地域になじみ、自然を感じる療養環境を目指して

豊かな自然に囲まれた地域医療を担う療養型病院の建替計画である。今後高齢化が加速していく中で、この地で医療を継続することが重要であると考え、既存病院を移働させながらの現地建替を行った。外装の特徴である雁行壁柱によって、スタッフがひと目で全員の患者さんが確認でき、患者さん一人ひとりが眺望を確保できる「雁行ICU型4床室」を実現した。壁柱部にはオムツ交換時の臭気排出システムも組み込み、快適な療養環境を創出した。少人数のスタッフでも働きやすく、寝たきりの患者さんにも自然を感じる喜びを持ち続けてもらえる病室の形が実現できたと考えている。病棟フロアに配した設えの違う3つの中庭周りや廊下端部のアルコーブには小さなデイコーナーを分散配置し、患者さんの家族や見舞客が利用しやすい多様な居場所を創出した。1階の外來待合の壁にはこのような病院の理念や建物のコンセプトをアートとして表現し、みなさまに愛着をもっていただくきっかけになればと考えた。



桑原悠樹 くわはら・ゆうき

2006年 竹中工務店入社

現在 同社大阪本店設計部

主な作品

守口ミッドサイト文禄ヒルズ

ザ・タワー (2010年)

論考部門

職人がいない
技能者不足の理由を
紐解く

〈2015年10月〉

蟹澤宏剛

建設業の魅力を向上する必要があること、職人の処遇を向上し若者の入職を促進する必要があることは、少なくとも著者が学生だったバブル絶頂期には既に声高に叫ばれていたことです。しかし、バブル崩壊後は、むしろ建設業者と技能者は供給過剰とされ、業界は泥沼のダンピング合戦で疲弊し、結果、賃金は低迷し、この業界から多くの人が去って行きました。職人の大切さを認識し、社会保険加入や訓練の充実などに真摯に取り組んだ会社もありましたが、競争という名のダンピングに敗れて倒産した会社も少なからずあります。

私は、こんな状況を学生から若手研究者、大学教員に至る過程で間近に見続け、職人の親方や専門工事会社の番頭さん達から「正直者が馬鹿を見ぬような仕組みを提案してくれ」と叱咤されてきました。残念なことに、志半ばで亡くなられた方もいます。

私は政治家や官僚ではありません。よって、出来ることは、資料やデータを集め、足を使って見聞を深めて客観的に現状を記述し、どこに構造的問題があって、解決するには何をすべきかを世に提案することです。

こんな想いで綴った拙文を読者と選考委員の皆様へ評価していただけたことを、大変光栄に思っています。ありがとうございました。



蟹澤宏剛

かにさわ ひろたけ

1965年東京都生まれ。千葉大学大学院博士課程修了。博士（工学）。工学院大学、法政大学非常勤講師、ものづくり大学専任講師を経て2005年芝浦工業大学助教授、2009年より現職。専門は、建築生産システム、建築構法（特に木造建築）。現在、国土交通省の建設産業活性化会議委員、建設産業戦略的広報推進協議会顧問、社会保険未加入対策推進協議会会長、建設産業担い手確保・育成コンソーシアムアドバイザー、関東地方整備局 事業評価監視委員会委員、就労履歴管理システム（仮称）の構築に向けた官民コンソーシアム委員などを務めている。

論考部門

かたい形、やわらかい形
—オリガミの
構造形態学—

〈2015年11月〉

館 知宏

「折紙」は建築においてなじみの深いテーマです。折紙を使った構造の考え方は先人たちにより提案されていますし、何より日本人にとっては、子供の頃に触れたことのある「懐かしい」ものです。

だからといって可能性は尽くされているかというと、そんなことはありません。いま、Origamiはサイエンスやネイチャーなどの雑誌でも常連の最先端のキーワードです。

いま何が脚光を浴びているのかというと、その学際性です。幾何学・計算科学といった理論的な視点、材料科学・ロボティクス・建築構造などの応用的視点、そして芸術・文化としての視点など、視点が変われば同じテーマが全く新しい見え方をします。領域を横断した研究やコラボレーションを通して多くの成果が導かれています。そこには、未解決の問題を一つ解くと、それに関連する十個の未知の問題がでてくる、といったエキサイティングな世界が広がっています。

「形態にあらわれた構造」特集は、まさに学術領域を橋渡しするような特集でした。

今回、その各論として書いた拙稿が賞をいただけることとなり、たいへん光栄に思います。



館 知宏

たち ともひろ

1982年つくば市生まれ。私立武蔵高校、東京大学建築学科卒業。同大学院修士課程・博士課程終了。博士（工学）。2010年より東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系助教。計算折紙（コンピュータショナル・オリガミ）と空間構造・構造形態学の研究を行っている。『Origamizer』『FreeForm Origami』などの折紙設計のためのシステム開発を行いウェブページにて公開している。

論考部門

建築と社会を考える
—一つの試論—

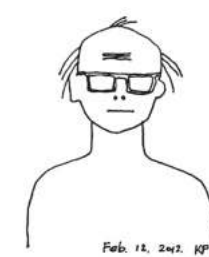
〈2015年10月〉

舟橋國男

読者と選ぶ「建築と社会」賞を授与して下さる拙稿は、日本建築協会創立百年を目前に始まった連載「建築と社会を考える」の「総論」ということになっている。しかしそれは、浅薄なとりとめもない彷徨の域を出ず、さしたる中心的な問題や有意な考え方を提示できた訳ではない。また、引続く「各論」との打合せも調整もないままであったから、連載開始の「総論」に相応しいとは言えず、筆者の独り善がり過ぎに過ぎない故に「一つの試論」と言い訳した。特に、拙稿に伏在している、「建築」に対する畏敬と反撥のアンビヴァレントな想念と「建築家」や「作品」に対する批判的イデオロギーとは共に拭い難く、「あるべき建築の創造」を目指して日々邁進されているであろう建築界の各位には受け容れ難い言辞もあると想像している。ただ筆者は、身過ぎ世過ぎの「研究教育」と併行して、長年に亘って（と言っても高高半世紀足らずだが）、「建築」の社会科学を妄想してきたことは間違いないなく、これからも「建築社会研究」なる僭称のもと多面的課題を経巡り続けるだろうと思う。

このような怪しげな「論考」に賞を与えて下さるのは、愚考の危なつかしい徘徊に対する、日本建築協会と読者各位からの、取り敢えずのご寛容と差し当りの叱咤激励（？）だと有難く受け止めさせていただきたい。

与えられるであろう講評を惧れつつ、心からの謝意を表します。



舟橋國男

ふなはし くにお

1940年、大阪市生まれ。1964年大阪大学工学部構築工学科卒業、同大学院修士課程修了、同博士課程単位取得退学。大阪大学助手・講師・助教授・教授を経て、2004年3月定年退官。大阪大学名誉教授。建築計画学、環境行動論を専攻。近年「建築社会研究」を模索。「環境行動論に関する一連の研究」により1997年度日本建築学会賞（論文）受賞。編著「建築計画読本」2004年、大阪大学出版会。

企画：日本建築協会 発行：学芸出版社

出版図書一覧

当協会会員の方で、当会でのご購入を希望される方には、特価：本体価格の1割引＋税にて販売しております。
詳しくは（一社）日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984、E-mail soumu@aaj.or.jp）まで。

最新刊 平成28年7月発行

建築現場のコンクリート技術

コンクリートの基本知識、発注の仕方から、品質管理、調合、打込み、劣化・検査と維持補修まで、「そこが知りたい」「今さらきけない」ポイントを解説。

著者 柿崎正義・玉水新吾
四六判 220ページ
定価 本体2,000円＋税

近刊 平成28年4月発行

直感で理解する！ 構造設計の基本

実務で押さえておくべき項目や設計上の盲点を、難しい数式を用いず、直感的に理解できるよう解説。

著者 山浦晋弘
A5判 216ページ
定価 本体2,400円＋税

近刊 平成27年4月発行

写真マンガでわかる 工務店のクレーム対応術

施主とのコミュニケーション不足から生まれるクレームを網羅し、正しい事前説明とクレーム発生後の対応を解説。

著者 玉水新吾・青山秀雄
四六判 220ページ
定価 本体2,000円＋税

近刊 平成25年12月発行

設計・監理・施工者のための 建築品質トラブル予防のツボ

設計・監理・施工の三者が知っておくべき建築工事の基本知識とトラブル予防のポイントをわかりやすく解説。

著者 仲本尚志・馬渡勝昭
A5判 248ページ
定価 本体2,800円＋税

写真マンガでわかる 住宅メンテナンスのツボ

玉水新吾・都甲栄充 著
A5判 248ページ 定価 本体2,800円＋税

主婦建築家と考える 住まいづくりのウソ？ホント？

井上まるみ 著
四六判 184ページ 定価 本体1,800円＋税

プロが教える 住宅の植栽

藤山宏 著
B5判 176ページ 定価 2,800円＋税

住宅エクステリアの100ポイント

計画・設計・施工・メンテナンス
藤山宏 著
A5判 232ページ 定価 本体2,500円＋税

第二版 環境と共生する建築 25のキーワード

大西正宜 著
A5判 240ページ 定価 本体2,600円＋税

プロが教える キッチン設計のコツ

井上まるみ 著
A5判 224ページ 定価 本体2,300円＋税

建築工事の祭式 地鎮祭から竣工式まで

「建築工事の祭式」編集委員会 編著
A5判 184ページ 定価 本体1,800円＋税

〈プロのノウハウ〉シリーズ

現場直伝！ 躯体工事の100ポイント

中川徹 著
四六判 220ページ 定価 本体2,200円＋税

写真マンガでわかる 建築現場管理100ポイント

玉水新吾 著
四六判 224ページ 定価 本体1,900円＋税

建築主が納得する住まいづくり Q&Aでわかる技術的ポイント

玉水新吾 著
四六判 224ページ 定価 本体1,900円＋税

第三版 建築基準法を読みこなすコツ

高木任之 著
四六判 280ページ 定価 本体2,600円＋税

第三版 都市計画法を読みこなすコツ

高木任之 著
四六判 300ページ 定価 本体2,700円＋税

現場で学ぶ 住まいの雨仕舞い

玉水新吾 著
四六判 224ページ 定価 本体2,000円＋税

主催 日本建築協会

平成28年度 第62回工高生デザインコンクール

設計課題 私のまちのインフォメーションセンター

課題の趣旨

日本を訪問する外国人は年々増加しており、国内の観光地は新旧を問わず人気を集めています。日本の自然や文化に接したいというニーズも増加し、これまで日本人しか訪問しなかった地域にも外国からの観光客が訪れるようになってきました。地域創生が叫ばれ、近年湧き起っている各地のまちおこしは、まちが本来持っている豊かな生活環境を再評価しようとしており、まちが持っている施設や古い建築、民家などを活用しようという取り組み例も増えてきているように思われます。



ネットワーク環境の発展により地域間の情報格差が解消され、社会インフラ整備も充実していく中、今後地域の魅力としての観光資源をもっと積極的に活用し、そのまち独自の魅力を発信できるような仕組みや場が必要となつて

くると考えられます。

訪れる人々がまちの魅力や本質に出逢えるきっかけをつくり、まちの人々との交流を育むような“私のまちのインフォメーションセンター”を提案してください。

設 計 条 件

1. 敷 地：敷地の所在地、大きさ形状とも自由とし、具体的な敷地を設定する。
2. 規 模：延べ面積、構造、階数は自由とする。
3. 所 要 室：使用方法を想定し、必要と思われるスペースを適宜設ける。

所 要 図 等

1. 設 計 説 明：設計意図を表すサブタイトルを必ずつけること。設計趣旨（建物の使い方、立地、周囲の状況等についての説明を含む）
2. 建 築 概 要：敷地面積、建築物の構造、階数、各階床面積および建築面積、延べ床面積などを示す。
3. 敷地周辺図：敷地周辺の環境や状況を示す。縮尺を明示する。
4. 配 置 図：敷地における建物の位置、道路との関係、方位、縮尺を明示する。
5. 平 面 図：室名、寸法を記入する。縮尺を明示する。
6. 立 面 図：縮尺を明示する。（2面以上）
7. 断 面 図：室名、寸法を記入する。縮尺を明示する。（1面以上）
8. 透 視 図 等：設計意図が最も反映するところを表現する。透視図は手書きによる作図を原則とするが、コンピュータグラフィックス、模型写真に代えてもよい。その他必要とされる手書きの図は加えてもよい。

応 募 条 件

1. 用 紙：用紙はケント紙などの厚手の製図用紙A1判（594mm×841mm）1枚を使用し、直接描くこと。トレーシングペーパーと裏打ち用紙の重ね使用や図面のパネル化は認めない。
2. 仕 上 げ：所要図等は手書きによる鉛筆仕上げとする。ただし、色鉛筆による着色は可。なお、所要図等のうち透視図等（模型写真、コンピュータグラフィックスも含む）のほか設計説明を補完する図や写真などは図面に貼り付けてもよい。なお、製図用紙への図表等の印刷出力など上記以外の仕上げは禁止する。

審 査 員（50音順・敬称略）

審査員長 所 千夏／アトリエCK代表
 審査員 一階 聡之／㈱日建設設計部門設計部長
 上羽 一輝／㈱東畑建築事務所設計室長BIM設計リーダー
 大平 滋彦／㈱竹中工務店大阪本店設計部設計第4部長
 神谷 浩司／㈱大林組大阪本店建築事業部建築設計部課長

3. 応 募 資 格：平成28年4月現在、高等学校在籍の生徒で、個人または共同（3人まで）で制作したものとする。

応 募 方 法

1. 応募用紙に、学校名・所在地・学年・氏名を記入の上、封筒に入れ密封し、図面の裏に貼りつけること。（応募用紙が足りない場合は当会HP（<http://www.aaj.or.jp>）からダウンロードして下さい。）
2. 応募作品は学校を通じて提出すること。

締 切 期 日

平成28年9月30日（金）の消印、あるいは受付印のあるものをもって締め切る。

送 付 先

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMMビル7階
 一般社団法人 日本建築協会 第62回工高生デザインコンクール係
 TEL.06-6946-6981 FAX.06-6946-6984
 E-mail : jigyoka@aaj.or.jp URL : <http://www.aaj.or.jp>

入選作品の数および賞

1. 入選作品は10点とする。
2. 入選作品のうちから最優秀賞1点、優秀賞2点を選ぶ。
3. 最優秀賞・優秀賞作品には、賞状および表彰盾を贈り、その他の入選作品には、賞状を贈る。
4. 応募者全員に参加賞を贈る。
※入選作品の著作権は本会に属する。

入選者発表および表彰式

審査の結果は、各学校ならびに本人に通知するほか、本会の会誌「建築と社会」11月号に発表し、入選作品は翌年1月号に掲載する。表彰式は、平成28年11月5日（土）に行う。

河崎 昌之／和歌山大学システム工学部環境システム学科准教授
 戸川 勝之／㈱安井建築設計事務所設計部設計主幹
 橋本 修／㈱昭和設計建築設計部部長
 前田 茂樹／大阪工業大学工学部建築学科准教授
 矢田 朝士／ATELIER-ASH主宰

このコンクールは、高校生の設計技能の向上を目的とし、昭和30年より毎年テーマを変えて開催しています。

Member's Forum

会員投稿の頁



U-35委員会企画 talk baton 07 活動報告

talk baton とは…

若手プラットフォームづくりの活動の一環として、建築を取り巻く他分野のゲストがトークのボタンを繋げていくコミュニケーショントークイベントです。

建築をフィールドとする私たちと毎回のゲストとの対話を通じて、建築が本来持っている多様性やバイタリティを見つめ直し、これからの建築に求められる領域を探っていきます。

U-35委員会Facebookページ

活動内容やメンバーの雑感などざっくばらんに情報をアップしています。ぜひ一度お立ち寄りください。

<https://www.facebook.com/U35.aaj>



今回の会場は大阪府で19番目の府営公園である泉佐野丘陵緑地。難波駅から電車とバスで約50分。快晴の中で汗ばみながら徒歩で約10分。まもなく黄金色へと様変わりする稲穂が広がるのどかな雰囲気を感じつつ歩いていると、緑地出入口にて今回のゲスト渡辺氏が参加者の到着を出迎えてくれた。

■〈つくるコト〉を楽しむ公園

泉佐野丘陵緑地は従来の公園と違い、開園前から地域の方と共にゾーニングを行う、イベントをする等、実験的なつくり方をした、国内初の公園とのこと。

studio-Lは公園の基本計画立案直後から、運営会議やボランティアによる活動の調整等、パークマネジメントを支援している。「従来型の指定管理ではコストが高く、ノウハウも残らない。」ということから、公園づくりに参加するボランティアを募集し、パーククラブを結成。直営管理を行う府との協力体制のもと、開園後1年経過した今も地域と協働しながら公園づくりを続けている。

渡辺「完成形がないことがこの公園の特徴。たとえばボランティアでも、〈つくるコトの楽しみ〉がパーククラブの高いモチベーションを維持できている理由だと思う。世代が違っても〈つくるコト〉を共有できているから、話もかみ合う。」

コトを重視する姿勢は、「公園内に遊具を置かない」方針にも表れている。公園にあるべきモノをつくるのではなく、コトを見つけ、コトを起こすことに注力していることは従来



の公園づくりと異なる点である。

■公園をつくり続けていくために

渡辺「企業グループ大輪会からの寄付金が公園収入の大部分を占めている。公園の性質上、営利事業で収益をあげることはできないが、プログラム利用料など、この公園にある仕組みの検討が必要。」

アクセスの悪さを解消するためにバス停が追加設置される等、少しずつ府内の協力的な動きも起こりつつあるようだ。

「遠方から来訪されるようになることも望ましいのでは。」という意見には、神奈川県藤沢の高校から生徒が研修に来る等、他地域との連携の動きもあるとのこと。

studio-Lは大輪会の寄付金の「人材育成」という枠組で業務委託を受け公園づくりを支援している。しかし公園づくりを持続するためには、自立が必要。studio-Lの支援がなくとも、府とボランティア、地域が協力して公園を運営できる仕組みをつくるのが将来的な課題となる。

■コミュニケーションとコト

渡辺氏は大学時代、海外インターンシップのマネジメントを行う学生NPOに所属。ブラジル・サンパウロで他国スタッフと交流した経験を話してくれた。様々なカルチャーショックを受けた中でも、各国のスタッフの名前を漢字の当て字で書き、プレゼントした時のことが最も記憶に残っているという。外国人スタッフが普段見慣れない毛筆で書いたことで、大いに盛り上がったという。〈名前を書くコト〉によって、言語もわからない他者とコミュニケーションがとれた経験が「どんな人でもコミュニケーションはとれる」という自信を彼に与えてくれたようだ。

渡辺「〈コト〉は僕にとって〈楽しみ〉です。ワークショップでは参加者といかに楽しくコミュニケーションがとれるかが肝になります。僕は日ごろ常にその方法を考えるようにしています。」

talk baton 07 を終えて

今回の座談会は公園内「郷の館」で行われた。隣では子どもが遊んでいて、お母さんが寝ている、という出張型talk batonでしか味わえない雰囲気だった。

開園してもうすぐ2年。地域でつくり続けるこの公園が今後どのような体制をつくり、コトがつくられるのか、注目したい。

対 談 日：2015.09.12
場 所：泉佐野丘陵緑地
(大阪府泉佐野市)
モデレーター：松島 将太 (大建設計)

Member's Forum

会員投稿の頁

U-35委員会企画
talk baton 08 活動報告

talk baton とは…

若手プラットフォームづくりの活動の一環として、建築を取り巻く他分野のゲストがトークのバトンを繋げていくコミュニケーショントークイベントです。

建築をフィールドとする私たちと毎回のゲストとの対話を通じて、建築が本来持っている多様性やバイタリティを見つめ直し、これからの建築に求められる領域を探っていきます。

U-35委員会Facebookページ

活動内容やメンバーの雑感などざっくばらんに情報をアップしています。ぜひ一度お立ち寄りください。

<https://www.facebook.com/U35.aaj>



本町駅にほど近い隠れ家のようなバー「OSAKA SALON」。片山氏の友人のフランス人、ジャンが経営する。1階の居酒屋「百樹」とともに、片山氏が足繁く通うお気に入りの場所。日常業務を終えたばかりの設計者たちが集まり、おしゃれなブルーのジャケットを身にまとった美容師との異色のトークイベントが開催された。パワーポイントなどのスライドや資料を一切使わない語りオンリーの建築と美容についてのトークバトン08。

■ものづくりへの憧れ

片山「16歳で美容師を目指しました。父はサラリーマンでしたが、3つ上の兄は日展の彫刻部門で特選を受賞する彫刻家。昔から何かを創りたいという思いが強かったんだと思いますが、特に兄の影響が大きかったんだと思います。」美容師の前はカメラマンか建築家になりたかった時期もあったと語る。美容師という職業柄、接客中のおしゃべりにより、たくさんの建築設計者や様々な分野のデザイナーの知人も多く、興味のあるデザインや建築についてもとても詳しい。最近では2月にOPENした自らのサロンの解体工事のほとんどをセルフスクラップで実施し、店舗内装も建築家とともにデザインした。店舗内は落ち着きと温かみのあるリラクゼーションサロンとなっている。

■20代での苦悩

片山「もともと手先も器用で、美容師となった20代前半は何でもすぐにできました。大した努力もしないで自分は何でもできると思っていましたね。」

ところが、25歳で通用しなくなった。美容コンテストでこれまで自分が指導してきた、後輩に惨敗する。天狗だった鼻をへし折られた。努力不足と自己流による技術不足がコンテストの舞台ではっきりと表れてしまったと言う。

片山「今考えると、あのときが人生のターニングポイントだったんだと思います。」

期せずして追い込まれた人生に腐らず、持ち前の負けず嫌いの性格により、すぐに前を向くことができた。「上がるしかないと思った。」と語る。

■世界大会で残した経験と実績

2010年、2年に一度開かれる美容の世界大会がドイツで開催される。なんとしても出場するという意気込みで心機一転、これまで住んでいた住居からも引っ越し、彼女とも別れ、全く新しい環境の中で、技術の向上に努めた。

片山「まさしく新しい自分を創っていくという感覚でした。」その年の日本大会で見事優勝し、6泊7日のドイツ大会に出場を決めた。初の世界大会ではカット&ブロー部門で個人7位、日本代表ヘアショーでシルバーメダルという成績を残した。

片山「世界の舞台の表彰式での『JAPAN!!』は震えた。あの感動は麻薬。」絶対に次の大会でもっと結果を残すというモチベーションがさらなる美容技術の飛躍を生んだ。

続く2012年のタイ大会は日本代表チームのリーダーとして出場し、日本代表ヘアショーとあわせて、個人でもブライダル部門で準優勝（シルバーメダル）を果たす。このとき自分は美容師として今後も生きていくという決意ができたという。



何も資料を用いないトークのみ



片山氏の新店舗



バーの屋根裏空間でのトークイベント風景

Member's Forum

会員投稿の頁

■頭の中だけの美容設計図

片山「カットにも設計図があるんですよ。」基本的には通りに対して何度で引くかという設計図だ。美容独特の言葉で「引く」という言葉は、頭の球体形状に対して櫛をまっすぐに引き、直線と直線とを組み合わせて曲面を3次元で創りだしていくことを示す。

片山「何気なく引くのではなく、1本1本意味のある線として引き、頭の中にだけある美容設計図に基づいてカットしている。」カット中、自分が何回引いたか、完成までにあと何回引くかはほぼ完璧にわかっているという。建築設計者としてなんとなく設計図を引いたことがないか、常に自分が引く線に意志をこめているか、少し心が痛くなる発言であった。

片山「ブライダルなどで用いるアップスタイルは特に建築に似ています。」アップスタイルはいかに少ないピン（柱）で髪を留めるか、構造的になりたさせるかが醍醐味となる。

片山「どこにピンを打つか。多く打つと誰でも留めれるけどそれじゃあグサいでしょう？」

少ないことのかっこよさ、ミース・ファン・デル・ローエのless is moreのようだ。さらに、片山氏は続ける。

片山「一人一人異なる髪質と対話しながら、ピンの位置を的確に決定する。どうやって成り立ってるのかわからせない、驚きのある支持方法ってのは技術と感性ですね。」片山氏の語る通り、設計者や施工者が想定外の事象と格闘しながら現場を納めていくことや、少ない柱やキャンチレバー構造などで一見不安定に見える建築が、こまやかな構造検討によりダイナミックで美しい建築となることと大いに通じる。

生きた髪と正確に対話していくことで最終的に美しい設計図が頭の中に生まれるのである。

■カットチェアは使わない

カットする上で普段から大切にしていることについて伺った。

片山「最近特に、自分の体の使い方を求めています。いかに良いものを創るかは、自分の体とそのバランスにかかっていると感じています。正確に体を使い高い技術でカットすることで、長持ちする持続的なカットができるんです。美容師としては、経営的に早く来てほしい気持ちもなくはないんですが、僕は3カ月保つことのできるカットを心がけています。」

美容師がよく利用するカットチェアを片山氏は使わない。

片山「カットチェアに座ると横の動きしかできなくなるんです。それは3次元じゃないんです。体を100%使えていないということなんです。」片山氏は何が正しいのかわからない出口のない技術の追求であると言うが、自分の体をどう使うのか？が今のテーマのようだ。

※カットチェア：美容師カット中に座る椅子

■主人（あるじ）にストレスなく

片山氏は自分の左手（櫛を持つ手）を「主人」と呼ぶ。自分の技術を正確に伝える定規だという。ちなみに片山氏は右利き。自分の主人がストレスなく引けるように自分が気を使う。常に思い通りの角度、強度で定規を添えられるように自分が動く。10万本の髪に線を引く作業は日々の鍛錬によって培った技術によって成り立っている。

■美容師と一緒につくり上げる職人

美容師は一見華やかなイメージの職業だと考える人が多いが、片山氏は美容師を黒子の職人だと考えている。

片山「お客さんは自分の思ったヘアスタイルにしてくれる美容師がうまい美容師だと思っているんです。寸分狂わない正確なカットを施しても思ったものと違うと満足してもらえない。」若い美容師に多いメディアを意識した華やかなカットではなく、お

客さんの要望をいかに実現できるか。

その為の技術とアイデアの引き出し、感性や感覚を磨くことが大切だと考える。そういう意味で美容師は決して華やかな職業なんかではなく、とても地味だと言う。

ただ、同時に要望にこたえ、さらなる提案も行う。最終的に当初の要望とまったく異なるスタイルとなることももちろんある。対話しながらお客さんと一緒に創りあげていく共同作業でこそその人に適したよいカットが生まれる。知らない間に美容師によって教育されていることもあるはずです。とのこと。

本当に日々の設計業務の中で建築主に対して考えていること、そのものではないかと感じる。

■これからのこと

片山氏は今後、独立し、一国一城の主となる。（2015年10月時点 ※2016年2月に独立し新店舗をOPEN）

片山「業種問わずだと思いますが、今後僕たち35歳世代がすることはどれだけ自分のことを超えられる人材を育てていけるか。ではないだろうかと思っています。自分の店をもち、今後美容師を雇っていく立場となった今、自分の発言で人の人生を変えてしまう可能性があることに対して恐怖も感じています。自分の思い通りというよりは調和と協調による切磋琢磨が大切だと感じています。」

また、美容師としてできることとして、お客さんへの技術の提供だけでなく、美容師の地位向上と店舗を構える地域の発展まで見据えている。

片山「職業なんて単なるフィルターです。建築家も美容師も自分が人として豊かで楽しい生活を送っていないと、いいものなんか創れません。一緒に頑張りましょう。」

| talk baton 08 を終えて

今回のテーマは「建築と美容」。鉛筆と想像力でまだ見えない空間を創り出す建築家。鋏とイメージでまだ見えないヘアスタイルを生み出す美容師。ともに創造性を職能とした非常に深い共通点を感じることができた。

対 談 日：2015.10.26
場 所：OSAKA SALON
（大阪市西区）
モデレーター：宮武 慎一
（安井建築設計事務所）



美容師と建築家は似ていると語る片山氏の逆毛実演



ジャンのバーでの延長トーク

information

1 | ダリ展



サルバドール・ダリ《奇妙なものたち》1935年頃
40.5×50.0cm、板に油彩、コラーージュ
ガラ＝サルバドール・ダリ財団蔵
Collection of the Fundació Gala-Salvador Dalí, Figueres
©Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, JASPAR, Japan, 2016.

スペインに生まれたサルバドール・ダリ（1904－89年）は、もっとも有名な20世紀の芸術家の一人である。1929年に彗星のようにパリの美術界に登場し、シュルレアリスムを代表する画家として活躍するが、やがてアメリカに進出、大きな成功と人気を獲得する。その一方で、映画や演劇、ファッションなどの異分野へも積極的に参画して、ウォルト・ディズニーやエルザ・スカパレリなどとコラボレーションを行い、次々と著作を発表して、ジャーナリズムやメディアにも盛んに登場した。芸術と芸術家のあり方を変革したダリは、まさに現代美術の先駆者の一人といえることができるだろう。本展は、ガラ＝サルバドール・ダリ財団（スペイン、フィゲラス）、サルバドール・ダリ美術館（アメリカ、セントピーターズバーグ）、国立ソフィア王妃芸術センター（マドリード）という世界の3つの主要なダリ・コレクションから招来される作品を中心に、国内所蔵の重要作品を加えて、約200点によって多面的なダリの世界を紹介する、日本では約10年ぶりとなる本格的な回顧展である。

期 間 7月1日(金)～9月4日(日)

9:00～17:00

※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日（ただし7/18は開館）

会 場 京都市美術館（岡崎公園内）
京都市左京区岡崎円勝寺町124
TEL.050-5542-8600（ハローダイヤル）

観 覧 料 一般1,600円、高大生1,100円、小中生600円
＊障がい者手帳等をお持ちの方は無料

2 | デトロイト美術館展
～大西洋を渡ったヨーロッパの名画たち～

デトロイト美術館（Detroit Institute of Arts, 通称DIA）は、アメリカ合衆国ミシガン州・デトロイトに所在し、古代エジプト美術から現代美術まで65,000点以上の作品を所蔵するアメリカを代表する美術館の一つである。1885年に開館して以来、自動車業界の有力者らの資金援助を経て世界屈指のコレクションを誇る美術館として成長したデトロ



フィンセント・ファン・ゴッホ
《自画像》1887年
City of Detroit Purchase

イト美術館は、アメリカでゴッホやマティスの作品を初めて購入した公共美術館としても有名であり、今では年間約60万人が訪れている。

このデトロイト美術館が存続の危機に陥ったのが、2013年7月のデトロイト市財政破綻であった。市の深刻な財政難により、美術館収蔵品の売却の可能性も取り沙汰されたが、国内外からの資金援助により収蔵品は売却されことなく存続した。危機を乗り越え、今なお美術館のコレクションの中核を成しているのが、モネ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌ、マティス、ピカソなど近代ヨーロッパ絵画の巨匠たちによる作品である。

本展では、数々の傑作の中から選りすぐりの、日本初公開15点を含む全52点を紹介する。

期 間 7月9日(土)～9月25日(日)

9:30～17:00

※入場は16:30まで

休 館 日 月曜日

（ただし7/18、8/15、9/19は開館、7/19は休館）

会 場 大阪市立美術館
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
TEL.06-4301-7285

（大阪市総合コールセンター なにわコール）

観 覧 料 一般1,500円、高大生1,000円

＊中学生以下無料

＊障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

＊本展は大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金

information

3

ボストン美術館所蔵
俺たちの国芳 わたしの国貞

歌川国芳
「相馬の古内裏に将門の姫君瀧夜叉妖術を以て味方を集むる
大宅太郎光国妖怪を試さんと爰に来り竟に是を亡ぼす」
弘化元（1844）年頃
Museum of Fine Arts, Boston. William Sturgis Bigelow Collection,
11.30468-70 Photograph © Museum of Fine Arts, Boston

アメリカを代表する美の殿堂・ボストン美術館は、古今東西の優れた美術品を網羅する約40万点のコレクションで知られている。そのうち約10万点を数える日本美術コレクションの半数以上を占める浮世絵の中から、江戸後期の人気絵師、歌川国芳（1797～1861）と、歌川国貞（1786～1864）による錦絵170件を本展覧会で展示する。

この二人は役者絵の巨匠・初代歌川豊国の門下で、江戸後期の錦絵黄金時代を築いた絵師である。国芳は不遇にめげず努力を重ね、当時日本でも大人気の「水滸伝」を主題とする錦絵で一躍脚光を浴び、以後中国や日本の合戦や怪異譚を豪快かつ大胆に描いたものや、ユーモアあふれる戯画の分野で無双の表現力を発揮した。国貞は、当時の歌舞伎界のトップスターたちと親交があり、役者絵の第一人者としての立場を確固たるものにする。美人画の分野でも時代の王道をいく表現を確立し、幕末まで浮世絵界の第一人者として活躍した。

本展は、当時最大の娯楽・歌舞伎の演目になぞらえた二幕13章で構成される。文化・文政期から激動の幕末期まで、競いあうように描き続けた二人の巨匠、歌川国芳と歌川国貞。この二人の錦絵から、江戸の「俺たち」「わたし」が夢見た世界や、胸躍らせた娯楽や体験を実感していただきたい。

また、神戸展ならではの魅力として、7月31日（日）まで全作品の写真撮影が可能である。（フラッシュ撮影は禁止）

期 間 8月28日(日)まで
9:30～17:30（土曜日は19:00まで）
※入館は閉館の30分前まで
休 館 日 月曜日（ただし7/18は開館、7/19は休館）
会 場 神戸市立博物館
神戸市中央区京町24番地
TEL.078-391-0035
観 覧 料 一般1,500円、高大生1,100円、小中生600円

＊小学生未満無料
＊障がい者手帳等をお持ちの方は無料
＊65歳以上で「神戸市すこやかカード（老人福祉手帳）」
持参の方は当日一般料金が半額
＊神戸市および隣接6市1町、淡路3市、鳴門市、徳島市、篠山市の小中学生は「のびのびパスポート」
提示により無料

4

特別展「始皇帝と大兵馬俑」

紀元前221年、秦国の王・嬴政は中国大陸を初めて統一し、最初の皇帝「始皇帝」を名乗った。始皇帝はみずからの巨大な陵墓を造らせ、そのほど近くに約8千体もの陶製の軍団「兵馬俑」を埋めさせた。1974年に発見され、今なおつづく兵馬俑の発掘は、始皇帝の知られざる歴史を次々と明



《兵馬俑（右から）跪射俑／軍吏俑／將軍俑／步兵俑／立射俑》秦始皇帝陵博物院蔵
©陝西省文物局・陝西省文物交流中心・秦始皇帝陵博物院

らかにし、新しい驚きをもたらしている。本展は、最新の発掘成果を採り入れながら、始皇帝と秦王朝にまつわる貴重な文物を一堂に集めて紹介するものである。20世紀の考古学で最大の発見と謳われる兵馬俑のなかでも選りすぐりのものを揃えて、絶対権力者にふさわしい圧巻の造形美を示すとともに、始皇帝が地下を含む陵墓一帯に空前の規模で築き上げた「永遠なる世界」の実像に迫る。

期 間 7月5日(火)～10月2日(日)
10:00～17:00（金曜日は19:00まで）
※入場は閉館の30分前まで
休 館 日 月曜日（ただし7/18、9/19は開館）
会 場 国立国際美術館
大阪市北区中之島4-2-55
TEL.06-6447-4680（代）
観 覧 料 一般1,500円、大学生1,200円、高校生600円
＊中学生以下無料
＊障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

本欄掲載の1～4の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（82円）を日本建築協会事務局までお送りください。

暑中お見舞申し上げます

平成28年盛夏

亀井 忠夫

日建設計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

近藤 康之

不二熟学工業 株式会社
代表取締役

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-1-1 TEL(06)6261-4321

千種 幹雄

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒531-0072 大阪市北区豊崎4-12-10 TEL(06)7174-8787

北野 晶平

ダイダゲン 株式会社
代表取締役社長

〒550-8520 大阪市西区江戸堀1-9-25 TEL(06)6447-8000

理事

佐野 吉彦

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

理事

中井 進

日建設計コンストラクション・マネジメント
代表取締役会長

〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-27 TEL(03)5803-9770

会長

香西 喜八郎

株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-6-10 TEL(06)6202-0391

副会長

設楽 貞樹

株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役執行役員

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代



暑中お見舞申し上げます

平成28年盛夏

設計事務所有志

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表建築家 瀬戸本 淳
代表取締役COO 亀 川 尚 史
代表取締役CFO 木 幡 秋 彦
代表取締役CTO 小 島 寛 也

〒650-0024 神戸市中央区海岸通2-2-3 TEL: 078-333-0138 <http://www.jsao.co.jp>

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長 香 西 喜 八 郎

本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-6-10 TEL (06) 6202-0391

大阪・東京・名古屋・九州・東北

<http://www.tohata.co.jp>



日建設計

代表取締役社長 亀 井 忠 夫

東 京	102-8117	東京都千代田区飯田橋2-18-3	TEL (03) 5226-3030
大 阪	541-8528	大阪市中央区高麗橋4-6-2	TEL (06) 6203-2361
名 古 屋	460-0008	名古屋市中区栄4-15-32	TEL (052) 261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐 野 吉 彦

本 社: 〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371(代表)
支 社: 大 阪・東 京・名 古 屋・広 島・九 州 www.yasui-archi.co.jp

建設業有志



時をつくる ところで創る

大林組

取締役社長 白石 達

本社 東京都港区港南 2-15-2 TEL 03 (5769) 1111

専務執行役員 鶴田 信夫
大阪本店長

大阪本店 大阪市北区中之島 3-6-32 TEL 06 (6456) 7000

子どもたちに誇れるしごとを。

清水建設株式会社

取締役社長 井上 和幸

専務執行役員関西支店長 池田 耕二

本社 〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号 Tel. 03 (3561) 1111
 関西支店 〒541-8520 大阪市中央区本町三丁目5番7号 御堂筋本町ビル Tel. 06 (6263) 2800

大成建設
TAISEI

For a Lively World

社長 村田 誉之
 常務執行役員 金井 隆夫
 関西支店長

<http://www.aisei.co.jp/>

想いをかたちに 未来へつなぐ



TAKENAKA

竹中工務店 取締役社長 宮下正裕

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13 tel: 06-6252-1201

〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1 tel: 03-6810-5000



戸田建設株式会社

代表取締役社長 今井 雅則
 常務執行役員大阪支店長 光 用 薫

本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 TEL 東京03(3535)1354
 大阪支店 〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-47 TEL 大阪06(6531)6095
 支店 東京・首都圏土木・千葉・関東・横浜・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州



夢のレンガを積みあげよう

都窯業株式会社

〒530-0047 大阪市北区西天満 2-8-1 大江ビル

Tel (06)6367-0389 Fax (06)6367-5567

工房 三重県伊賀市西山 伊州窯

<http://www.miyakoyogyo.com> E-mail: info@miyakoyogyo.com

建材・学校・団体有志等



大阪工業技術専門学校

OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

建築学科・インテリアデザイン学科・大工技能学科・設備環境デザイン学科・建築設計学科(リカレント生対象)
建築学科Ⅱ部(夜間)・フレックス建築学科(夜間・単位制)・建築士専科(二級建築士受験資格取得者対象)

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目8番24号 ☎ 0120-0910-19 🌐 <http://www.oct.ac.jp/> Tel. 06-6352-0093



一般社団法人 日本建築材料協会

会 長 立 野 純 三

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階 TEL(06)6443-0345 FAX(06)6443-0348
<http://www.kenzai.or.jp/>



一般社団法人 日本建築協会

会 長 香 西 喜八郎

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 TEL(06)6946-6981



一般社団法人 日本建築協会中国支部

支 部 長 高 松 隆 夫

〒732-0805 広島市中区十日市町1-1-9 (相生通り鷹匠ビル4階山陽工業(株)内) TEL(082)232-6471



一般社団法人 日本建築協会東海支部

支 部 長 篠 原 佳 則

〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19 (名古屋商工会議所ビル9階) TEL(052)201-2201



一般社団法人 日本建築協会京都支部

支 部 長 長 瀬 博 一

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入橘町641 京都建設会館別館 TEL(075)211-2857

日本建築協会 月間の動き

平成28年 5月

理事会

第2回常任理事会

5月25日(水) 16:00~17:40

日本建築協会会議室

出席者 香西会長ほか8名

- 議 事 (1) 平成27年度事業報告(案)
(2) 平成27年度決算報告(案)
(3) 平成27年度公益目的支出計画
実施報告
(4) 平成28年度事業計画(案)
(5) 平成28年度収支予算(案)
(6) 100周年記念事業
(7) 第15回「建築と社会賞」選考
結果
(8) 理事、監事、評議員選任の経
過報告
(9) KENTEN2016ー建築材料・
住宅設備総合展出展
(10) 名誉会員推薦の件(小宮三辰
氏)

編集委員会

第2回広告企画・編集合同委員会

5月17日(火) 18:00~19:40

日本建築協会会議室

出席者 勝山委員長ほか7名

- 議 事 (1) 6月号特集 第63回青年技
術者
(2) 7月号特集「おもてなしと建
築」
(3) 8月号特集 UR特集
(4) 9月号特集 人口減少社会の
まちづくり(仮)
(5) 10月号特集「人智を超える」
または「人間の挑戦」あるい
は「人間に不可能はあるのか」
(6) 広告依頼先検討

第2回「建築と社会」100周年記念号編集委員会

5月17日(火) 17:00~18:10

日本建築協会会議室

出席者 勝山委員長ほか10名

- 議 事 (1) 委員紹介
(2) 企画の検討

第1回計画系分科会

5月27日(金) 19:00~20:15

日本建築協会会議室

出席者 田中幹事ほか2名

議 事 (1) 1月号特集の企画

第2回インテリア・住宅系分科会

5月31日(火) 19:30~20:25

日本建築協会会議室

出席者 黒柳幹事ほか4名

議 事 (1) 12月号特集の企画

第2回構造分科会

5月13日(金) 18:15~19:50

日本建築協会会議室

出席者 宮久保幹事ほか5名

- 議 事 (1) 構造の頁の企画
(2) 11月号特集の企画

第2回施工材料分科会

5月24日(火) 17:00~18:20

日本建築協会会議室

出席者 吉田幹事ほか4名

議 事 (1) 2016年特集の企画

第2回法令分科会

5月18日(水) 15:15~16:45

日本建築協会会議室

出席者 磯林幹事ほか4名

- 議 事 (1) 法令コーナーの企画
(2) 2016年特集の企画

事業委員会

第2回情報見学小委員会

5月12日(木) 18:00~18:50

日本建築協会会議室

出席者 脇田委員ほか6名

議 事 (1) 今後の見学先検討

第2回U-35小委員会

5月9日(月) 19:00~22:00

東畑建築事務所5階会議室

出席者 興津リーダーほか7名

- 議 事 (1) 平成28年度の活動予定
(2) 次回予定
(3) その他

出版委員会

第2回出版委員会

5月20日(金) 18:00~19:30

日本建築協会会議室

出席者 西委員長ほか6名

- 議 事 (1) <プロのノウハウ>と特装本
の経過報告
(2) 制作進行中の書籍
(3) 出版記念講演会
(4) 今後の出版テーマ

教育委員会

第2回大阪府住まいづくり教育普及協議会

5月20日(金) 10:30~12:00

大阪建築会館会議室

- 議 事 (1) 出前講座実施について
(2) 平成28年度総会について
(3) その他

100周年関連事業委員会

第2回10年委員会

5月26日(木) 18:30~19:30

安井建築設計事務所会議室

出席者 設楽委員長ほか4名

- 議 事 (1) 学生のための見学会報告
(2) そぞろ歩く御堂筋 今後に
ついて

100周年記念事業委員会

第2回幹事会

5月25日(水) 18:00~20:30

日本建築協会会議室

出席者 設楽委員長ほか6名

議 事 (1) 各WG経過状況報告

見学会

第15回学生のための建築現場見学会

「中之島フェスティバルタワー・ウエスト
新築工事」

5月11日(水) 13:30~16:30

講師 渡辺 純(㈱日建設計)

杉慰 諭・丸山和倫(㈱竹中工務店)

参加者 20名

編集委員会(平成28年度)

■副会長

設楽 貞樹
本多 友常

■編集担当理事

西 博康
松崎 公一
佐藤 榮一
杉本 浩
竹中 統一
松本 眞一
吉村 英祐
米井 寛

■委員長

◎勝山 太郎

■副委員長

○戸川 勝之

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡
鈴木 克彦
△田中 直人
松田奈緒子
三宅 次郎
守井 辰
吉村 英祐

★建築計画系

神戸 嘉也
下坂 浩和
中辻 浩介
野田 隆史
東 拓郎
△樋口 展寛
松岡 英緯
三谷 帯介
米山 剛史
渡部 剛

★インテリア・住宅系

今井 充彦
川合 隆之
工藤 理隆
△黒柳 亮
齊藤 誠
塚口 洋之
ペリー史子

■構造分科会

伊藤 栄治
岡田 健
岸本 光平
司馬 勢也
瀧野 敦夫
角田 耕一
橋本 宗明
△宮久保秀樹
向井 洋一

■設備分科会

有尾清二郎
北野 勝也
佐々木章二
笹倉 睦
高村 聡
寺井 千佳
夏井 重行
△橋本 直樹
藤原 謙一
榊井 貴廣
宮崎ひろ志
森山 正和
山本 雅洋

■施工材料分科会

東 琢
木谷 在憲
桜井 和男
高橋 秀一
藤丸 啓一
山口 紀宏
△吉田 正友

■法令分科会

△磯林 雅之
岡本 亮二
黒川 正樹
河野 学
小林 智成

■作品作風小委員会

東井 嘉信
居内 章夫
池上 明
稲垣 和江

▲加嶋 章博

菊池 浩輔
倉橋 尉仁
倉渕奈千子
澤田 純一
高木 秀晃
鞆野 淳司
豊田 充広
西田 佳代
芳谷 晴彦
増田 敬彦

■広告企画小委員会

小川 雄介
小山 昭
金築 雄
野山 将男
藤田 昌宏
▲前田 衛
山辻 直樹

(順不同)

◎委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印刷 2016年6月29日
発行 2016年7月1日
発行人 一般社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電話 06-6946-6981
印刷所 ㈱中島弘文堂印刷所
デザイン 多田正治(多田正治アトリエ)
定価 1230円(税込)

日本建築協会東海支部主催 日月潭 ラルーに泊まる建築 の旅（台湾）

この講習会は、建築CPD情報提供
制度認定プログラム申請中です。
(公社)愛知建築士会
(公社)日本建築家協会

- ①日月潭風景管理处（團紀彦設計）
- ②台中国立歌劇院（伊東豊雄設計）
- ③東海大学チャペル
（陳其寬チェン・チークワン設計）
- ④国立公共資訊図書館
（伊東豊雄設計）
- ⑤台湾大学社会科学部棟
（伊東豊雄設計）
- ⑥故宮博物院
- ⑦九份
- ⑧世界貿易センター広場（伊東豊雄）、
台北101
- ⑨エスリテホテル（伊東豊雄設計）

ラルーに1泊して、台湾の中で最も美
しい湖と言われている台湾最大の湖、
日月潭を満喫した後、台中、台北の建
築を見学します。

日 時 2016年**11月3日**（木・祝）
～**6日**（日）

定 員 20名程度
締 切 **8月31日**（水）

■日程

※予定は予告なく変更することがあ
ります

- 3日 JEL821 セントレア 9時40分
台北11時45分着
台北⇒台中（新幹線）⇒
日月潭 **ラルー泊**
- 4日 日月潭風景管理处見学
台中に移動（昼食）
台中国立歌劇院見学 **台中泊**
- 5日 東海大学チャペル見学
国立公共資訊図書館見学
台北移動 下記オプション
A：台湾大学社会科学部棟と
故宮博物院 5,000円
B：九份 6,000円
夜市 **台北泊（エスリテホテル）**
- 6日 ワールドトレードセンター
JAL822 台北15時45分発
セントレア19時35分着

■旅行代金

参加人数により異なります。

20名以上 155,000円

20名以下 170,000円

※2名一室の利用

1人部屋の追加料金 48,000円

他にサーチャージなど 8,170円

客室数に限りがあるためタイプにより
変更の可能性があります。

（料金例） 3日目のオプションをA選択し、1人部屋を希望されない場合は
下記金額（予定）です。

<料金例>		単価	人数(例)	合計	総計
基本料金（変更の可能性あり）		155,000円	1	155,000円	168,170円
サーチャージ		8,170円	1	8,170円	
3日目OP	A：故宮博物院	5,000円	1	5,000円	
	B：九份	6,000円	0	0	
一人部屋 48,000円		48,000円	0	0	

■申込方法

- ①催し名
- ②氏名（フリガナ）
- ③所属
- ④電話番号
- ⑤旅行申込書送付先の住所と、FAX番
号もしくはE-mailアドレス
上記項目を明記しFAXまたはE-mailで、
申込先まで送付してください。

■申込先

（一社）日本建築協会 東海支部
事業委員会 宛
Tel：052-201-2201/
Fax：052-201-3601
E-mail info@ajj-tokai.jp

正式なお申込書は、記入いただい
た連絡先に、後日送付いたします。



ホテル「ラルー」ケリー・ヒル（Kerry Hill）設計
（オーストラリア）

日月潭 ラルーに泊まる建築の旅（台湾）に申し込みます

氏 名①		所 属	
氏 名②		電話番号	
日本建築協会会員種別（○付けください）		個人会員	団体会員 非会員
連絡先住所と 〒 E-mailまたは FAX No.：			

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応できるように

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

《プロのノウハウ》

建築現場のコンクリート技術

柿崎正義・玉水新吾 著 日本建築協会 企画

四六判・220頁・本体 2000円＋税

ポイントを
わかりやすく解説。

「そこが
知りたい！」

発注から品質管理、
調査(配合)、打込み、
劣化・検査と維持補修まで、
仕事の流れにそって

乾燥収縮ひび割れ



エフロレッセンス



結露



よくある
工事のトラブル
事例集付き



学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

<http://www.gakugei-pub.jp/>
E-mail info@gakugei-pub.jp